高知県立大学
University of Kochi

社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第 ２ ８ 号
２０２６年

（2025年度自己点検評価資料）

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515　高知市池2751-1

Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）
http://www.u-kochi.ac.jp/

教育目的・3つのポリシー

【教育研究上の目的】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成することを目的とする。

（１）地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成
ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。
（２）社会福祉実践能力の養成
各種の福祉ニーズに対応できる専門的技能を修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。
（３）保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成
高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

【ディプロマ・ポリシー】

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

（知識・理解）
１　現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
２　人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

（汎用的・実践的技能）
３　多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
４　コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

（態度・志向性）

5　社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。

6　ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

（総合的な学習経験と創造的思考力）

7　個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。

8　総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

【カリキュラム・ポリシー】

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

1　共通教養教育科目

（１）共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、数理・データサイエンス・人工知能（AI）の基礎的な知識・技能（データサイエンス科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。

（２）英語コミュニケーションは１、２年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。

（３）可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

2　専門教育科目

（カリキュラムの構造・教育内容）

専門教育科目については、ソーシャルワークを基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識･技術を修得するために１１科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、１１科目群のうち、「基本科目」･「社会福祉制度科目」･「からだとこころの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」･「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」･「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」･「介護福祉実践科目」･「精神保健福祉実践科目」･「総合科目」を置いている。

（履修方法・順序）

基礎段階の科目は、主に１～２年次に履修する。応用段階の科目は、主に２～３年次に履修する。発展段階の科目は、主に３～４年次に履修する。また、社会福祉領域における

ソーシャルワークに必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

（教育方法）

（１）『社会福祉学部カリキュラム構成図』『社会福祉学部カリキュラム・ツリー』『社会福祉学部履修モデル』を提示し、履修指導を行う。

（２）各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

（評価）

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

【アドミッション・ポリシー】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ､社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

求める学生像

１　高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力を有する人〔知識・教養〕

２　人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕

３　自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕

４　地域や家族の福祉課題に関心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕

５　他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜（県内・全国)、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

・一般選抜（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行

います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・一般選抜（後期日程）
　基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己 PR 書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

・学校推薦型選抜（県内・全国）
　学校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

・社会人選抜
　社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

・私費外国人留学生選抜
　日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

目　　次

Ⅰ．　２０２５年度を振り返る

１．　社会福祉学部活動の概要及び自己点検評価 ･････････････････ 1
２．　2025 年度 社会福祉学部の主要行事 ･････････････････････ 5
３．　2025 年度 社会福祉学部　時間割 ･････････････････････････ 6

Ⅱ．　社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2025 年度）･････････････ 8
1.　杉　原　俊　二 ･････････････････････････････････ 10
2.　田　中　き　よ　む ･････････････････････････････ 13
3.　長　澤　紀　美　子 ･････････････････････････････ 17
4.　西　内　章 ･････････････････････････････････ 21
5.　西　梅　幸　治 ･････････････････････････････ 24
6.　矢　吹　知　之 ･････････････････････････････ 27
7.　加　藤　由　衣 ･････････････････････････････ 31
8.　河　内　康　文 ･････････････････････････････ 33
9.　田　中　顕　悟 ･････････････････････････････ 35
10.　辻　真　美 ･････････････････････････････ 38
11.　遠　山　真　世 ･････････････････････････････ 43
12.　福　間　隆　康 ･････････････････････････････ 45
13.　井　上　夏　子 ･････････････････････････････ 47
14.　清　家　庸　佑 ･････････････････････････････ 49
15.　田　中　眞　希 ･････････････････････････････ 52
16.　湯　川　順　子 ･････････････････････････････ 54
17.　行　貞　伸　二 ･････････････････････････････ 56
18.　稲　垣　佳　代 ･････････････････････････････ 58
19.　乾　由　美 ･････････････････････････････ 60
20.　上　杉　麻　理 ･････････････････････････････ 62
21.　大　熊　絵　理　菜 ･････････････････････････ 64
22.　玉　利　麻　紀 ･････････････････････････････ 66
23.　山　本　大　輔 ･････････････････････････････ 69

Ⅲ．　社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧（2025 度）…… 71
１．教務委員会 …… 72
２．入試委員会 …… 74
３．学生委員会 …… 76
４．実習委員会 …… 77
５．就職委員会 …… 79
６．広報委員会 …… 80
７．介護人材確保部会 …… 81
８．キャリア支援委員会 …… 88
９．健康長寿研究センター …… 91
10．高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 …… 92
11．災害対策プロジェクト …… 96
12．総務・予算委員会 …… 98
13．国試対策支援委員会 …… 99

Ⅳ．　学生を中心とした活動

１．国家試験に向けての取り組み …… 101
２．Ｐシスターズ …… 102
３．イケあい …… 103
４．かんきもん …… 104

Ⅴ．卒業論文題目一覧（2025 年度） …… 106

編集後記

I

2025年度を振り返る

社会福祉学部活動の概要及び自己点検評価

学部自己点検評価委員会【学部長　長 澤　紀 美 子】

１．学部の組織（教員体制）・活動

1）目標　円滑な学部運営のための教員体制の強化

2）実施状況（社福：社会福祉士、精神：精神保健福祉士、介護；介護福祉士の各養成課程）

〇2025年度4月に准教授及び講師（精神）、講師（リハ学）の計３名が着任。また2名が昇任（講師→准教授）。**計23名**　（職位構成：教授6名、准教授6名、講師5名、助教6名）。

〇資格（コース）別教員構成：福祉基礎4名、社福9名、介護6名、精神4名

3）評価

精神コースの教員体制が４名となり欠員が６年ぶりに充足、指導体制の強化／将来的な定年退職者の増加に備え、昇任人事（准教授職2名）を行い、大学院教育担当者を補充。

4）次年度の目標

2026年度より社福の助教１名の確保により助教業務の分担と社福実習の安定化と図ると共に、代替教員が担っていた実習補助業務の継続を検討する。

２．教育（専門教育の質の向上に資する活動）

1）目標

①R9 年度から導入する新カリキュラムの策定と、社福・精神の厚労省の新カリ（R3 年度より順次導入、R6 年度末に新カリでの初卒業生）の課題を整理する。

②【教育の質保証】新カリの導入に伴う DP と CP の改訂／授業評価やルーブリック評価の活用の検討

③データサイエンス科目の履修指導及び ICT を用いた専門教育の検討【継続】

④国試対策を強化し、３福祉士の国家試験の合格率の向上に繋げる。【継続】

2）実施状況　＆　3）評価

〇新カリのWGを中心に「育成する人材像」作成、DPの見直し、CPの改訂と科目群の再編、ニーズや人材像に応じた科目の改廃を行った。

〇DPに基づいた学修成果の評価指標による学習到達度評価アンケートを4回生に実施。

学習到達度アンケート（32項目4件法）において、「DPで目指す項目」の到達度では、最も高い4/高い3の評価の合計は、令和2年度97%、令和3年度99%、令和4年度97%、令和5年度99%、令和6年度98.75%、令和7年度は99.1%と従来同様の高い結果。「4年間の学習についての満足度」項目では、最も高い4/高い3評価の合計は94.2%であった。双方から、本学部の教育の質は保証されていると考えられる。また卒業研究のルーブリック評価(修正版)の運用を継続した。今後も学習成果の経年的推移を確認し、教育の質保証に取り組んでいく。

・複数の講義やゼミで、文献検索・レビュー、DBやオンライン資源の利用、データリテラシー、AI活用を適宜実施していることが確認された。これらの科目によるリテラシー向上の成果を評価し課題を検討する必要がある。

〇国家試験対策（国試対策委員会）

国試合格率の維持・向上に向けて、４回生に対して、専任教員による国試対策講座７科目18講座及び卒業生による対策講座１講座、過去問対策４回、模擬試験３回、学生自身が企画する国試対策勉強会２回を実施し、66名が参加した。

※第25期生（2025年度卒業生）の３福祉士合格率

①社会福祉士 66/66=100%（平均60.7%）［全国1位/186校，*1位/46校］*受験者50人以上/新卒　※学部設置以来初の100%を達成

②精神保健福祉士 25/25=100％（平均78.2％）［全国1位/77校，*1位/19校］*受験者20人以上/新卒　※継続して100％を維持（受験者・合格者数は昨年度の約3倍）
③介護福祉士 7/8 =87.5％(平均70.1％)（受験生10名未満のため順位出ず）
※例年100％を維持していたが、1名のみ不合格。

4）次年度の目標
①**学部の優位性（福祉士のダブル資格取得と合格率の高さ）を維持する実習演習教育の充実及び国試対策支援、学生の主体的な学びの強化**に向けた取り組みを継続して進める。
②【教育の質保証】**新カリキュラムのスムーズな導入**を目指し、カリキュラム・マップ、DP・CP等一貫性のあるカリキュラムの構造化、担当者の検討や本学の特色となる教育内容を検討する。
③今年度実施した5回の手話講座について成果と課題を検証しながら**10回の講座に展開し**、情報保障のできる福祉士の育成につなげるよう今後の教育への導入を図る。

３.研究（研究の質の向上に資する活動）
1）目標
研究活動の活性化
2）実施状況　＆　3）評価
・2026年度科研費の採択状況
11件応募のうち1件採択（応募可能者19名中11件（10名）応募)、**応募率　52.6％**
1件採択で**採択率　9.1％)**
科研費以外の外部資金による研究課題：研究代表者２名２件、分担研究者４名６件（厚労科研等)。
今年は応募率は過半数であったものの、昨年度と同様１件のみ採択であり、採択率の減少が課題。また採択者は過去に採択が継続している教員であり、外部資金の研究課題を１～複数持っている教員と持たない教員とで分かれる。学部として、戦略的に申請書類（研究計画書）の質の向上を図る必要がある。
○教員の研究業績
・『高知県立大学紀要(社会福祉学部編)』第75巻に５編掲載（論文３、報告１，論説１)。
・研究成果の公表について、以下の実績であり、学部教員の約８割が年１編以上の学会報告や論文の公表を行った。
①著書：単著１、共著８　②和文論文：筆頭15，和文報告：筆頭11、筆頭以外４
③英文論文：筆頭３、筆頭以外６　④学会発表（日本語)：筆頭12、筆頭以外６、
⑤学会発表（英語)：筆頭２、筆頭以外１
○FD活動（FD委員会）
・学部FDを年間９（対面６，オンライン３）回開催し、参加率は42～100％（平均84％）
内訳は啓発型（外部スピーカー）２回（ハンセン病と差別、チーム基盤型学習)、学部教員間３回（競争的資金獲得、研究シーズ、研究倫理)、相互参加型４回（入試広報、修学支援、学部の価値創造、ウェルビーイング学)
4）次年度の目標
①科研費採択率改善に向けFD研修を継続して開催し、採択実績のない若手教員を対象とした教育支援体制を作り、応募率及び採択率を上げる。
目標：科研応募率：申請可能者の８割（延長予定者を除く)、採択率：応募件数の３割。
②他分野との共同研究など学際的な研究への展開を学ぶFD研修会を企画する。

４．2026（R8）年度入試及び入試広報

1）目標

志願者確保に向けた入試広報を学部全教員で一丸となり継続的に行う。特に県内高校だけでなく中四国内の高校訪問や訪問講座実施を展開して志願倍率を維持していく。

2）実施状況　&　3）評価

〇県内 36 校(昨年度＋1)、県外 63 校（昨年度＋15）を教員が訪問し、特に県外高校を大幅に拡充し、学部の PR を実施した。高知県キャリア教育推進事業として、県内高校 12 校の訪問講座および 4 回の集合研修を実施したほか、県外 3 校においても訪問研修を行った。その際、在学生の学修状況、卒業生の就職先、学校推薦型選抜の内容等について情報提供を行った

〇オープンキャンパスの参加者（実績値）

社会福祉学部　235名（昨年187）※昨年度より増加、一昨年度を超える実績

内訳：高校生120名（昨年度102）／県内 69(64)、県外51(38) ※県外高校生増加

〇R8年度入試の概要

第29期生77名　(県内出身31名（40%)・県外46名（60%)、男子18名・女子59名)が入学。

①学校推薦型入試 県内〔20 名〕: 志願･受験 20 名＞合格･入学 20 名　　**志願倍率 1.0 倍** 全国〔10 名〕: 志願･受験 17 名＞合格・入学 10 名　　**志願倍率 1.7 倍** ②前期入試〔35 名〕: 志願 97 名＞受験 89 名＞合格 4２名＞入学 36 名 **志願倍率 2.8 倍、合格倍率 2.1 倍** ③後期入試〔5 名〕:志願 90 名＞受験 37 名＞合格 9 名＞入学９名 **志願倍率 18.0 倍　合格倍率 4.1 倍。** ④私費外国人留学生入試〔若干名〕: 志願 3 名＞受験２名＞合格２名＞入学１名 （社会人入試は受験者なし)。

4）次年度の目標

- 高校訪問対象地域や出前講座を県内から中国四国地方にも拡大したため、四国３県からの受験生・入学者が増加した。中四国での入試広報活動を強化するとともに、県内も重点校を設定し、推薦志願者増を図る。
- 入試IRデータや入学者調査の結果を活用し、また新カリキュラムの特徴を伝えながら、日々の学部の活動についてホームページやSNSで発信し、学部の魅力をさらにわかりやすく伝えるようにする。

５．就職・進路状況

1）目標：継続して就職率100%を達成するよう支援を行う。

2）3）実施状況・評価

・第 25 期生卒業生 72 名のうち就職希望者 69 名、内 3 月末までに**就職決定率 69 名(100%)**

内訳：県内 21 名（30%)、県外 48 名（70%)【種別：福祉施設等 11 名(16%)、医療機関 17 名(25%)、公務員等 27 名(39%)、社会福祉協議会 5 名(7%)、一般企業 9 名（13%)】

公務員のうち、国家公務員（法務省等）の更生保護・司法福祉分野が 4 名と増加。

他に大学院（本学人間生活学研究科）進学１名。

※教職員の丁寧な個別サポートにより100%を継続。

4）次年度の目標：就職率100%を維持する。県内就職率向上に向けた就職先の紹介等を継続的戦略的に行っていく。公務員等の高い就職率を維持すると共に広報に活かす。

６．地域貢献活動

1）目標：高知県キャリア教育推進事業及びリカレント教育事業を通して、高校生・保護者、一

般市民に対し、社会福祉に関する学びの機会を提供し、福祉人材育成への理解を広げる。
2）3）実施状況・評価①（キャリア教育推進事業）
高知県事業（補助金）として「高知県キャリア教育推進事業」を実施。
〇集合研修の参加者：延べ 299 人（内、高校生　167 人）
7/26（OC 兼）、9/6（永国寺認知症カフェ）、10/18（福祉体験ツアー：体験型イベントふくしフェア）、3/21（新 2・3 回生のための入門講座）に開催した 4 回の計（高校生及び保護者、外部講師、学生、スタッフなど含む）
〇県内高校 12 校の訪問講座：延べ 155 人（内、高校生 116 人）
以上を併せて**延べ 454 人（内、高校生 283 人**）。募集時だけでなく、実施後の様子もホームページや SNS で公開する等、積極的な情報発信を行った。

4）次年度の目標：キャリア支援事業の訪問型講座県内 12 高校、4 回の集合研修は継続して実施する。訪問型講座については可能な範囲で県外（四国）にも展開する。
2）3）実施状況・評価②（リカレント教育事業ほか）
リカレント教育講座 1 講座を開催し、8 人が参加(12/13) 。その他に、学生及び教員が関わった地域貢献事業として、大学のリ・デザインプロジェクト（認知症カフェ、TEANS BASE,はらっぱフェス＆リカバリーカレッジ)、立志社中（UOK 手話サークル、かんきもん、P シスターズ等)、女子カフェ FIRST PLACE などがある。
4）次年度の目標：①県キャリア教育推進事業は志願者確保に不可欠な事業であり、県の人材育成への期待も高い。学部も物心両面で関わり、前年度と同様の水準で事業を継続すると共に**中四国を中心とした県外にも事業を展開する。**

７．卒業生への支援
1）目標：卒業生への継続的なキャリア支援として領域別のリカレント研究会を実施する。
2）3）実施状況・評価
・卒業生に対する支援として実施している領域別リカレント研究会を３分野で実施し、延べ160名（昨年度４分野延べ81名）が参加（介護コース55名、旭川荘卒業生との交流22名、ケアワーク学習会83名）
・卒業生・在校生・教員をつなぐ学内就職説明会や卒業後のキャリアに関するミニ講話を実施し、延べ258名（昨年度128名）が参加
4）次年度の目標：予算配分される事業であり、有効活用して事業を継続する。

８．国際交流活動
1）目標：国際性を涵養する教育や協定校との国際交流の機会を提供する。
2）3）実施状況・評価
専門教育５科目において国際比較や多文化共生などソーシャルワーカーとして必要な国際性を涵養する教育をおこなった。新たな短期研修先として台湾の大学に教員2名を派遣し、先方との協議や事業所の視察を行い、次年度以降の短期研修プログラム案を作成した。
4）次年度の目標：R8年度の台湾短期研修プログラムの実施に向けて準備を進める。

2025年度社会福祉学部の主要行事

4月	4日(金)	学部	入学式（28期生78名）
	7日(月)		学生ガイダンス
	8日(火)		学生ガイダンス
	10日(木)		前期授業開始（～8月8日）
	23日(水)	教務	卒業研究構想発表会
	24日(木)	学部	第1回連絡会・教授会
	28日(月)	学部	第2回連絡会・教授会
5月	12日(月)	介護	介護福祉実習(介護実習Ⅰ)報告会
	26日(月)	学部	第3回連絡会・教授会
6月	2日(月)	社福	実習連絡協議会（ソーシャルワーク実習）
	23日(月)	学部	第4回連絡会・教授会
7月	7日(月)	介護	介護福祉実習連絡協議会／介護福祉実習（介護実習Ⅲ）報告会
	26日(土)	学部	EVENT1：社会福祉の事を分かりやすく学ぶ・オープンキャンパス
	28日(月)	学部	第5回連絡会・教授会
9月	6日(土)	人材	EVENT2：カフェで学ぶ福祉と認知症
	22日(月)	学部	第6回連絡会・教授会
10月	1日(水)		後期授業開始（～2月18日）
	8日(水)	学部	第7回連絡会・教授会
	10日(金)	学部	第8回連絡会・教授会
	19日(土)	人材	EVENT3：県大生と行く最新の福祉体験ツアー
	22日(水)	学部	第9回連絡会・教授会
	22日(水)	教務	卒業研究中間発表会
	24日(金)	学部	第10回連絡会・教授会
	27日(月)	学部	第11回連絡会・教授会
11月	10日(月)	介護	介護福祉実習(介護実習Ⅱ)報告会
12月	1日(月)	学部	第12回、13回連絡会・教授会
	13日(土)	健康長寿	リカレント教育講座
	22日(月)	学部	第14回連絡会・教授会
1月	19日(月)	学部	第15回連絡会・教授会
	25日(日)		第38回介護福祉士国家試験
	26日(月)	学部	第16回連絡会・教授会
	29日(木)	社福	実習報告会（ソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ）
	31日(土)		第28回精神保健福祉士国家試験
2月	1日(日)		第28回精神保健福祉士国家試験
	1日(日)		第38回社会福祉士国家試験
	13日(金)	教務	卒業研究発表会
3月	4日(水)	学部	第17回、18回連絡会・教授会
	10日(火)	精神	精神保健福祉援助実習連絡協議会
	13日(金)	学部	19回連絡会・教授会
	19日(木)	学部	卒業式(県民文化ホール、25期72名卒業)
	19日(木)	学部	第20回、21回連絡会・教授会
	21日(土)	人材	EVENT4：新2・3年生のための入門講座
	25日(水)	学部	第22回連絡会・教授会

令和7年度　社会福祉学部　時間割　＜前期＞　池キャンパス　（2025.4.21版）

		1時限			2時限			3時限			4時限			5時限		
		8:50～10:20	教員	教室	10:30～12:00	教員	教室	13:00～14:30	教員	教室	14:40～16:10	教員	教室	16:20～17:50	教員	教室
月	全	英語コミュニケーションⅡA	（別途記載）		英語コミュニケーションⅠC	（別途記載）										
		地域学概論	秋谷公博	大講義室												
	1							(介護)生活支援技術Ⅰ	田中眞・上杉	F110	(介護)生活支援技術Ⅰ	田中眞・上杉	F110			
	2															
	3				ソーシャルワーク演習Ⅲ	遠山・田中顕・湯川・大熊・山本	D222,E102,E103 E204,F207	ソーシャルワーク演習Ⅳ	遠山・田中顕・湯川・大熊・山本	D222,E102,E103 E204,F207	女性福祉論が入ることがある	長澤	E103	女性福祉論が入ることがある	長澤	E103
	4				社会福祉史が入ることがある	行貞	大講義室	社会福祉史	行貞	大講義室	権利擁護論	田中き・行貞	大講義室			
火	全	科学と人間	一色健司	A304	基礎化学	一色健司	A306				コンピュータリテラシー(社福)	名和真一	D207	コンピュータリテラシー(社福)	名和真一	D207
		生活と社会福祉	行貞伸二	大講義室							人権教育論	鈴木康郎	A306			
	1	(介護)介護の基本Ⅰ	河内	A321	(介護)介護の基本Ⅰ	河内	A321	社会福祉の原理と政策Ⅰ	行貞・長澤	大講義室						
	2	児童・家庭福祉論	加藤	E102	ソーシャルワーク演習Ⅰ	福間・西梅・大熊・山本・湯川	E102,E103,E204 F207,F110,F111	(介護)生活支援技術Ⅲ	田中眞・乾・上杉	F110,F111	(介護)生活支援技術Ⅲ	田中眞・乾・上杉	F110,F111			
	3	精神保健学Ⅰ	清家	E103	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	井上・田中顕・稲垣・玉利	D221,D222	ケアマネジメント論	湯川	E103	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	福間ほか	E102,E103,E204,F207			
	4							精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	井上・田中顕・稲垣・玉利	D221,D222	精神保健福祉援助演習Ⅱ	井上・田中顕・稲垣・玉利	D221,D222			
水	全	健康スポーツ科学I(社福)	高徳・神門	体育館	AI概論	根本大志	A306	日本国憲法	岩倉秀樹	A306	ITリテラシー	根本大志	大講義室	基礎生物学	有川幹彦	遠隔
	1				社会保障論Ⅰ	田中き	大講義室	心理学と心理的支援	杉原・玉利	大講義室						
	2	保健医療サービス	井上	大講義室	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	加藤	E102	※介護総合演習Ⅱが入ることもある		E102						
	3	虐待防止論	西内・加藤	E103	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ	西梅	E103	ソーシャルワークの理論と方法(精神) (介護)生活支援技術Ⅴ	稲垣 矢吹・乾・辻	E103 F110,F111	社会福祉専門演習Ⅰ	担当教員				
	4													社会福祉専門演習Ⅲ	担当教員	
木	全	英語コミュニケーションⅡC	非常勤		英語コミュニケーションⅠC	（別途記載）		家族関係論	池添　他	大講義室	法学	田中康代	A309			
		文学	田中裕也	オンライン												
	1										福祉対象入門 福祉援助入門（*1） *1履修登録は、前期集中ですること	福間 福間	大講義室	社会福祉入門演習	清家・乾	E103
	2							ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	福間ほか	D222,E102,E103,E204	高齢者福祉論Ⅱ	矢吹	E102	(介護)生活支援技術Ⅲ	田中眞	F110,F111
	3	(介護)介護の基本Ⅲ	辻・乾	E103	(介護)介護の基本Ⅲ	辻・乾	E103	(介護)障害の理解Ⅰ 介護技術	田中眞 上杉	F207 F110,F111	(介護)発達と老化の理解Ⅱ	清家	E103			
	4				実践記録法 (介護)介護総合演習Ⅳ	杉原 田中眞・上杉・矢吹・河内・辻	E204 E102							更生保護制度	加藤誠之	E102
金	全															
	1				(介護)こころとからだのしくみⅠ	清家	E103	※介護総合演習Ⅰが入ることもある	田中眞ほか	F110,F111						
	2	(介護)介護過程Ⅱ	辻	F110,F111	地域福祉論Ⅰ	福間・湯川	大講義室	(介護)介護の基本Ⅱ	乾・清家	E103	(介護)認知症の理解Ⅰ	矢吹	F110,F111			
	3	医療ソーシャルワーク論	大熊	E102	社会福祉調査の基礎	遠山	E102	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山﨑	E102	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山﨑	E102	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山﨑	E102
	4	※(介護)医療的ケアⅡが入ることもある	乾	F109	※(介護)医療的ケアⅡが入ることもある	乾	F109	※(介護)医療的ケアⅡが入ることもある	乾	F109	※(介護)医療的ケアⅡが入ることもある	乾	F109	※(介護)医療的ケアⅡが入ることもある	乾	F109

集中講義	共通教育	現代生活論	菊池直人	前期　永国寺　9/6～9/12	備考欄
		地域学実習Ⅰ	秋谷・専任教員		
		地域学実習Ⅱ	秋谷・専任教員		
		域学共生実習	秋谷・専任教員		
		異文化理解海外フィールドワーク	ヨース　他	通年	
		専門職連携論	久保田・井上	前期　池(9/24～9/26 各日1～5限)	対人関係とメンタルヘルス　永：木曜1時間目
		土佐の食と健康	廣内智子	池(9/10～9/12)	
	専門教育	女性福祉論	長澤	通年(別途連絡)	
		ケアプラン策定法	西内	通年(別途連絡)	
		介護実習Ⅰ	田中眞ほか	通年(別途連絡)	
		介護実習Ⅱ	田中眞ほか	通年(別途連絡)	
		介護実習Ⅲ	田中眞ほか	通年(別途連絡)	
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	福間ほか	通年(別途連絡)	
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	福間ほか	通年(別途連絡)	
		ソーシャルワーク実習Ⅲ	福間ほか	通年(別途連絡)	
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	井上・田中顕・稲垣・玉利	通年(別途連絡)	
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	井上・田中顕・稲垣・玉利	通年(別途連絡)	
		介護総合演習Ⅰ	田中眞ほか	通年(別途連絡)	
		介護総合演習Ⅱ	田中眞ほか	通年(別途連絡)	
		精神医学Ⅰ・Ⅱ	山﨑	別途連絡	
		医療的ケアⅡ	乾	別途連絡	

令和7年度　社会福祉学部　時間割　＜後期＞　池キャンパス　（2025.10.16版）

		1時限			2時限			3時限			4時限			5時限		
		8:50～10:20	教員	教室	10:30～12:00	教員	教室	13:00～14:30	教員	教室	14:40～16:10	教員	教室	16:20～17:50	教員	教室
月	全	英語コミュニケーションⅡB	非常勤		英語コミュニケーションⅠD	（別途記載）		土佐の自然と暮らし	非常勤	大講義室						
		英語コミュニケーションⅡ応用プレゼンテーション（～2023年）	非常勤					土佐の歴史と文化	橋尾　他	A306						
	1							（介護）こころとからだのしくみⅡ	清家	E204	※介護総合演習Ⅰが入ることもある	田中眞ほか	F110,F111	※介護総合演習Ⅰが入ることもある	田中眞ほか	F110,F111
	2							福祉研究法入門	福間	E102						
	3							面接技法	杉原	E103						
	4															
火	全							社会調査基礎論	大井方子	遠隔				健康スポーツ科学Ⅱ（社福）	高徳・非常勤	体育館
	1	医学概論	奥谷	大講義室	社会福祉の原理と政策Ⅱ	行貞・長澤	大講義室	社会学と社会システム	玉里	大講義室	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	西内・西梅・加藤	大講義室			
	2				（介護）発達と老化の理解Ⅰ	杉原	E102	地域福祉論Ⅱ	田中き	E103	ソーシャルワーク演習Ⅱ	福間・西梅・遠山・行貞・山本	D221,D222 E102,E103,E204	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	福間ほか	D222,E102 E103,E204,F207
	3				（介護）介護総合演習Ⅲ （精神）精神保健福祉援助演習Ⅰ	田中眞ほか 井上・田中顕・稲垣・玉	E103 F110,F111,F207	ケアマネジメント演習	湯川	E103	（介護）介護過程Ⅳ	乾・上杉	A321	（介護）介護過程Ⅳ	乾・上杉	A321
	4				子育て支援論	加藤	E204	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	井上・田中顕・稲垣・玉利	F110,F111,F207	精神保健福祉援助演習Ⅱ	井上・田中顕・稲垣・玉利	F110,F111,F207			
水	全	対人関係とメンタルヘルス	田代・玉利・湯川	E102	心理学	福住紀明	大講義室	健康とヘルスプロモーション	山中　他	A319	データサイエンス入門	根本大志	A319	基礎ジェンダー学	長澤・岩﨑	大講義室
	1				社会保障論Ⅱ	田中き	E102	ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	西内・西梅・加藤	大講義室						
	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	加藤	E103	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	西梅	E103	（介護）介護の基本Ⅱ	辻	F110,F111	※介護総合演習Ⅱ	田中眞ほか	F110,F111			
	3				精神障害リハビリテーション論	清家・玉利	F110,F111	福祉サービスの組織と経営	福間	E103	社会福祉専門演習Ⅱ	担当教員				
	4				事例研究法	山本	E204	チームアプローチ	大熊	E204				社会福祉専門演習Ⅳ	担当教員	
木	全	英語コミュニケーションⅡD	非常勤		英語コミュニケーションⅠD	（別途記載）		地域とグローバリゼーション	秋谷公博	A306	政治学	吐合大祐	A306	情報処理概論	名和真一	A306
		英語コミュニケーションⅡ応用エッセーライティング（～2023年）	非常勤		プログラミング基礎	名和	D207									
		哲学	非常勤	遠隔												
	1							（介護）生活支援技術Ⅱ	田中眞・上杉	F110,F111	（介護）生活支援技術Ⅱ	田中眞・上杉	F110,F111	社会福祉基礎演習	清家・乾	大講義室
	2	医療福祉論	大熊	E102	介護過程Ⅲ	田中・矢吹	E204	公的扶助論	田中き・行貞	大講義室	国際福祉論	長澤・河内・玉利	E102	国際福祉論が入ることがある		E102
	3	（介護）医療的ケアⅠ	乾	F110,F111	（介護）医療的ケアⅠ	乾	F110,F111	ソーシャルワークの理論と方法（精神） （介護）障害の理解Ⅱ	稲垣 河内・乾	D222 E103	ソーシャルワーク演習Ⅴ	福間ほか	大講義室,D222 E103,E204,F207	コミュニティソーシャルワーク	湯川	E103
	4							スーパービジョン	西梅	E204						
金	全															
	1	高齢者福祉論Ⅰ	矢吹・山本	E102	（介護）コミュニケーション技術	河内・辻	F207	（介護）コミュニケーション技術	河内・辻（後半）	F207	（介護）介護過程Ⅰ	河内	F207			
	2	（介護）生活支援技術Ⅳ （精神）精神保健福祉の原理	田中眞・関 田中顕・玉利	F110,F111 E103	（介護）生活支援技術Ⅳ （精神）精神保健福祉の原理	田中眞・関 田中顕・玉利	F110,F111 E103	（介護）認知症の理解Ⅱ	矢吹	F110,F111	障害者福祉論	遠山	E103	福祉NPO論	田中き	E103
	3	（精神）精神保健福祉制度論	井上	D222	精神保健学Ⅱ	清家	E102	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山﨑	E102	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山﨑	E102	※精神医学Ⅰ・Ⅱが入ることもある	山﨑	E102
	4															

集中講義	共通教育	地域学実習Ⅰ	秋谷・専任教員	
		地域学実習Ⅱ	秋谷・専任教員	
		域学共生実習	秋谷・専任教員	
		異文化理解海外フィールドワーク	ヨース　他	通年
		チーム形成論	秋谷公博	永国寺キャンパス　A101　12/16（火）～12/19（金）：2～4限、12/22（月）：2～4限
	専門教育	介護実習Ⅰ	田中眞ほか	通年（別途連絡）
		介護実習Ⅱ	田中眞ほか	通年（別途連絡）
		介護実習Ⅲ	田中眞ほか	通年（別途連絡）
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	福間ほか	通年（別途連絡）
		ソーシャルワーク実習Ⅱ	福間ほか	通年（別途連絡）
		ソーシャルワーク実習Ⅲ	福間ほか	通年（別途連絡）
		精神医学Ⅰ・Ⅱ	山﨑	別途連絡
		精神保健福祉援助実習Ⅰ	井上・田中顕・稲垣・玉利	通年（別途連絡）
		精神保健福祉援助実習Ⅱ	井上・田中顕・稲垣・玉利	通年（別途連絡）
		介護総合演習Ⅰ	田中眞ほか	通年（別途連絡）
		介護総合演習Ⅱ	田中眞ほか	通年（別途連絡）
		地域福祉活動	田中き	別途連絡

備考欄

生活と社会福祉　　矢吹　　永：木曜7時間目

Ⅱ

社会福祉学部教員の教育研究活動
（教育研究活動報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧（2025 年度）

職　位	氏　　名	学　　位	専　門　分　野
教　授	杉 原　　俊 二	博　士（ 医　　学 ）	児童・家庭福祉論／心理療法
教　授	田 中　　きよむ	修　士（経　済　学）	社　会　保　障　論
教　授	長 澤　　紀 美 子	博　士（ 学　　術 ）	福祉政策/国際福祉/女性福祉
教　授	西　内　　章	博　士（臨床福祉学）	ソーシャルワーク論
教　授	西 梅　　幸 治	博　士（福祉社会学）	ソーシャルワーク論
教　授	矢　吹　知　之	博　士（教育情報学）	保　健　福　祉　学
准教授	加 藤　　由 衣	博　士（福祉社会学）	児 童 ・ 家 庭 福 祉 論
准教授	河 内　　康 文	博　士（社会福祉学）	介　護　福　祉　論
准教授	田 中　　顕 悟	博　士（社会福祉学）	ソーシャルワーク論
准教授	辻　　真　美	博　士（社　会　学）	介　護　福　祉　論
准教授	遠 山　　真 世	博　士（社会福祉学）	障　害　者　福　祉　論
准教授	福 間　　隆 康	博　士（マネジメント）	福 祉 施 設 運 営 管 理 論
講　師	井　上　夏　子	修　士（社会福祉学）	精神保健医療福祉/ソーシャルワーク論
講　師	清　家　庸　佑	博　士（保　健　学）	リハビリテーション
講　師	田 中　　眞 希	博　士（社会福祉学）	介　護　福　祉　論
講　師	湯 川　　順 子	博　士（創 造 都 市）	地　域　福　祉　論
講　師	行 貞　　伸 二	修　士（社会福祉学）	生 活 困 窮 者 支 援

教育研究活動報告書（教員一覧）

助　教	稲　垣　　佳　代	修　士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論
助　教	乾　　由美	修　士（看　護　学）	在宅看護論/医療的ケア
助　教	上　杉　麻　理	修　士（社会福祉学）	介　護　福　祉　論
助　教	大 熊　絵 理 菜	修　士（社会福祉学）	医　療　福　祉　論
助　教	玉 利　　麻 紀	修　士（人 間 科 学）	メンタルヘルス
助　教	山 本　　大 輔	修　士（福祉社会学）	高　齢　者　福　祉　論

杉 原　俊 二

Shunji SUGIHARA

○ 研 究 活 動

（１）論文（原著・研究ノート・書評）（７件）

１．杉原俊二「自分史分析のフィールドノート（Ⅵ）―両親が早期退職をしてＵターンをした家族の再生について」『人間科学研究』23，2-11.（2026 年 3 月）※査読あり

２．杉原俊二「Ｎさんの大学卒業後の５年間（Ⅶ）―Ｃ短大講師２年目（後編）―」『人間科学』116，2-9.（2025 年 5 月）

３．杉原俊二「Ｎさんの大学卒業後の５年間（Ⅷ）―Ｃ短大講師３年目―」『人間科学』117，2-9.（2025 年 7 月）

４．杉原俊二「Ｎさんの大学卒業後の５年間（Ⅸ）―Ｃ短大講師４年目―」『人間科学』118，2-9.（2025 年 9 月）

５．杉原俊二「Ｎさんの大学卒業後の５年間（Ｘ）―Ｃ短大講師５年目―」『人間科学』119，2-9.（2025 年 11 月）

６．杉原俊二「Ｎさんの大学卒業後の５年間（Ⅺ）―その後の１年間―」『人間科学』120，2-9.（2026 年 1 月）

７．杉原俊二「聴覚障害者Ａ君への支援―３年間勤務した一流企業の退職後の対応」『人間科学』121，2-9.（2026 年 3 月）

（２）学会発表等（２件）

１．杉原俊二「中国四国地区での社会的養護の現状と今後の課題　―高知県での計画と課題の差異―」日本社会福祉学会中国四国地域ブロック第 56 回愛媛大会（聖カタリナ大学）2025 年 7 月 12 日

２．杉原俊二「不登校経験者のレジリアンス　―大学へ進学できた人の自分史と面接から―」日本家族療法学会第 42 回大宮大会（ソニックシティ大宮）2025 年 9 月 6 日

３．杉原俊二「自分史分析のフィールドノート（Ⅵ）―両親が早期退職をしてＵターンをした家族の再生―」日本人間科学研究会第 24 回大会（聖学院大学：遠隔）2026 年 1 月 31 日

○ 教 育 活 動

（１）学部：講義・演習＋実習（訪問指導、学内実習：集中）

「心理学と心理的支援」（１年前期８コマ分、看護学科「心理学と心理的支援」を同時開講）、「発達と老化の理解Ⅰ」（２年後期）、「面接技法」（３年後期）、「実践記録法」（４年前期）、「社会福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」（４年生５名）

（２）大学院：講義・演習

人間生活学研究科（博士前期課程）:「研究と倫理」「家族福祉支援論」「課題研究演習」（主指導２名）、（博士後期課程）「社会福祉学特別研究Ⅱ」（主指導１名）

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

○ 委 員 会 活 動

（１）副学長（教育・研究担当）（「大学運営会議」「教育研究審議会」）

（２）全学委員長「非常勤講師審査委員会」「教学本部会議」「教学マネジメントワーキング」「人権委員会」「研究倫理審査委員会」「ＦＤ委員会」

（３）全学委員「幹部会」「経営戦略会議」「教育評価専門会議」「大学院研究助成金審査委員」「国内・国際研修審査委員」「総務・危機管理本部会議」

（４）学部委員「人事関係検討会」

（５）人事委員会

○ 社 会 的 活 動

（１）社会活動

児童福祉審議会委員、高知県教育委員会スクールソーシャルワーカースーパーバイザー、高知県社会福祉協議会評議員選任・解任委員、

（２）学会など

日本人間科学研究会（常務理事・会報編集委員長）、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック（副委員長・編集委員）、ＫＪ法学会（運営委員）、所属学会等の編集協力（査読者）

（３）講演など

１．香美市・香南市ＳＳＷ事例検討会 7 月 28 日 3 時間（香南市役所会議室）

２．ＳＳＷ学習会（グループスーパービジョン）9 月 27 日 3 時間（高知県心の教育センター）

３．香南市ＳＳＷグループスーパービジョン 12 月 3 日 3 時間（高知県立大学池キャンパス）

４．ＳＳＷ東部地区合同事例検討会 1 月 23 日 3 時間（安芸市市役所会議室）

○ 総 合 評 価 と 課 題

本年度は赴任して 17 年目になる。池田光徳先生の後任として教育研究担当の副学長となった。この仕事は、全ての教職員と一緒におこなうものであり、今年度も何とか終えることができた。まずは、皆様にお礼を述べる。

教育に関しては、副学長の仕事量がわからず３年生のゼミ以外すべてを残したので、かなり大変であった。その中でも、第 25 期生を卒業させることができた。大学院では今年度もM「研究と倫理」、D「研究倫理」を担当した。私自身の研究している科目ではないが、本年度から全学の研究倫理審査委員会をするうえでも助かった。

授業では、テキスト以外に自著論文（自分史・書評）を工夫しながら授業で使わせてもらっている。その準備に時間はかかるものの、勉強になっている（学部「面接技法」、M「家族福祉支援論」）。講義科目については、ポストコロナ時代となり、授業のほとんどにパワポを導入し、出席代わりのミニレポートなどを３年前から実施し、今年度も少し形を変えて学生の意見聴取に務めた。

研究に関しては中々苦しい展開である。昨年度から新しい研究テーマ（日本社会福祉学会

中国四国地域ブロックの課題研究）を行っているが、共同研究なのだが時間を取れずなかなか進まない。また、2002 年に研究が始まった自分史研究から 20 年以上経つため、その研究も進めている。また、論文にできていないインタビューもかなり残っている。これは、何としても進めるしかない。

副学長としての仕事は会議が多いが、それは今まで経験したことのない予想をはるかに超えたものであった。しかし、与えられた仕事は確実にこなしていきたい。

来年度は副学長の２年目になる。多くの方々のご助力をお願いします。

田 中　き よ む

Kiyomu TANAKA

○研　究　活　動

（１）著書

・田中きよむ『社会保障システム（三訂版）』ビジネス実用社、2025 年 4 月

（２）論説

・田中きよむ「NPO によるホームレス支援と『ホームレス』概念の普遍化」『地域ケアリング』Vol.27 ,No.7、2025 年 6 月（67-70 頁）

・田中きよむ「介護人材不足の背景・状況と今後の方向」『地域ケアリング』Vol.27 ,No.９、2025 年 7 月（89-92 頁）

・田中きよむ・霜田博文・玉里美恵子「生活困窮者の居場所づくり，関係づくりに関する事例検討」『高知論叢』第 129 号、2025 年 10 月（1 - 24 頁）

・田中きよむ・霜田博文・玉里美恵子ホームレス（支援）とひきこもり（支援）に通底するもの」『高知論叢』第 130 号、2026 年 3 月（1 - 20 頁）

（３）報告

・田中きよむ「生きづらさに寄り添って―『こうちネットホップ』15 年の軌跡―」『こうちネットホップ設立 15 周年記念誌「生きづらさに寄り添うーこうちネットホップ 15 年ー」』2026 年 2 月（30 - 51 頁）

・田中きよむ・辻真美「韓国・台湾における女性・児童・高齢者福祉の動向と特徴」『Humanismus』第 37 号、2026 年 3 月（29 - 57 頁）

（４）学会発表等

・田中きよむ「地域における生活困窮者等の居場所・関係づくりに関する事例検討―都市部と地方の NPO や社協の取り組み―」（四国財政学会第 70 回研究会）2025 年 12 月

・田中きよむ「貧困問題から見える発達保障の課題 ―生活困窮者支援の現場から―」人間発達研究所第 40 回研究集会基調講演 2025 年 6 月

・田中きよむ「介護人材不足の背景・状況と今後の方向」第 57 回高知県リハビリテーション研究大会基調講演 2025 年 11 月

(5) 研究助成外部資金

・瓜生浩子（研究代表者）田中きよむ（共同研究者の一人）「経験知を基盤に高次脳機能障害の理解と対処を促進するコンテンツ配信ページの構築」（文部科学省科学研究費基盤研究（C）（一般）；2025-2028年度）

(6) 受賞

・第64回社会貢献者表彰（NPO法人「こうちネットホップ」代表）公益財団法人社会貢献支援財団

○教　育　活　動

（１）学部

（専門教育）

1. 地域福祉論Ⅱ 2. 社会保障論ⅠⅡ ３.公的扶助論 4. 権利擁護論
5. 福祉ＮＰＯ論 6. 社会福祉専門演習ⅠⅡ 7. 福祉研究演習ⅢD
8. 地域福祉活動

9．社会保障と看護（看護学部） 10．保健医療福祉論（健康栄養学部）

（２）大学院

（博士前期課程）

１.地域福祉論　２.社会保障論　３．福祉行財政論　４．社会福祉課題研究演習

〇委 員 会 活 動

・（学部）人事関係検討会委員、自己点検評価委員会委員、社会福祉領域研究倫理審査委員会委員長、学生委員会委員、就職委員会委員、国際交流委員会委員長

・（全学）入試監査専門部会委員長（学部入試）、国際交流委員会委員、図書館運営本部会議委員

〇社 会 的 活 動

（委員等）

・高知県運営適正化委員会委員
・高知県地域年金事業運営調整会議委員長
・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
・高知県社会保障推進協議会会長
・高知県介護ケア研究会会長
・全国障害者問題研究会高知支部支部長
・高知県保育運動連絡会会長
・高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会長
・高知市福祉有償運送運営協議会委員
・高知県内各市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
・高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、セーフティネット連絡会委員
・公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会委員長
・高知県リハビリテーション研究会理事
・高知県高次脳機能障害支援委員会委員
・高知県居住支援協議会会長
・社会福祉法人「高知福祉会」「すずめ福祉会」「ファミーユ高知」各第三者委員
・NPO 法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事,NPO 法人「みらい予想図」副理事長,NPO 法人「あさひ会」理事長,NPO 法人「あまやどり高知」理事,社会福祉法人「さんかく広場」理事,NPO 法人「こうちネットホップ」理事長

（外部委員会、研究・学習会、講演等）

・NPO 法人「あまやどり」理事会（人権啓発センター2025 年 4 月 21 日、8 月 25 日、2026 年 2 月 16 日）
・きょうされん高知支部研修講師「障害者福祉の本質と障害者福祉政策の動向」高知市障害者福祉センター（2025 年 4 月 25 日）
・高知県介護福祉士会 2025 年度第 1 回全体研修会講師「介護人材不足の背景・状況と今後の方向」高知県福祉交流プラザ（2025 年 4 月 26 日）
・エスポワール高知主催 対談講演会講師「ともに生き、ともに考え、ともに悩んで ―生活困窮やひきこもりを事例として―」オーテピア（2025 年 5 月 24 日）
・四国保育合同研究集会（実行委員長）高知城ホール・共済会館（2025 年 5 月 31 日～6 月 1 日）

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

・NPO 法人「こうちネットホップ」（代表）主催講演会；認定 NPO 法人 Homedoor 浦越有希氏「今、ここにある『貧困』の現実～ホームレス支援の現場から～」オーテピア（2025 年 6 月 2 日）
・こうち福祉会研修講師「障害者福祉の本質と権利擁護・虐待防止」高知県福祉交流プラザ（2025 年 6 月 14 日）
・しまんと町社会福祉協議会地域福祉活動計画アドバイザー（しまんと町社会福祉協議会）2025 年 7 月 14 日、2026 年 2 月 20 日
・高知市社会福祉審議会審議会民生委員審査専門分科会（会長）高知市役所（2025 年 7 月 22 日、8 月 20 日、9 月 19 日）
・公益財団法人「ひかり協会」高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会（委員長）Web（2025 年 9 月 12 日）、現地調査（高知市 2025 年 7 月 24 日、香南市 8 月 5 日）、地域連絡協議会（大阪市 12 月 7 日）
・高知県居住支援協議会総会（会長）県民文化ホール（2025 年 8 月 6 日）、同協議会セミナー（2026 年 1 月 19 日）
・佐川町社会福祉協議会地域福祉計画アドバイザー（佐川町かわせみ）2026 年 2 月 19 日）
・全国障害者問題研究会（分科会「働く場の支援」研究協力者）広島工業大学専門学校（2025 年 8 月 10 日）
・高知県運営適正化委員会（高知会館 2025 年 8 月 15 日・2026 年 3 月 13 日、現地調査；南国市・香美市 2025 年 8 月 19 日、安田町・馬路村 2025 年 9 月 9 日）
・徳島県社会福祉協議会研修講師「貧困と居住支援」徳島県立総合福祉センター（2025 年９月４日）
・公益財団法人「あすのば」主催「こどもの貧困フォーラム」パネル報告「高知県における子どもの貧困をめぐる取り組み」徳島県庁（2025 年９月５日）
・教育研究集会公立大学分科会（議長）京都大学（2025 年 9 月 21 日）
・高知県弁護士会綱紀委員会（高知県弁護士会 2025 年 10 月 1 日）
・エスポワール京都主催 対談講演会講師「ホームレス支援とひきこもり支援ーともに生き、ともに考え、ともに悩んでー」キャンパスプラザ京都（2025 年 10 月 11 日）
・加茂地区の地域社会の今後のあり方を考えるフォーラム講演「日高村・佐川町における住民主体の地域づくりー両加茂地区を中心にー」佐川町加茂集落活動センター（2025 年 11 月 16 日）
・高知県脳外傷友の会リハビリテーション講習会講師「高次脳機能障害のある人の『やりたいこと』の実現のためにー自分らしく生きるということー」及びコーディネーター（高知健康科学大学 2025 年 12 月 13 日）
・NPO 法人「ふくしねっ CoCo てらす」研修助言者（2025 年 12 月 18 日、2026 年 3 月 25 日）
・高松市社会福祉協議会研修講師「生活困窮の本質と対応課題」高松市役所（2026 年 1 月 14 日）
・高知県立大学社会福祉学部 FD 研修講師「Well-being とは何か？」（池キャンパス 2026 年 1 月 26 日）
・NPO 法人「あさひ福祉会」理事会（理事長）あさひ作業所（2025 年 10 月 8 日、2026 年 1 月 27 日）
・認定 NPO 法人「カンガルーの会」主催対談講演講師「こどもとおとなの関係性を考える―関係性の貧困をめぐって―」（県民文化多目的ホール、2026 年 2 月 7 日）
・NPO 法人「こうちネットホップ」（代表）15 周年記念シンポジウム（高知県立大学永国寺キャンパス 2026 年 2 月 22 日）
・高知市生活困窮者支援運営委員会（委員長）高知市社会福祉協議会（2026 年 2 月 24 日）

・高知市生活と健康を守る会研修講師「生活保護裁判の意義と課題」県民文化ホール（2026年2月28日）
・社会福祉法人「すずめ福祉会」虐待防止・苦情処理委員会（第三者委員）すずめ通所センター（2026年3月6日）
・高知県高次脳機能障害支援委員会（Web2026年3月10日）
・社会福祉法人「さんかく広場」理事会（勤労者交流館2026年3月11日）

〇総合評価及び今後の課題

・　研究面では、2025年度は、①生活困窮者の多様性・共通性の実態把握と支援方法に関する検討、②地域福祉（活動）計画策定・実行・評価プロセスにおける住民の主体性形成要因の事例検討、③近年の社会保障制度改革と社会保障財政の連関構造の分析を進めてきた。2026年度は、それらに関する調査研究と理論的検討を深めていきたい。

・　教育面では、講義に関しては、授業アンケート結果をふまえれば、それらの科目に関する学生の理解力、関心の向上や主体的取り組みを改善する授業の工夫が依然として課題となっている。学生の教育ニーズに向き合いながら、その理解力と主体性を高める工夫を図っていきたい。専門演習に関しては、地域とのつながりを大切にしつつ、住民の生活実態をふまえた理論化や課題解決を図れる素養が培えるように指導していきたい。

　2026年度は、講義においては、ミクロの個別支援に関心が強い学生に対しても、それをメゾレベル（地域福祉）やマクロレベル（社会保障）で捉え直すことの意義を理解してもらえる工夫に一層努めたい。

　社会的活動は、2026年度も、地域の生活課題の多様性を明らかにしつつ、対策を考えたり、持続可能な地域の仕組みづくりについて実践的に学ぶ機会を得られた。今後も、学生と共に、地域との接点を持ち、住民の現実の生活課題を明らかにしつつ対策を検討するとともに、各地域ならではの積極的な固有価値を再発見して、それを活性化する関係づくりに少しでも寄与していきたい。

長 澤　紀 美 子

Kimiko NAGASAWA

○研 究 活 動

（１）　論文（招待）（１件）

・長澤 紀美子(2025)「国際的な反ジェンダー運動と対抗するソーシャルワークーSRHRへの侵害とリプロダクティブ・ジャスティスー」『ソーシャルワーク研究』　Vol.12, pp.36-48.

（２）　国際シンポジウム開催（１件）

・「日本とカナダのシニアの LGBTQ に対するトラウマ・インフォームドケア：トランスジェンダー・ノンバイナリーの視点から」“Trauma-informed Care for LGBTQ Seniors in Japan and Canada; Transgender and Non-binary Perspectives” 高知県立大学永国寺キャンパス (2025.12.14)

（３）　競争的資金等の獲得状況（１件）科学研究費補助金　基盤研究(C)（一般）

・#24K05338 「トランスジェンダーのトラウマに対するＴＩＣ（トラウマ・インフォームドケア）を応用したソーシャルワーク教育の開発」（令和６年度～８年度）研究代表者

○教 育 活 動

（１）学 部

①　講義科目【学部専門科目】

・「社会福祉の原理と政策Ⅰ」及び同科目「Ⅱ」１回生必修（行貞講師とのオムニバス）

新カリ５年目で前期・後期とも各７コマ担当（社会福祉の発展過程、市場と福祉、子ども貧困、非正規労働等の雇用政策、フェミニズム等）。歴史の発展過程についても現在の社会問題や現場の支援課題との関連で理解できるよう努めた。

・「女性福祉論」３回生選択

女性支援新法の施行１年目であり、１回生次の共通教育「基礎ジェンダー学」（基礎編）に比べ、より専門的実践的内容とするため、現場の支援者を招き、事例を中心に福祉職の女性支援の実践について学びを深めた。

（県女性相談支援センター、ひとり親家庭支援センター、こうち男女共同参画センター、母子父子自立支援員、DV や性暴力被害者への支援を行う NPO 法人、こうち妊娠 SOS、性暴力被害専門看護師・助産師、災害と LGBTQ⁺に関する研究者など。）

・「国際福祉論」２回生選択（玉利助教・河内准教授とのオムニバス）

担当回（８コマ）において、介護制度の国際比較に加え、在留外国人への多文化ソーシャルワーク、難民申請や仮放免など非正規滞在者や技能実習生に関わる人権課題を扱った。中東や欧州の滞在経験がある国際経験豊かなゲストスピーカーや高知大学の難民支援 NPO を招き、欧米の例を参照した多文化共生のあり方や欧米や日本における排外主義について議論し、人権意識の涵養に努めた。

②　講義科目【共通教育科目】

・「基礎ジェンダー学（永国寺）」及び同科目「（池）」（看護学部岩﨑講師とオムニバス）

５年目となり、前期・後期各 12 コマを担当。永国寺と池の学部の特性を踏まえつつ、

ソーレ共催講座の開催や、LGBTQ、防災とジェンダー、妊娠 SOS や DV シェルター等の団体を招き、ジェンダー不平等な社会構造や、雇用における性差別、SRHR（性暴力や妊娠・中絶等）を含む性教育など身近な問題として多角的にジェンダーの関心を深めるよう努めた。

③ 卒業研究指導（ゼミ）:「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」（受講者 6 名）,「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」（受講者 6 名）

（２）大学院

【人間生活学研究科博士前期課程】

・「多文化福祉論」（受講生７名）

・研究指導：主研究指導教員として M１生１名、副研究指導教員として M2 生 1 名を担当。

【人間生活学研究科博士後期課程】

・研究指導：主研究指導教員として D3 生 1 名（前期のみ)、副研究指導教員として D３生１名を担当。

○委 員 会 活 動

【全　学】　社会福祉学部長　（＊は学部長として担う役割）

＊全学会議委員（運営会議、教育研究審議会、自己点検評価運営委員会、教員評価専門委員会、非常勤講師審査委員会、研究不正防止委員会）

【学　部】　＊学部教授会議長　＊学部自己点検評価委員長 ＊学部教員評価部会長

カリキュラムワーキング専門部会（社会福祉学部）

【大学院】　＊人間生活学研究科　博士後期課程 学務委員

○社 会 的 活 動

（１）委 員 等

○行政及び機関の委員

高知県困難な問題を抱える女性及びＤＶ被害者支援調整会議代表者会議委員（令和７年度～現在：令和５年度の前身の会議より継続）

高知県社会福祉協議会理事（令和５年度～現在）

高知県福祉活動支援基金運営委員会（高知県社会福祉協議会）（令和５年度～現在）

高知県人権尊重の社会づくり協議会委員（令和元年度～現在）

高知市人権尊重のまちづくり審議会委員（副委員長）（令和元年度～現在）

高知地方労働審議会委員／高知労働局「求職開拓事業」に係る提案書技術審査委員会（委員長）（令和３年度～現在）

○学会活動における委員

日本社会福祉学会　査読委員

日本地域福祉学会　査読委員

日本介護経営学会　査読委員

日本老年社会学会　査読委員

（２）地域での講演（研修講師及び報告等）

○大学が主催するもの

教育研究活動報告書（長澤 紀美子）

１）高校生のための公開講座　県大立志塾 2025 第４回
「ジェンダーの思い込み、性のもやもやを考えてみよう。－私たちの SRHR（性と生殖の権利）が尊重されるために－」
講演及びグループワーク（ジェンダーサークルと共に）永国寺キャンパス 2026.2.14

〇学外の主催
２）「高知県での支援法施行後の変化と SRHR(性と生殖の権利）保障にむけて」
（『市民がつながり女性福祉を実現する会』設立総会及び講演会）リレートーク報告者
東京・淀橋教会　2025.11.3
３）「SRHR について高知から考える」『あたいの身体はあたいが決める「ジェンダー読書会ほたえる有志の会」第３弾』報告者　こうち男女共同参画センターソーレ 2025.8.24
４）「カナダ・ビクトリア大学での日本人初のクィアなシニアトランスメンとして」講師
『文京 SOGI にじいろサロン』（東京都文京区主催）（オンライン）2025.5.25
５）「カナダ・ビクトリア大学での学会参加報告　報告者
『LGBT 法連合会 国際連帯委員会』（オンライン）2025.7.12

〇総合評価及び今後の課題

（１）教育活動
・学生への細やかなフィードバックや可能な限り個別対応等の双方向的な教育を心がけているが、学部長としての管理的業務との両立が課題である。
・卒業生（ゼミ生）が博士前期課程に入学し研究指導を担うこととなった。学部のゼミと修士との研究指導の接続について今後の検討課題としたい。

（２）研究活動
・科研のテーマである、昨年度末のカナダのビクトリア大学での学会参加を機に、カナダ及び日本の LGBTQ 支援者・研究者（ガーベン・サンチェス氏（ビクトリア大学ソーシャルワーク学科助教）、原ミナ汰氏（日本のアクティビスト・支援者）を基調講演者として招聘し、日本及びカナダのシニアトランスジェンダーのトラウマに関する国際シンポジウムを開催し、国内外から 80 名の参加者を得た。これらの報告に関する情報や研究を取りまとめたサイトを作成し、広く科研の成果を公表することが課題である。

（３）社会貢献
・関東を中心とした女性福祉支援者と共に「市民がつながり女性福祉を実現する会」を立上げ、その理事として年度内 2 回の研究会開催に協力した。11 月の総会では、高知の女性支援の状況についてリレートーク形式で報告した。
・女性支援新法の施行に基づき、昨年度、こうち妊娠 SOS みそのらんぷ（主催者）の職員及び教員と学生、県関係者とで企画運営した若年女性の居場所づくり（女子カフェ FIRST PLACE）が今年度は定期開催となり、本学の関与はジェンダーサークルの学生の協力という形で継続している。またジェンダーサークル生が活動の一端を担うおるきの夜間アウトリーチ活動も開始した。このような場で子どもの課題解決の志を持つ社会人と協働することで学生の確かな成長に繋がっている。

（４）学内業務について
・学部長 2 期目の 2 年目として、昨年度に引き続き、学部教員や入試課・戦略課の事務職員との協力のもと、志願者確保に向けた県内及び中四国への高校訪問、県

キャリア教育推進事業等を県内だけでなく四国全域に広げる入試広報を優先課題として取り組んだ。今後の若年人口の減少動向を踏まえ、次年度以降も多様な媒体での広報や高校生及び保護者・高校教員に向け、社会福祉に関する関心を喚起するような発信の量と質を高める取組みを継続したい。

・教員体制については、精神保健福祉コースで教員が 2 名着任し、欠員が充足できた。また欠員であったソーシャルワークの助教１名を次年度から採用することができ、教員体制が強化された。

一方で、全学的なカリキュラムの見直しの中で、学部の特長である３福祉士の資格養成を堅持すると共に、新たな魅力や学部の特性の広報など、持続的な学部運営にと志願者確保に向けて教員間で協力して取り組んでいきたい。

西 内　章

Akira NISHIUCHI

○ 研 究 活 動

1. 科学研究費助成事業

研究種目　基盤研究（C）:2023 ～ 2026 年度

研究代表者　西内章

研究課題　『身上保護を行う地域連携ネットワークにおけるソーシャルワーク実践モデルの構築』

2. 研究会

ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授　太田義弘先生が設立、京都府立大学公共政策学部教授　中村佐織会長）」に所属し，アセスメント支援ツールの研究開発を行った.

○ 教 育 活 動

［学部専門教育科目］

①「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」
②「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」
③「虐待防止論」
④「ケアプラン策定法」
⑤「ソーシャルワーク演習Ⅲ」
⑥「ソーシャルワーク演習Ⅳ」
⑦「ソーシャルワーク演習Ⅴ」
⑧「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」
⑨「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」
⑩「ソーシャルワーク実習Ⅰ」
⑪「ソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ」
⑫「社会福祉専門演習Ⅰ」
⑬「社会福祉専門演習Ⅱ」
⑭「社会福祉専門演習Ⅲ」
⑮「社会福祉専門演習Ⅳ」

［大学院人間生活学研究科・博士前期課程］

①研究方法論Ⅱ
②ソーシャルワーク論
③高齢者福祉論
④課題研究演習

［大学院人間生活学研究科・博士後期課程］

①研究倫理
②地域ソーシャルワーク学
③社会福祉学特別研究Ⅰ

2025年度は、大学院博士前期課程で主指導教員として関わった大学院生 2 名が修士論文を提出し、修士の学位を取得した。

教育研究活動報告書（西内 章）

○委 員 会 活 動

・教務部長
・アドミッションセンター長
・総務・危機管理本部委員
・情報セキュリティ本部会議委員
・人事関係検討会委員
・自己点検評価委員
・学部総務・予算委員会委員
・入試広報部会委員

○社 会 的 活 動

［委員等］
・高知リハビリテーション専門職大学非常勤講師
・高知県行政不服審査会委員
・高知県地域福祉活動支援計画推進委員会副委員長
・高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長
・高知県教育振興基本計画推進会議委員
・高知県日常生活自立支援事業契約締結審査会委員長
・高知市成年後見制度利用促進審議会会長
・高知市高齢者・障害者虐待予防ネットワーク会議会長
・高知市社会福祉協議会評議員
・高知市成年後見サポートセンター運営委員会会長
・高知市社会福祉協議会これから安心サポート事業審査委員会委員長
・中土佐町権利擁護システム推進委員会委員長
・津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員
・津野町成年後見制度利用促進協議会委員
・津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員

［研修会講師・講演等］
・高知県児童福祉司任用前講習会講師「児童家庭支援のためのケースマネジメント基本（１）」（ 2025 年 5 月 28 日）
・高知県教育委員会研修講師「令和 7 年度スクールソーシャルワーカー活用事業初任者研修会」（ 2025 年 5 月 30 日及び 10 月 24 日）
・高知県心の教育センター令和 7 年度スクールソーシャルワーカー学習会講師「 SSW の動き方について－基礎編・応用編－」（ 2025 年 6 月 14 日）
・令和 7 年度第 22 回地域福祉実践セミナー・実践報告アドバイザー「つながりの再構築」（ 2025 年 7 月 13 日）
・令和 7 年度高知県社協職員ベーシック研修講師「対人援助職における権利擁護の視点」（ 2025 年 8 月 12 日）
・令和 7 年度高知県入退院支援事業研修講師「第 2 回多職種協働研修」（ 2024 年 8 月 20 日）
・高知県社会福祉協議会・高知県運営適正化委員会主催令和 7 年度福祉サービス苦情解決セミナー講師「日々の支援と苦情の向き合い方－利用者・家族との関係性から－」（ 2025 年 9 月 2 日）

・令和７年度高知県医療ソーシャルワーカー協会基礎研修講師「保健・医療・福祉をめぐる動向・諸制度の変遷」（ 2025 年９月 21 日）
・令和７年度高知県キャリア教育推進事業訪問型研修「須崎総合高校×高知県立大学社会福祉学部『社会福祉って何だろう』」（ 2025 年９月 24 日）
・令和７年度高知県キャリア教育推進事業訪問型研修「中村高校×高知県立大学社会福祉学部『社会福祉って何だろう』」（ 2025 年９月 26 日）
・徳島県社会福祉協議会福祉人材センター説明会司会「徳島県就職インターンシップについて（高知県立大学）」（ 2025 年 12 月３日）
・令和７年度医療的ケア児等支援者養成研修講師 「【福祉】支援の基本的枠組み、福祉制度、遊び・保育・家族支援」（ 2025 年 12 月５日）
・しまんと町社会福祉協議会ふくし大会パネルディスカッション・コーディネーター「四万十町ふくし大会2026～つながる・広がる・子どもまんなかの地域づくり～」（ 2026 年２月 15 日）
・高知県社会福祉協議会・高知県運営適正化委員会主催福祉サービス第三者委員ブロック別研修会講師「事故やトラブルを防ぐ相談対応とコミュニケーション・スキル」（ 2026 年２月 18 日）
・津野町社会福祉協議会民生児童委員・福祉委員合同研修会研修講師「津野町の見守り活動について」（ 2026 年３月９日）

〇総合評価及び今後の課題

令和７年度の社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳでは、４回生６名の卒業研究論文指導を行った。大学院では博士前期課程１回生１名及び２回生２名、博士後期課程１回生１名の主指導を担当した。教育活動については、学生の意見を聞きながら、授業目標・授業内容・教材の関連性を引き続き検討したいと考えている。

研究活動では、科研費の研究が計画通りに進んでいない箇所があるため、研究期間を 2026 年度まで１年間延長した。引き続き研究計画を修正しながら研究を行いたい。

委員会活動では、教務部長及びアドミッションセンター長として大学の教育と入試広報等に取り組んだ。

社会的活動については、外部委員としての活動と、外部研修の講師を行った。社会的活動は、自らの研究活動と関連しているテーマも多いため自己研鑽になっている。

次年度も教育活動及び研究活動、委員会活動、社会的活動に継続的かつ積極的に取り組み、現在の自分を見つめ直し、気づきを得ながら改善に取り組み、尽力したいと考えている。

西 梅　幸 治

Koji NISHIUME

○研　究　活　動

（１）研究会参加

１）エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加

（２）研究資金の導入

１）基盤研究（C）「分担研究：ヤングケアラーとその家族の家族レジリエンスを促進する看護ガイドラインの作成」（令和６～８年度）研究代表者：森下幸子

（３）論文等

論文

１）西梅幸治（2025）「スーパービジョンにおける課題中心モデルの意義―エンパワメント実践との関連から―」『ソーシャルワーク支援研究』２，27-45.

著書

１）西梅幸治（2025）「子ども・家庭福祉領域におけるソーシャルワーク実習」村井美紀・六波羅詩朗編著『学生のためのソーシャルワーク実習―福祉専門職をめざして―』学文社，67-83.

○教　育　活　動

（１）担当科目

（学部）

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」　「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」
「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」　「ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ」
「ソーシャルワーク演習Ⅰ」　「ソーシャルワーク演習Ⅱ」
「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」　「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」
「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」　「ソーシャルワーク実習Ⅰ」
「ソーシャルワーク実習Ⅱ」　「ソーシャルワーク実習Ⅲ」
「社会福祉専門演習Ⅰ」　「社会福祉専門演習Ⅱ」　「社会福祉専門演習Ⅲ」
「社会福祉専門演習Ⅳ」　「ソーシャルワーク演習Ⅴ」

（大学院）

M「研究方法論Ⅱ」　M「ソーシャルワーク論」　D「研究倫理」

（２）クラブ活動

・グローカルクラブ顧問　・編み物サークル顧問　・室戸ボランティアサークル
・国際ボランティア BWP_高知県立大学

○委 員 会 活 動

全　学

・大学院入試監査委員会（長）　・教務委員会　・リ・デザインプロジェクト併任
・社会福祉学部専門教育検討ＷＧ（長）

学　部

・教務委員会（長）　・人事関係検討会　・自己点検評価委員会　・入試広報委員会

教育研究活動報告書（西梅 幸治）

○社 会 的 活 動

・エコシステム研究会　副代表
・四国中央医療福祉総合学院　非常勤講師
・高知リハビリテーション専門職大学　非常勤講師
・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業　スーパーバイザー
・高知県福祉教育・ボランティア学習推進委員会　委員（長）
・高知県福祉人材センター・高知県福祉研修センター運営委員会　委員（副）
・高知県不登校児童生徒の多様な教育機会確保に関する協議会　委員
・高知市教育研究所運営委員会　委員（副）
・高知市不登校対策専門家支援チーム　委員
・日本学校ソーシャルワーク学会　査読委員
・日本学校ソーシャルワーク学会　中国四国ブロック運営委員
・特定非営利活動法人 結人の紬　就労支援事業所 未来ドア　第三者委員
・高知県子ども・福祉政策部　講師「児童福祉司任用前講習会　ソーシャルワークの基本」（2025 年５月 22 日）
・高知県社会福祉協議会　講師「先輩職員研修」（2025 年７月４日）
・オープンキャンパス　講師「社会福祉学部　体験授業」（2025 年７月 26 日）
・高知県介護支援専門員連絡協議会　講師「ケアマネジメント実践における資質向上のための研修」（2025 年８月５日）
・高知県隣保館連絡協議会　講師「新任職員研修Ⅱ」（2025 年９月 25 日）
・介護労働安定センター高知支部　講師「主任介護支援専門員スーパービジョン研修」（2025 年 10 月２日～４日）
・高知県子ども・福祉政策部障害福祉課　講師等「サービス管理責任者等更新研修 SV 勉強会」（2025 年 10 月 17 日、11 月７日）
・地域共生学研究機構シンポジウム　報告者「Kochi Teens Base―高知県心の教育センターとの協働によるリ・デザイン―」（2025 年 11 月７日）
・高知県社会福祉協議会　コーディネーター「第 76 回高知県社会福祉大会」（2025 年 11 月 19 日）
・要約筆記者養成講座　講師「対人援助」（2025 年 12 月６日）
・高知県子ども・福祉政策部障害福祉課　講師「サービス管理責任者としてのスーパービジョン」（2025 年 12 月 12 日）
・高知県社会福祉協議会　講師「介護支援専門員実務研修　相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」（2025 年 12 月 20 日）
・高知県心の教育センター　講師「令和７年度第３回スクールソーシャルワーカーグループ学習会」（2026 年２月 14 日）
・高知県社会福祉協議会　講師「相談援助応用研修」（2026 年２月 19 日）
・高知県社会福祉士会　講師「実習指導概論」（2026 年２月 28 日）
・高知県社会福祉協議会　講師「新任職員研修ステップ３」（2026 年３月 11 日）

教育研究活動報告書（西梅 幸治）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

研究活動については十分とはいえないが、継続的に研究を行ってきた。今年度は、研修の依頼のあったスーパービジョンについて、先行研究をレビューしながら追究した。これまでの実習教育をふまえ、共著でのテキストを刊行できた。定期的な研究会は、各大学の研究者から助言や示唆を得ながら、e スキャナーの新たな開発に取り組み、今後の方向性を検討することができた。自身の主たる研究テーマについては、具体的な成果の発信を意識して取り組んでいきたい。

（２）教育活動について

特に講義系科目では、より実践に向けた応用的な内容を教授する必要性から、講義資料に根拠を明示するとともに演習要素を改善し、実践場面での理論の応用をイメージできるように工夫した。講義後には、フィードバックによって、授業展開の修正ならびに学生回答の提供、追加資料の配付なども継続して行った。引き続き、理論と実践を融合した支援展開の修得や新カリキュラムとなり傾向が変わってきた国試の状況も見据え、学生自身が目標を持って授業に取り組むための工夫を重ねていきたい。

実習科目では、新カリキュラムでの児童福祉領域の担当が３年目となった。授業内容や事前学習などで、ソーシャルワークとともに領域を意識した事前指導に努めた。ふり返りの授業である演習Ｖでは、昨年度から研修資料を参考にしたグループ・スーパービジョンに取り組み、今年度はグループ・ダイナミクスが効果的に作用し、自己覚知や専門職としての姿勢が養われ、将来への動機づけを高めていく成長プロセスを感じることができた。

また今年度は、５名の学生の卒論指導を行った。ゼミでの相互作用に苦慮した面もあったが、個別指導を中心に個々の研究の独自性を具体化できるように指導を行った。後期から就職活動や実習などの影響により進捗状況に大きな差がみられたものの、各自の努力によって卒業論文の提出とともに、国家試験でもよい成果を残すことができた。２名の学生については、分析結果の最終提出に課題がみられた。

（３）委員会活動・社会的活動について

教務委員長としては、活動計画をもとに、会議や卒論関連の発表会の効果・効率的な運営と連絡調整に努めた。専門教育 WG では、先生方のご協力のもと、令和９年度に向けたカリキュラムを概ね構築することができた。リ・デザインプロジェクトについては、２年目であり、高知県心の教育センターとともに Kochi Teens Base を安定的に運営できた。センター企画、戦略広報課企画、そして学生企画のイベントなども開催することができ、子どもたちと学生が安心・安全に、そして有意義に過ごすことができた。

社会的活動についても、継続して高知県スクールソーシャルワーカー活用事業や要約筆記者養成、ならびに高知県社会福祉協議会での研修などにも尽力できたと感じている。特に今年度は、高知県社会福祉大会のコーディネーターを務め、報告者や県内の社会福祉協議会、民生委員の方々との貴重な出会いの機会となった。新任研修は、最後となったが、卒業生３名に貴重な報告をしていただいた。また障害福祉サービス事業のサービス管理責任者の研修や主任介護支援専門員の研修の実施に向けて、継続的に準備をしながら、ファシリテーターの方々や大熊助教のサポートもあり、無事に終えることができた。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に貢献していきたい。

矢 吹　知 之

Tomoyuki YABUKI

○研 究 活 動

（著書）

・林崎光弘，矢吹知之：認知症の人とともに歩むグループホームケアの理念と実践．中央法規出版，2025年4月

・竹本与志人,神部智司,杉山京編著、矢吹知之ほか：高齢者福祉論,法律文化社,2025年４月

・鈴木みずえ,矢吹知之ほか：癒しのマフ－人とひとがつなぐ認知症ケア－．クリエイツかもがわ,2025 年７月

・高齢者虐待防止学会編,矢吹知之ほか：イラストでわかる高齢者虐待防止トレーニング BOOK．中央法規出版，2025 年 10 月

・渡部信一,矢吹知之ほか：高等学校情報Ⅰ（教科書）.

（論文）

・矢吹知之：アタッチメントと認知症家族．コミュニティケア26（6）pp38－42,2025年6月

・ Ayako Edahiro, Chiaki Ura, Mika Sugiyama, Kae Ito, Fumiko Miyamae, Tomoyuki Yabuki, Tsuyoshi Okamura :Preliminary Research of Post diagnostic Support Provided by Medical Centers for Dementia in Japan: A Nationwide Survey and Descriptive Analysis Based on the Mission of These Centers. Psychogeriatrics25（5）e70074(2025.9)

・ Okamura T, Wakui T, Ito K, Yabuki T：Factors Related to Delayed Diagnosis and Care
Access in Dementia: A Preliminary Descriptive Study of the ’Blank Period’ in Japan.
Psychogeriatrics. 2026 Jan;26(1):e70134. doi: 10.1111/psyg.70134. PMID: 41506660.

・矢吹知之：老年精神医のための知っておきたい社会資源と法令の知識：連携・チームアプローチのためにインフォーマルケアにおける家族会・認知症カフェ・ミーティングセンター．老年精神医学雑誌 36（9）pp884－891.2025 年 10 月

（学会報告）

・岡村毅,宇良千秋,川辺亮,作田竜一,佐々木秀之,矢吹知之：農業をいかした高齢者の生きがいづくり,役割創出,社会貢献,社会参加に関する調査．第 40 回日本老年精神医学会．2025 年９　　月.

（競争的研究資金獲得状況）

・共同創造に基づく「認知症カフェ包括的評価指標」の確立（基盤研究 C 研究課題 24K05477）（研究代表者：矢吹知之）2023 年～2026 年３月.

・効果的な認知症の診断後支援の確立に向けた調査研究（厚生労働省科学研究費

24GB0301）（研究代表者：岡村毅，共同研究者：矢吹知之）2024 年～2026 年

・抗アミロイド抗体薬治療を踏まえた認知症の人の介護家族等への支援の実態調査研究（厚生労働省科学研究費 25GB0301）（研究代表者：冨本秀和、分担研究者：矢吹知之ほか）2025 年～2027 年

・アジア圏における国際通用性を目指した認知症ケアの実践教育パッケージの有効性検証（基盤研究 C25K14262）（研究代表者：山崎尚美，共同研究者：矢吹知之）2025 年～2027 年

・ 高齢者施設において実装可能ながんの病の軌跡に基づく ACP 支援モデルの開発（基盤研究 C25K14194）　（研究代表者：藤田佐和，共同研究者：矢吹知之）2025 年～2027 年

○教　育　活　動

（担当科目）

・学部

認知症の理解Ⅰ,認知症の理解Ⅱ,高齢者福祉論Ⅰ,高齢者福祉論Ⅱ，社会福祉専門演習Ⅰ，社会福祉専門演習Ⅱ，社会福祉専門演習Ⅲ，社会福祉専門演習Ⅳ，生活支援技術Ⅴ，介護課程Ⅲ，生活と社会福祉

・大学院

認知症ケア論，リンクワーカー論,研究方法論

○委 員 会 活 動

・実習員会（委員長），FD 委員会，3 回生学年担当，大学院入試実施委員会

○社 会 的 活 動

（大学主催学外向け研修等）

・社会的処方プロジェクト：認知症カフェ「土曜の永国寺カフェ」

（学会等）

・日本認知症ケア学会 理事，日本認知症ケア学会総務委員会

・日本高齢者虐待防止学会 理事，日本高齢者虐待防止学会組織拡大員会（委員）
第 21 回日本高齢者虐待防止学会高知大会　大会長

・日本老年社会科学会 評議員

・高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会　委員長

・共生社会の実現を推進するための認知症基本法のわかりやすい解説冊子作成及び自治体への周知に関する広報事業一式に係る提案書審査委員会　委員（厚生労働省）

・高知市認知症になっても安心して外出できる街を考える会（高知市）委員

・be Orange 2024 選考プロジェクト　選考委員（NPO 法人認知症フレンドシップクラブ）

・令和７年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業「認知症施策推進のための市町村支援等の環境整備に関する調査研究事業」検討委員

・令和７年度 厚生労働省老人保健健康増進等事業「認知症施策推進基本計画に基づく認知症施策の推進のあり方に関する調査研究事業」検討委員

・令和７年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業「認知症の人の診断直後のピアサポート活動の実施体制構築に向けた調査研究事業」検討委員

・令和７年度厚生労働省委託事業「日本認知症官民協議会「令和７年度　認知症バリア

フリー宣言等検討委員会」検討委員
・高知県認知症施策推進会議　委員

（主な学外講師，講演）
・黒潮町認知症施策推進研修会（黒潮町）2026 年 6 月
・登米市認知症カフェ運営者研修（宮城県）2026 年 6 月
・高知市認知症地域支援推進員研修（高知市）2026 年 7 月
・砂川町認知症士官医療センター研修（オンライン）2026 年 7 月
・京都府認知症カフェ連絡協議会研修（オンライン）2026 年 7 月
・高知県高齢者虐待防止・権利擁護研修（高知市）2026 年 8 月
・姫路市認知症フォーラム（姫路市）2026 年 8 月
・出雲市認知症の人と家族への一体的支援プログラム研修（島根県）2026 年 8 月
・武蔵野市地域包括支援センター職員研修（東京都）2026 年 8 月
・四国厚生支局認知症セミナー（香川県）2026 年 8 月
・土佐清水市認知症フォーラム（土佐清水市）2026 年 9 月
・認知症の人と家族の会徳島県支部アルツハイマーデー記念講演会（徳島市）2026 年 10 月
・北信総合病院認知症研修会（長野県）2026 年 10 月
・安来市認知症理解啓発研修会（島根県）2026 年 10 月
・神戸市認知症カフェ研修会（神戸市）2026 年 11 月
・茨城県ひたちなか市認知症まちづくり講演会（茨城県）2026 年 11 月
・高知県認知症地域視線推進員研修会（須崎市）2026 年 12 月
・仙台市認知症カフェネットワークミーティング（仙台市）2026 年 12 月
・鹿児島県地域包括支援センター研究会（オンライン）2026 年 12 月
・高知県主催認知症地域支援推進員研修（四万十市会場）2026 年 1 月
・日本認知症ケア学会中四国ブロック研修会特別講演（広島県）2026 年 1 月
・高知県中央東保健所研修会講師（香南市）2026 年 1 月
・仙台市　認知症地域支援推進員フォローアップ研修会講師 2026 年 1 月
・高知市介護支援専門員研修会講師（高知市）2026 年 2 月
・四万十市高齢者虐待防止研修（四万十市）2026 年 2 月
・高知市認知症地域支援推進員研修（高知市）2026 年 2 月
・北川村認知症サポーターフォローアップ研修（四万十市）2026 年 2 月
・仙台市認知症地域支援推進員養成研修講師（仙台市）2026 年 2 月
・大阪府箕面市認知症カフェ研修会（大阪府）2026 年 2 月
・認知症介護指導者全国ネットワーク研修講師（岡山市）2026 年 2 月
・横浜市認知症カフェ研修会（オンライン）2026 年 2 月
・介護労働安定センター虐待防止研修（土佐市）2026 年 2 月
・宇治市認知症フォーラム講演（京都府）2026 年 3 月
・福岡県グループホーム協会研修会講師（福岡市）2026 年 3 月
・島根大学認知症推進啓発研修会（出雲市）2026 年 3 月

○総合評価及び今後の課題

（研究活動）
研究代表を担う基盤研究 C「共同創造に基づく「認知症カフェ包括的評価指標」の確立（基盤研究 C 研究課題 24K05477」の他、共同研究 4 本が新たに加わった。これら研究を学務と両立しつつ計画通り進める.

（教育活動）

教育研究活動報告書（矢吹 知之）

授業評価の結果をもとに講義内容を精査するとともに，研究内容を講義に活かしつつ教育の質を高めていきたい.

（委員会活動）

FD 委員会，実習委員会、大学院入試実施委員に参画,次年度さらに貢献できるように努める.

（社会的活動）

市町村自治体や専門職団体から研究内容に対する研修依頼，講演依頼が多くあった.研究と研修　及び大学の知名度の向上に務められるよう研究と教育の発信を続けたい.また，県内自治体についても積極的な発信を行いたい.

（国際交流）

多様な研究機関との連携が進み，共同研究の機会が増えた．次年度は研究成果について国際学会において発信を行いたい.

加 藤　由 衣

Yui KATO

○研　究　活　動

（１）論文・著書等

・なし

（２）研究会参加

・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（３）競争的資金の獲得状況

・科学研究費助成事業（基盤研究Ｃ）「省察ツールを活用したソーシャルワークにおける省察的実践家の熟達モデルの開発」（令和５年度～令和８年度），研究代表者

（４）その他

・日本社会福祉士養成校協会編（2025）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2026』中央法規

○教　育　活　動

（１）担当科目

・「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」
・「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」
・「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」
・「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」
・「児童・家庭福祉論」
・「子育て支援論」
・「虐待防止論」
・「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
・「ソーシャルワーク演習Ⅴ」
・「ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」
・「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」

（２）学生支援

・４回生学年担当
・バスケットボール部顧問
・ハモ☆いけ顧問
・こどもみらい塾顧問

○委 員 会 活 動

（１）全学委員

・学生委員会
・入試実施委員会

（２）学部委員

・学部学生委員会
・学部入試実施委員会
・学部就職委員会
・学部入試広報委員会

○社 会 的 活 動

（１）委員・学外講師等

・南国市教育委員会スクールソーシャルワーカー
・高知県教育委員会チーフスクールソーシャルワーカー

・高知県社会福祉士会理事
・高知県子どもの環境づくり推進委員会委員
・土佐市子ども・子育て支援会議委員
・高知工業高等専門学校 第三者調査委員会委員
・日本学校ソーシャルワーク学会査読委員
・日本社会福祉教育学会査読委員
・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「社会福祉調査の基礎」担当）
・高知県子ども・福祉政策部　児童福祉司任用前講習会「子ども家庭福祉における倫理的配慮」講師（2025/6/5）
・日本ソーシャルワーク教育学校連盟「教員向けの福祉に関する研修」講師（2025/7/7）
・高知県福祉研修センター事業「相談援助技術基礎研修」講師（2025/10/16）
・高知県社会福祉士会基礎研修Ⅱ「実践研究の意義と方法／実践研究のための記録／実践評価・検証の方法」講師（2025/11/1）
・三好市社会福祉法人公益活動「よりそい相談研修会」講師（2025/12/3）
・要約筆記者養成講座「社会福祉従事者としての専門性」講師（2025/12/13）

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

科研費（基盤研究Ｃ）の研究において、省察的実践家としての熟達モデルの開発に向けて、継続した理論研究からソーシャルワーカーの熟達に関する先行研究の整理を行ったが、十分研究活動に時間を割くことができず研究が計画通り進まなかった。次年度は、省察的実践の熟達モデルの開発に向けた質的調査のデザイン・実施など、計画的に研究を進めていきたい。あわせて、エコシステム研究会で開発しているｅスキャナーについて、熟達モデルの導入に向けたツールの機能改良も検討していきたい。

（２）教育活動について

講義科目では、これまでの授業評価アンケート結果をふまえ、グループワークや視聴覚教材を取り入れつつ、学生同士の意見交換や実感をもった学びを重視して授業を展開した。また、学修支援システムの機能を通して学生の考えや意見を全体で共有するなどＩＣＴの活用や、国家試験を見据えた過去問によるふり返りなども取り入れた。加えて、学生の目標達成や意欲面が相対的に低いという過去の授業評価結果から、授業導入でその日の目標の提示や終了時の達成度の把握など、学生の意識の醸成を図る工夫を試みた。今後は、授業評価等からこの試みの成果を把握しながら、さらなる改善を検討したい。

実習教育においては、学生同士で学び合い、考えを深めることができるように、グループでの相互添削や意見交換を取り入れながら、個々の学生の状況を把握し個別指導を行うなど、集団と個別を意識した指導を展開した。次年度以降も、個々の学生の状況を丁寧に把握し、実習指導者とも連携しながら学生の指導・支援に取り組んでいきたい。

また４回生の学年担当として、就職活動の相談や個々の学生の履修相談、生活相談に応じながら学生が充実した学生生活を送ることができるよう支援した。特に、就職活動に伴う不安や国家試験・卒業研究とのスケジュール管理などの悩みなど４回生ならではの悩みを抱える学生も多かったため、個々の学生の抱える不安・悩みを面談等で把握し、ゼミ指導教員と連携しながら相談・助言を行った。

河 内　康 文

Yasufumi KOCHI

○研 究 活 動

１．論　文　等

The Barriers and Opportunities of Foreign Care Workers in Japan, Yasufumi Kochi, Journal of Gerontological Social Work, published online: 06 Oct 2025. https://doi.org/10.1080/01634372.2025.2555474

Social work and the understanding of help: Learning from narratives of residents of Japan's national Hansen's disease sanatoriums, Yasufumi Kochi, Maki Tanaka, and Mari Uesugi, International Social Work, first published online March 2, 2026. https://doi.org/10.1177/00208728261418226

河内康文「介護職員による越境的学習のプロセスに関する実証的研究」『中国・四国社会福祉研究』第 13 号、pp.42–55、2026 年 3 月.

田中眞希・河内康文・上杉麻理「介護福祉を学ぶ大学生のハンセン病療養所訪問における変容的学習プロセス—フォーカスグループインタビューに基づく分析—」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第 75 巻、pp.43–54、2026 年 3 月.

○教 育 活 動

１．介護の基本Ⅰ　２．介護過程Ⅰ　３．コミュニケーション技術
４．介護総合演習Ⅰ　５．介護総合演習Ⅱ　６．介護総合演習Ⅲ
７．介護総合演習Ⅳ　８．介護実習Ⅰ　９．介護実習Ⅱ
10．介護実習Ⅲ　11．障害の理解Ⅱ　12．社会福祉専門演習Ⅰ
13．社会福祉専門演習Ⅱ　14．社会福祉専門演習Ⅲ　15．社会福祉専門演習Ⅳ
16．国際福祉論（オムニバス）

○委 員 会 活 動

１．入試実施専門部会（全学：学部入試実施副専門部会長）
２．入試広報委員会
３．広報委員会
４．介護福祉コース主担当
５．社会的処方プロジェクト委員

○社 会 的 活 動

１．委員等

（１）高知県障害者施策推進協議会　副会長
（２）高知県障害者差別解消支援地域協議会委員
（３）高知県自立支援協議会専門部会長
（４）高知県自立支援協議会　副会長
（５）高知市障害者計画等推進協議会　会長
（６）南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員

（７）いの町社会福祉協議会成年後見運営委員会　副委員長
（８）令和７年度高知県介護に関する入門的研修事業委託業務公募型プロポーザル審査委員会委員
（９）特別免許状に係る教育職員検定審査会委員

２．講演等

（１）出前講義　講師「社会福祉と学び」（三島高校）　2025 年 8 月 18 日
（２）出前講義　講師「社会福祉と学び」（池田高校）　2026 年 1 月 27 日

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動

「介護の基本Ⅰ」および「障害の理解Ⅱ」では、「読むこと」と「書くこと」の力を育成することを重視した。学生に対しては、テキストや資料を丁寧に読み、その内容を踏まえながら自らの言葉で感想や考えを記述するよう求めた。また、授業では読むことの重要性を繰り返し伝えるとともに、提出された記述に対してコメントを返すことで、一人ひとりの思考を深め、学びを言語化する力を養うよう努めた。あわせて、学生が自分の考えを他者に伝える力を意識できるよう支援した。今後は、学生の読解力、記述力、対話力の差に応じた支援をさらに工夫し、読むこと・考えること・書くことを基盤とした学びを、介護実践とより有機的に結びつけながら充実させていく必要がある。

２．研究活動

英文論文の投稿に取り組み、国際誌への投稿および査読対応を通して、多くの知見を得ることができた。とりわけ、海外の研究者との査読のやりとりは、研究内容をより明確かつ論理的に提示することの重要性を再認識する機会となった。また、研究の意義や方法、結果の示し方について、国際的な視点から再検討する契機ともなり、自身の研究の位置づけや課題を見直すうえでも有意義であった。論文表現の精緻化や研究構成の再整理の必要性についても多くを学んだ。今後は、これらの経験を踏まえ、研究の質の向上に努めるとともに、継続的かつ発展的な研究成果の発信を進めていく必要がある。

３．社会活動

高知県自立支援協議会の専門部会長として、高知県相談支援専門員人材育成ビジョン及び高知県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者人材育成ビジョンの作成を担い、人材育成の基盤の整備に寄与した。実践現場の状況や課題を踏まえつつ、人材育成の方向性を整理し、関係者との協議を重ねながら、支援体制の充実に資する基盤づくりに関与することができた。この取組は、地域における人材育成のあり方を具体的に示すものとなったと考えられる。今後は、策定したビジョンの具体化を図るとともに、その実効性や現場への波及について継続的に検証していく必要がある。

田中　顕悟

Kengo Tanaka

研 究 活 動

（１）論文・著書等

・田中顕悟「文化的視点を活用したメンタルヘルスソーシャルワーク実践の方途」
『高知県立大学紀要 社会福祉学部編 第 75 巻』，1-12，2026 年 3 月

（２）学会発表

・田中顕悟「Military Social Worker 養成ガイドラインの開発に関する一考察」
日本ソーシャルワーク学会（2025 年 7 月）

・田中顕悟「自衛隊員が直面する Moral Injury と Military Culture の関係性に関する一考察　－Military Social Work の先行研究より－ 」
日本社会福祉学会第 73 回秋季大会（2025 年 9 月）

教 育 活 動

（１）担当科目

〔社会福祉制度科目〕
・精神保健福祉の原理
〔学部専門教育科目〕
・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
〔ソーシャルワーク実践科目〕
・ソーシャルワーク演習Ⅲ・Ⅳ
〔総合科目〕
・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ

（２）学生支援

精神保健福祉援助実習指導における学生指導と併せて、就職活動等の相談に対応した。

委 員 会 活 動 等

（１）学部委員会

・総務委員会
・人権委員会
・図書委員会

社 会 的 活 動

（１）委員等

・社会福祉法人土佐あけぼの会　評議員（2025 年 6 月～）

（２）学外講師等

・2025 高知県立大学健康長寿研究センター事業
高知県立大学社会福祉学部　リカレント教育講座担当（2025 年 12 月 13 日）
「命・危険と向き合う人々と家族の心と体を支えるために」

・高知県立大学地域教育研究センター
令和７年度「県民大学公開講座」（2026 年 2 月 23 日～3 月 8 日・オンライン動画公開）
「Military Social Work 入門 ―その全体像とこれからの社会で必要な理由―」

総合評価及び今後の課題

（１）研究活動

着任初年度であったため、研究活動を十分に展開できたとは言い難い状況であった。研究テーマである「Military Social Work」については、昨年度より改定された米国の Military Social Worker 養成カリキュラム（以下、資料）の精査・分析と日本での援用の可能性について論究を行ってきたが、資料の基礎的な分析のみにとどまったため、2026 年度はより深い資料の分析に加え、米軍の「Behavioral Health Specialist」の活動実態・養成体系についても着目し、教育機関と臨床現場における兵士ならびにその家族へのサポートを担う専門職について論考を進める予定である。
また、研究テーマに関連し陸上自衛隊高知駐屯地（以下、駐屯地）への見学及び駐屯地で活動する公認心理師の講話を受ける機会を設定することができた。

今後はこの機会を基盤に長期的な視点で駐屯地との関係構築を進め、これまで実施が困難であった調査（隊員支援に関わる意識調査や公認心理師・部内カウンセラー等の活動実態の把握と課題の分析）または、社会・地域活動の一環として隊員と家族の生活支援活動等の可能性についても検討を進めていきたい。

（２）教育活動について

これまで、社会福祉士・介護福祉士養成課程における実習・演習及び講義科目の担当経験はあったが、精神保健福祉士養成課程の担当は初めてであったため、精神・社会福祉コースの全体像の理解・把握と、前任校までに担当した養成課程での教育活動にとらわれない、精神保健福祉士養成課程教員としての基礎固めを意識的に行った。　また、実習巡回指導においては、精神科病院・各種事業所の実習指導者との関係構築に努めた。

今後は、2025 年度の巡回指導・学生指導経験を振り返りつつ、専門職養成としての責務をあらためて認識しつつ学生主体の実習指導進めるとともに、実習機関指導者からの指導を積極的に求め、より高度な実習生指導を展開できるよう尽力したい。

また、初年度のゼミ（社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ）では１名の申し込みがあったため Military Social Work に関する基礎的知識の教授を行うとともに、4 年次の卒業論文の執筆を見据えた指導を進めた。しかしながら、当初予定されていた執筆スケジュールが十分に対応できなかったため、2026 年度はゼミ生と協議を進め、就活・実習の影響を考慮した早期の卒業論文完成を目指した指導を進める予定である。

さらに、2026 年度の社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳの担当学生は社会福祉士・精神保健福祉士国試の受験を予定しているため、国試対策についても計画的に対応することを心がけたい。

なお、社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱは 4 名の学生の担当することから、2025 年度の反省を基に、より計画的に研究活動及び卒業論文執筆について、学生が主体的かつより計画的に対応を進めることが出来るよう、講義計画の再構築に努める予定である。

（３）委員会活動・社会的活動について

初年度は、総務委員・図書委員・人権委員を担当した。

いずれも、各委員活動の全体像の把握に終始し、委員としての対応も後手になっていたことが反省点としてあげられる。2026 年度は、各委員会の活動計画にそって業務を進めるとともに、新たに担当となる委員会についても前任ならびに同じ委員会の他の委員の方々の指導を得ながら、あらためて委員業務の把握に努めるとともに、円滑な業務展開を心がけたい。

また、委員会活動の経過及び連絡事項について、連絡会・教授会での報告を定期的に実施するよう留意していきたい。

以上

辻　真 美

Mami TSUJI

○研　究　活　動

１．論文

・辻真美・三好弥生「ホームヘルパーに対する各種カスタマー・ハラスメント行為の特徴とその対応に関する考察」『介護福祉教育』30（1），pp69-75.2025 年 7 月.

２．学会発表

・森本寛訓・岡正寛子・辻真美「保育施設における事業継続計画とソーシャル・キャピタルならびに感情体験の社会的共有との関連」『中国・四国地域ブロック第 56 回愛媛大会』(ポスター発表)，2025 年 7 月 12 日.

３．学内外の競争的資金の獲得状況

・日本社会福祉学会中国四国地域ブロック研究助成事業
森本寛訓・岡正寛子・辻真美「重層的支援体制整備事業と連動した災害ケースマネジメント実践の現状と課題－中国・四国地方自治体におけるアウトリーチ・アセスメント・ケース会議の分析－」

４．その他

・田中きよむ・辻真美「韓国・台湾における女性・児童・高齢者福祉の動向と特徴」『Humanismus』37，pp29-57. 2026 年３月.

・日本介護福祉学会 2025 年度公開講座「転換期にある介護福祉の課題と展望」シンポジウム「離職防止と職場づくり」登壇，2025 年７月５日（オンライン）.

・第 19 回高知医療センター学術集会「特別演題　UOK 手話サークルの取り組みと学びの広がり」座長，2025 年 11 月１日 くろしお ホール.

・第 21 回日本高齢者虐待防止学会高知大会 特別企画 高齢者虐待対応の公開ケース・スタディ～現場課題をどう解釈し解決するのか？～「在宅介護現場におけるホームヘルパーが直面する虐待対応に関する課題」登壇，(2025 年９月 13 日）高知県立大学 永国寺キャンパス，抄録集 pp38-39.

○教　育　活　動

１．担当科目

〈学部〉・介護過程Ⅱ　・介護の基本Ⅱ，Ⅲ　・コミュニケーション技術
・社会福祉専門演習Ⅰ～Ⅳ　・介護総合演習Ⅰ～Ⅳ　・介護実習Ⅰ～Ⅲ
・生活支援技術Ⅴ　・地域学実習Ⅰ　・介護論（健康栄養学部）
〈大学院〉　・研究方法論Ⅱ　・介護福祉論

２．クラブ活動等

・UOK 手話サークル副顧問　・奈半利町社会福祉協議会あったか塾窓口担当

○委 員 会 活 動

・災害担当窓口　・健康長寿研究センター運営委員　・国際委員
・総務予算委員会　・教務委員会・介護人材確保事業部会
・災害対策推進ワーキングメンバー

教育研究活動報告書（辻 真美）

○社 会 的 活 動

１.委員等

・富士屋ヘルパーステーションベターライフ登録ヘルパー
・高知県ホームヘルパー連絡協議会副会長
・一般社団法人高知の在宅ケアを守る会理事
・高知県介護福祉士会倫理委員会委員
・高知市斎場運営協議会委員
・介護労働安定センター高知支部（ヘルスカウンセラー，雇用管理コンサルタント，介護人材育成コンサルタント）
・教職員によるハラスメント・児童生徒性暴力の防止等に係る外部有識者委員会
・日本認知症ケア学会代議員及び査読委員
・日本介護福祉学会理事及び査読委員
・日本高齢者虐待防止学会査読者リスト登録
・第 21 回高齢者虐待防止学会学術大会企画委員・大会実行委員
・特定非営利活動法人るーちぇ第三者委員
・高知県福祉・介護人材確保推進協議会構成員（認証評価制度検討部会）
・高知県若者応援産学官フォーラム 福祉人材分科会委員
・ふくしフェア 2025 実行委員
・平成福祉専門学校教育課程編成委員会委員
・社会福祉法人 特別養護老人ホーム はるの若菜荘評議員
・社会福祉法人 土佐市社会福祉事業団評議員
・高知県手話普及啓発委託業務公募型プロポーザル審査委員
・高知県手話言語普及推進協議会委員

２． 学外講師等

・高知大学「介護等体験事前指導」（2025 年４月２日 オンライン）
・永国寺キャンパス「介護等体験事前指導」（2024 年５月 20 日）
・高知市三里地区砂地キッチン地域交流会（2025 年４月 10 日）
・令和７年度 あったかふれあいセンター職員スタッフ研修「利用者の尊厳を守り適切なケアを行うための心構えについて」中央部西部地区（2025 年６月２日，16 日）
・令和７年度 あったかふれあいセンター職員コーディネーター交流会＆研修会「あったかふれあいセンター運営におけるリスクマネジメントー事故防止、再発防止について」（2025 年９月 17 日）
・令和７年度 あったかふれあいセンター職員スタッフフォローアップ研修「チームワークでつくる 育てる より良い あったかふれあいセンターを目指して」（１月 28 日）
・令和７年度市老連友愛活動部会研修会「熱中症予防と貯筋！」（2025 年６月 20 日）
・セカンドストーリー・りぐらっぷ 高知主催「私たちから見た世界～ふつうっていったいどういうこと？」３回生ゼミ生とともにスタッフを担当（2025 年７月 13 日）
・高知県ホームヘルパー連絡協議会 令和７年度高知県キャリア教育推進事業「高校生介護カフェ」高知中央高等学校 福祉介護グループ（2025 年７月４日），太平洋学園高等学校（2025 年７月８日），室戸高等学校「訪問介護員のシゴト～これからの高知県はどうなるのか～」（７月 14 日），高知農業高等高校 生活･総合科（７月 28 日），高知国際高等学校（11 月 14 日）
・室戸高等学校「第４回四国地区高校生介護技術コンテスト課題事例についての検討

および助言」（７月 14 日） ５・６限目授業
・健康長寿研究センター つながる保健室 in 四万十町十和「転びにくい体を一緒につくろう‼」（2025 年９月 26 日）
・一般社団法人高知の在宅ケアを守る会 生活援助従事者研修「介護保険制度，医療の連携とリハビリテーション，障害者福祉制度およびその他制度」2025 年８月６日（四万十市社会福祉センター），2026 年２月１日（ナチュラルハートフルネットワーク・トレーニングセンター）
・高知県福祉研修センター ケアテーマ別基本研修「レクリエーション」（2025 年７月７日，８月 19 日，10 月 22 日 オンライン併用）
・令和７年度高知県介護福祉士会倫理研修「倫理でつなぐ信頼のケア！ともに学ぼう高齢者虐待防止と職業倫理」講師補助（2024 年９月 17 日）
・県外高校訪問 香川県（14 校）（2025 年７月～９月）
・高知県キャリア教育推進事業訪問講座 岡豊高等学校，安芸高等学校，春野高等学校（2025 年 10／11，15，21）及び、事前訪問 岡豊高等学校（６月 27 日），安芸高等学校，春野高等学校（7 月１日）
・高知市三里地区サロン活動継続支援プロジェクト「日々の暮らしの中で災害に備える力を身に付けよう」（2025 年９月 10 日 池キャンパス，10 月 24 日 千松園）
・三里種崎地区町内会連合会主催 第 14 回種崎作品展ゼミ生」展示・交流（2025 年９月 27，28 日）
・第 20 回 いきいき百歳大交流大会「舟倉津波タワー会場紹介ポスター展示発表（辻ゼミ）」（2025 年 10 月 23 日）
・高知市老人クラブ連合会・三里ブロック老人クラブ 第２回三里ブロック健康まつりストレスチェックコーナー担当（2025 年 10 月５日）
・令和７年度高知県ホームヘルパー連絡協議会キャリア教育推進事業 集合研修 カイゴのシゴト１日バスツアー「進路についての講義」「高知県介護福祉士養成校学校説明会・魅力発信・進路相談」，ウエルプラザ高知・ふくし就職フェアへの高校生参加者引率（2025 年８月 23 日，2026 年２月 14 日）
・第 40 回本山町公開講座夜學（お昼の特別講座）「助け合いの関係づくり～介護の不安や負担をみんなで軽減しょう。気軽に集まり楽しく運動～」（2025 年７月 17 日）
・高知県福祉・介護職員若手職員研修及び介護交流会「コミュニケーションについて考える」（2025 年９月１日，12 月 22 日）
・託老 デコの里「UOK 手話サークルとともに行う手話教室」（2025 年８月 14 日）
・高知県キャリア教育推進事業 集合研修２ 引率および振り返りを担当「カフェで学ぶ福祉と認知症」（2025 年９月６日）
・高知県聴覚障害者情報センター 令和７年度 手話通訳者養成講座Ⅰ「障害者福祉概論」９月２日（高知市），９月４日（高知市），９月９日（四万十市），９月 12 日，９月 16 日，「ソーシャルワーク概論」12 月 25 日（高知市），2026 年１月６日（高知市）・９日（四万十町），１月 13 日（四万十市・宿毛市），20 日（香南市）
・高知県聴覚障害者情報センター 令和７年度 手話奉仕員養成講座「障害者福祉の基礎」（2025 年 10 月 24 日，30 日）
・高知県キャリア教育推進事業 集合研修３「県大生と行く最新の福祉体験ツアーinふくしフェア 2025」（2025 年 10 月 18 日）
・介護労働講習（実務者研修含）介護現場実習代替授業「介護職が受けるハラスメント」（2025 年 11 月 15 日）「サービス提供責任者とは」（11 月 19 日）

・安芸シルバー短期大学公開講座「高齢者が元気になる介護予防」（12 月 26 日）
・高知県ボランティア研修会 手話学習参加高校生へのファシリテーター及び総評（2025 年 12 月 21 日）
・香南市ふらっと café「①認知症を学ぼう！」（2025 年 11 月 24 日），「多世代交流で地域が活きる～遊び～」(2026 年３月 24 日)（ゼミ学生とともにファシリテーター，交流会，手話教室ミニ・コーナー）
・中堅民生委員・児童委員研修会「高齢者への声かけ・見守りのポイント」（2026 年２月３日，２月 24 日：高知市・須崎市）
・介護労働安定センター高知支部 ヘルスカウンセラー，雇用コンサルタント，介護人材育成コンサルタント（４／３ とさの里，５／15 土佐市社会福祉事業団，５／21 NPO 法人ありがとう，６／３ 一般社団法人カインドネス，６／10 デイサービスらく・らく，７／23 デイサービスセンターげんき，７／31 大月町社会福祉協議会，８／22 伊野福祉会，９／17 梅の木コーポレーション，９／19 すまいるケアヘルパーステーション，10／８ 土佐市役所，10／10 高知県通所サービス事業所連絡会，12／25 香南市社協および地域包括支援センター，２／２ ヘルパーステーションてのひら，２／18 高知県ケアマネジャー東部地区，３／５ デイサービスたんぽぽ，介護の会，介援隊，３／11 デイサービスセンターふじかわ，３／17 高知医療生活協同組合 計 20 件）
・富士屋ヘルパーステーションヘルパー定例会及び法定研修等（2025 年６月，10 月，11 月，2026 年１月，２月，３月）
・Ｋ²ゼミ月１回開催（2025 年４月～2025 年３月：９回）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

社会福祉専門演習では，三里地区でのスマホ教室や砂地キッチン，つながりたいとの交流会，サロン活動への参加を活動の一環として取り入れた．住民の地域生活の場に触れることで，住民の生活への想いや個々の強みを知り，将来，そういった方々の視点に立って支援ができる専門職になることを目的とした．学生がファシリテーターと各グループの発表を行い，参加者同士の交流を活発にした．

授業評価アンケートでは，ゲストスピーカーの方を招聘した授業回について「自分の信念を持って仕事をしていることが伝わった」というコメントが寄せられた．最前線で活躍する専門職の方の言葉は学生のこころにまっすぐに響くことが改めて認識された。

２．研究活動について

今年度，先生方の温かい励ましとご助言を頂き，ホームヘルパーへのハラスメントに関する論文を書き上げることができた．また，第 21 回日本高齢者虐待防止学会高知大会では貴重な機会をいただけたことに大変感謝いたします．

認知症ケアの視点を踏まえたカスハラを防止するための実践的マニュアル策定を目指した科研申請の結果は２年続けて不採択であった．しかし，共同研究者の先生方とともに再度内容を吟味し，次年度も意義ある研究として認めて頂けるよう粘り強く挑戦していきたい．何より，研究から得られた成果が現場の実践者にフィードバックできるよう，丁寧に分析を続けていくことを常に忘れず研究を進めていきたい．

３．社会活動について

今年度から高知県手話言語普及推進協議会の委員に就任し，条例制定後における高知県の取り組み状況を把握する中で，ろう者の方々の想いや考え方に触れ、新たな気づきを得ることができた．また、一人ひとりに寄り添う手話通訳者の方々の熱意を伺うことができ，非常に胸が熱くなった．今後も政策への動向を見守り，自己としてもできることを考え、行動し続けていきたいと考える．

また，介護・福祉専門職の方々を対象に，職場内外における「ハラスメントとその対策」をはじめ,「通所介護および在宅でのリスクマネジメント」,「レクリエーション活動」,「チームケア」等をテーマとした研修を行った．研修後に、介護現場が抱える具体的な課題についてご相談を受けることもあった．

各現場のニーズに沿った内容を目指していくことは，利用者や家族介護者の生活の豊かさや安心，居場所づくりへと繋がっていく．利用者及びケアラーの方々，エッセンシャルワーカーとして尊敬する現場の方々や卒業生に向けて，少しでも貢献につながる機会を創出できる社会活動を目指していきたいと考えている．

遠 山　真 世

Masayo TOHYAMA

○研　究　活　動

（１） 競争的資金の獲得

なし

○教　育　活　動

（１）担当科目

・相談援助演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ
・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
・相談援助実習
・福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
・障害者福祉論
・社会福祉調査の基礎

（２）学生支援

・卓球サークル顧問
・池吹奏楽部顧問

○委 員 会 活 動

（１）全学

・学部広報担当

（２）学部

・入試広報部会
・健康管理センター運営委員会
・実習委員会

○社 会 的 活 動

・高知県要約筆記者養成講座講師「社会福祉の基礎知識Ⅱ」担当
・高知県社会福祉協議会福祉職員基礎講座講師「障害福祉サービス」担当
・高知県障害者介護給付費等不服審査会委員
・土佐あけぼの会評議員及び第三者委員
・高知県自立支援協議会就労支援部会員

○総 合 評 価 及 び 今 後 の 課 題

（１）研究活動について

本年度は、高知県内すべての障害者就労継続支援Ｂ型事業所を対象に実施したアンケート調査のデータを整理し、単純集計を行うことができた。事業所の運営状況、利用者の障害の状況や作業面での課題、工賃の変化、工賃向上のための取り組みや課題などを把握で

きた。次年度はさらにデータ分析を進め、高知県内の障害者就労継続支援Ｂ型事業の現状と課題を明らかにし、今後求められる政策や支援について具体的に考察していきたい。

（２）教育活動について

昨年度と比べ本年度は、学生のコロナ感染も少なく、年間を通して対面授業を行うことができた。インフルエンザが流行し、特別欠席となる学生が増えた時期もあったが、後日授業の資料を配布したり、課題提出の期限を延長するなど配慮した。授業は対面で行いつつ、moodle を活用して課題提出やフィードバックを行った。

ソーシャルワーク実習についても、コロナ感染の影響は少なく、ほぼ予定通りに行うことができた。実習にあたって抗原検査が求められるケースは少なくなったが、毎日の検温や体調管理をしっかり行う必要がある。学生も、発熱した場合は実習先に連絡するとともに、教員にも報告をするなど、迅速で的確な行動をとることができた。

講義科目においては、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。復習問題や課題、小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深めたりできるよう努めた。３回生のゼミでは、重症児デイサービス事業所や障害者就労継続支援事業所、障害者自立訓練事業などを訪問した。学生自らが企画し、訪問先への依頼・調整などを行った。学生が主体的に企画・運営することにより、各自が何を学びたいのかを明確にし、それを訪問先へ伝える力を伸ばすことができた。４回生のゼミでは、個別指導が中心となったが、個々の学生の関心に沿ってスムーズに研究が進められるよう、情報収集や分析方法、論文としてのまとめ方などについて助言を行った。

（３）委員会活動・社会活動等について

委員会活動では、広報担当および健康管理センター運営委員として活動した。広報担当としては主に、オープンキャンパスの企画・運営を行った。オープンキャンパスの「体験授業」では、リ・デザインプロジェクトに携わる教員３名に依頼し、日ごろの活動内容や社会的意義などについて、高校生・保護者・高校教員に理解を深めていただく機会を設けた。「先輩との談話室」のコーナーでは、り・デザインプロジェクトやボランティアサークルで実際に活動している在学生と話し、社会福祉学部の雰囲気や、多様な地域活動を通して得られる経験や思いについて、生の声を聞いていただくことができた。

社会活動では、対面による専門職の養成講座を行うことができた。今後もさまざまな形で、地域住民や専門職の方々、高校生などに学んでいただけるよう貢献していきたいと考える。

また、今年度から高知県自立支援協議会就労支援部会の部会員となり、障害のある方々の就労支援や、就労継続支援事業所の工賃向上に向けて、必要な地域の環境や制度について検討を行った。これまでの研究成果を、政策策定や環境整備につなげられるよう取り組んでいきたい。

福 間　隆 康

Takayasu FUKUMA

○研　究　活　動

1　論文

・Takayasu Fukuma「Vocational adaptation and workplace challenges of employees with disabilities in a special subsidiary: A 4S model perspective」Journal of Vocational Rehabilitation, 63(3), pp.342-354, 2025 年 9 月。

2　学会発表

・福間隆康「特例子会社における精神障がい者の職場定着支援の実態――4S モデルと JD-R モデルに基づく質的分析」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第 56 回愛媛大会（2025 年 7 月）

・福間隆康「特例子会社で働く精神障がい者が語る“働き続けたい職場”――働きやすさを支える職場環境の要因とは」第 33 回職業リハビリテーション研究・実践発表会（2025 年 11 月）

3　外部資金の獲得状況

・科学研究費助成事業（基盤研究(C)）「障害のある従業員の組織社会化過程における個人の適応行動に関する研究」（2022 年度～2026 年度）研究代表者：福間隆康

○教　育　活　動

1　学部

福祉対象入門，福祉援助入門，地域福祉論Ⅰ，福祉研究法入門，福祉サービスの組織と経営，社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ，ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ，ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ，ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

2　研究科

研究方法論Ⅱ，福祉マネジメント論

○委 員 会 活 動

1　全学

・紀要専門部会

2　学部

・社会福祉研究倫理審査委員会
・実習委員会
・学生委員会
・学部入試広報委員

○社 会 的 活 動

1　委員等

・独立行政法人日本学術振興会特別研究員等審査会審査委員及び国際事業委員会書面審査員・書面評価員

・高知県若者所得向上検討チーム（福祉・介護分野）チーム員
・日本ソーシャルワーク学校教育連盟中国四国ブロック運営委員
・特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク地域連携事業部委員
・南国市社会福祉協議会南国ネットワーク連絡会委員
・南国市社会福祉協議会南国市あったふれあいセンター運営委員会委員

○総合評価及び今後の課題

１　研究活動

科学研究費助成事業基盤研究（C）の一部成果を海外学術誌に公表することができたことは，当年度の研究活動における重要な成果である。これは，研究計画に基づいて継続的に研究を遂行し，その成果を国内にとどまらず国際的な学術発信へと結び付けることができたことを示している。また，学会発表等を通じて研究内容の発信を継続しており，研究課題に即した知見の蓄積を着実に進めることができた。次年度は，引き続き基盤研究（C）の研究計画書に基づいて研究を推進し，その成果の一部を学会で報告するとともに，海外学術誌への投稿を進め，研究成果のさらなる発信と蓄積を図る。

２　教育活動

教育活動においては，アクティブ・ラーニングを重視し，学生が主体的に課題に向き合い，自ら考察を深めながら学修を進めることができる授業運営に取り組んだ。授業では，単に知識を提示する講義形式にとどまらず，問いかけを通じて学生の思考を促し，自らの考えを言語化し共有する機会を設けることで,主体的な参加を支える授業展開を意識した。あわせて,動画や各種資料の活用,身近な事例や実際のデータの提示,小段階の課題設定,自己評価の導入などを組み合わせることにより，学習内容への関心の喚起，理解の深化，学修内容の定着を図った。

これらの取組を通して，学生が既有の知識や経験と授業内容を関連付けながら学ぶ機会を確保するとともに，思考過程を可視化しながら学修を進める環境づくりを行うことができた。次年度は,学生による授業評価の結果を踏まえて授業方法の改善を進めるとともに,学生間の意見交換や相互学習をより活性化させる観点から，オンラインツールの効果的な活用方法についても検討を深めていく。

３　委員会・社会的活動

委員会活動及び社会的活動においては，社会福祉コースの主担当として，新カリキュラムに対応した実習関連科目及び現場実習を円滑に実施した。とりわけ，教育課程の変更に伴う対応が求められる中で，実習運営を着実に遂行したことは，学部教育の安定的実施に寄与する取組であった。

また，日本ソーシャルワーク学校教育連盟中国四国ブロック運営委員として，総会，運営会議，セミナー等に参加し，地域ブロックの運営に継続的に参画した。さらに，南国ネットワーク連絡会及び南国市あったかふれあいセンター運営委員会の活動を通じて，地域の関係機関･団体との連携に取り組み,地域福祉に関わる実践的課題への関与を継続した。

次年度は，これらの活動を継続するとともに，県内企業等との共同研究や産学官民連携の機会を通じて，教育研究成果の地域還元を一層進めることが課題である。

井上　夏子

Natsuko INOUE

○ 研 究 活 動

（１）論文・著書等

・井上夏子「日本の精神保健福祉領域のソーシャルワーカーの「危機感」についての一考察－名称変更が喚起する『惑い』から－」『高知県立大学紀要　社会福祉学部編』第 75 号，13-26，2026 年 3 月

（２）学会発表

・井上夏子「ソーシャルワークにおけるリーダーシップ試論」2026 聖隷クリストファー大学社会福祉学会（2026 年 3 月）

○ 教 育 活 動

（１）担当科目

〔共通教育科目〕

・専門職連携論

〔学部専門教育科目〕

・保健医療サービス
・精神保健福祉制度論
・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ
・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

（２）学生支援

・精神保健福祉・医療領域に関心を持つ学生の就職活動等の相談に応じた

○ 委 員 会 活 動 等

（１）全学プロジェクト・ワーキング

・教学本部拡大会議　社会福祉学部専門教育ワーキンググループ
・医療センター連携事業
・入退院支援（看護・社会福祉連携部会）多職種協働研修担当

（２）学部委員会

・教務委員会
・学部入試広報委員会
・実習委員会（精神保健福祉士養成課程・コース長）

○ 社 会 的 活 動

（１）委員等

・公益社団法人日本精神保健福祉士協会 地域精神保健福祉委員会 委員

（２）学外講師等

・高知県精神保健福祉士協会 公益社団法人日本精神保健福祉士協会「生涯研修制度」委託事業 研修講師

教育研究活動報告書（井上夏子）

○総合評価及び今後の課題

（１）教育活動

精神・社会福祉コースの担当教員として、着任して初年度となる１年を終えることができた。共にコース運営と学生の指導に取り組んでくださった先生方、学部事務、実習支援室の皆様、ご指導くださった学部の先生方に心から感謝の意を表したい。様々な面で試行錯誤しながら進めた部分が多くあり、学生の反応や要望から学ぶことも多かった。新しい環境の中、4 回生 25 名が全員国家試験に合格したことも、嬉しい報せとなった。頼もしい姿を見せてくれた学生たちに感謝したい。精神・社会福祉コースは、今後も多くの学生の履修が見込まれている。安定したコース運営により、学生たちに安心して学ぶことができる環境を提供していきたい。

共通教育科目（専門職連携論）、学部専門教育科目（保健医療サービス）では、精神保健福祉に留まらない、広い関心を持つ学生に対して講義・演習を行うことで、教育的知識・技術の向上に資する機会をいただいた。教員の実体験や現場の声が伝わる授業回は学生からの評価も高く、自らを使って働く、社会福祉の実践者であり教育者である自分自身の在り方を再認識した。今後も精進していきたい。

社会福祉専門演習では、学生の関心を共同研究としてまとめることに取り組み、議論を重ねながら研究を進めることの面白さ、難しさを共有した。学生の探求心や自身の考えを言語化することに伴走しながら、卒業研究で成果を出せるような指導を行っていきたい。

（２）研究活動

「精神保健福祉領域におけるパートナーシップ再考」をテーマに、学位請求論文の執筆を進めている。

今年度は、日本の精神保健福祉領域のソーシャルワーカーである PSW の名称変更に着目した論考が大学紀要に論文として掲載された。また、聖隷クリストファー大学社会福祉学会では「ソーシャルワークにおけるリーダーシップ試論」をテーマに学会発表を行った。調査研究では、精神障害当事者の方を対象に、体験的知識を問うエピソードインタビュー調査（質的調査）のトライアンギュレーションとして量的調査を行い、統合分析を行った。

研究活動においては、精神保健福祉領域のベテランソーシャルワーカー、精神障害当事者の方、ご指導くださる先生方の様々なご協力を得て進めている。研究成果の実践現場への還元を目指し、引き続き、自身を鼓舞しながら研究に取り組んでいきたい。

（３）社会活動

公益社団法人日本精神保健福祉士協会では、地域精神保健福祉委員会の委員として籍を置いている。地域における相談支援の展開について、現状把握と政策提言、啓発活動を行う中で、人材育成にかんする大学教育の現状を知る立場として議論に参画した。

高知県精神保健福祉士協会が委託事業として実施している、公益社団法人日本精神保健福祉士協会「生涯研修制度」について、基幹研修Ⅱのうち「精神保健福祉制度・政策論Ⅰ」の研修講師を担当した。

高知県内の精神保健福祉の状況の情報収集に積極的に取り組み、県立大学の教員として貢献できる機会を広げていきたいところだが、今年度は充分に活動することができていない。地域のメンタルヘルスのニーズにアンテナを張り、現場のソーシャルワーカーや困難を抱える人たちにとって有益な貢献の機会が創出できるよう、邁進していきたい。

清 家　庸 佑

Yosuke SEIKE

研 究 活 動

（著書）

・新宮尚人（編），藤田さより（編協），清家庸佑（編協）：精神機能作業療法学．第 4 版．標準作業療法学 専門分野 OT．医学書院，2025.

・齋藤祐樹（編），清家庸佑（分担執筆）：基礎作業学テキスト．南江堂, 2025.

・早坂友成（編著），清家庸佑（分担執筆）：最新作業療法学講座　精神障害作業療法学．医歯薬出版，2025.

（論文）

・Sawada T, Seike Y, Higashikawa Y, Sakaue K, Tomori K, Ohno K, Fujita Y. Reliability and Validity of the Closed-Course Version of the Standardized On-Road Assessment for Drivers (SOAD) With People With Mild Stroke. Am J Occup Ther. 2025 Nov 1;79(6):7906205090. doi: 10.5014/ajot.2025.051247. PMID: 40977045.

・Ikeda S, Shibahashi H, Ohno K, Seike Y. The Impact of Living Arrangements on Depressive Symptoms by Gender Among Community-Dwelling Older Adults in Japan. Journal of Ageing and Longevity. 2025; 5(2):17. https://doi.org/10.3390/jal5020017

・Shibahashi H, Ohno K, Seike Y, Ikeda S. Factors Associated With Self-Rated Health Among Older Adults in Japan: A Decision Tree Analysis. Cureus. 2025;17(5):e84245. doi: 10.7759/cureus.84245. PMID: 40524995; PMCID: PMC12168621.

・Shibahashi H, Ohno K, Ikeda S, Seike Y (2025) Healthcare Service Disparities in Cancer Rehabilitation and Treatment Costs in Japan: A Cross-Sectional Analysis of National Data. Cureus 17(3): e80100. doi:10.7759/cureus.80100

（学会報告）

・清家庸佑，松澤桃子：精神科作業療法の生活支援クリニカルラダーの教育実装—Rasch モデルによる能力推定とワーク・エンゲージメントとの関連—．第 19 回高知県作業療法学会，2026 年 3 月．（優秀賞受賞）

・Yosuke Seike, Kanta Ohno, Hirotomo Shibahashi, Shinpei Ikeda: Assessing item difficultly in a practice ladder for mental health occupational therapists. World Federation of Occupational Therapists Congress 2026, February 2026.

・Kanta Ohno, Hirotomo Shibahashi, Yosuke Seike, Shinpei Ikeda: A systematic review of the Disabilities of the Arm, Shoulder and Hand (DASH) Questionnaire based on the COSMIN guidelines. World Federation of Occupational Therapists Congress 2026, February 2026.

・大野勘太，小林由季，池田晋平，柴橋広智，清家庸佑：訪問リハビリテーション利用者におけるカナダ作業遂行測定の臨床における最小重要差と反応性の検討—予測モデルを用いた分析—．第 59 回日本作業療法学会，2025 年 11 月．

・柴橋広智，大野勘太，池田晋平，清家庸佑：日本におけるがんリハビリテーションの利用状況とがん治療との関連．第 59 回日本作業療法学会，2025 年 11 月．

・清家庸佑，池田晋平，柴橋広智，大野勘太：精神科デイケア算定数に影響を与える地域特性の検討．第 59 回日本作業療法学会，2025 年 11 月．
・澤田辰徳，清家庸佑，東川裕輝，坂上夏菜，友利幸之：Standardized On-Road Assessment for Drivers（SOAD）の信頼性と妥当性の検証．第 59 回日本作業療法学会，2025 年 11 月．
・村岡和也，清家庸佑：作業機能障害に着目した医療従事者の健康マネジメントの取り組み．第 20 回神奈川県作業療法学会，2025 年 9 月．

（競争的研究資金獲得状況）

【新規】
・清家庸佑（研究代表）：当事者共同創造型クリニカルラダーの普及と実装研究—地域生活支援とリカバリー促進—．2026 年度科学研究費助成事業 基盤研究（C）．
・玉利麻紀，清家庸佑：リカバリーカレッジ高知．文部科学省「大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築」．2025 年～2026 年．

【継続】
・清家庸佑（研究代表）：パーソナルリカバリーを支援する精神科アウトリーチクリニカルラダーの開発．日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究．2023 年 4 月～2026 年 3 月．

教 育 活 動

（担当科目）

・精神保健学Ⅰ
・精神保健学Ⅱ
・精神障害リハビリテーション論
・精神保健福祉援助実習指導Ⅱ
・こころとからだのしくみⅠ
・こころとからだのしくみⅡ
・発達と老化の理解Ⅱ
・介護の基本Ⅱ
・社会福祉入門演習
・社会福祉基礎演習
・社会福祉専門演習Ⅰ
・社会福祉専門演習Ⅱ
・地域学実習Ⅰ

委 員 会 活 動 等

・学生委員会
・健康長寿健康センター運営会議
・学部入試広報委員会
・介護人材確保事業
・防災対策窓口
・リカバリーカレッジ高知
・生協理事

社 会 的 活 動

（学会等）

・日本臨床作業療法学会（理事，学術部，学術誌編集委員，学術査読委員，第 10 回学術大会座長）
・日本作業療法士協会（学術演題査読委員）
・日本精神障害者リハビリテーション学会（学術編集委員，査読委員）

（学外講師，講演）

・日本作業療法士協会：認定作業療法士取得研修（研究法）．
・福岡県作業療法士協会：作業に根ざした精神科リハビリテーションー統合失調症事例で学ぶ評価と支援ー．福岡県作業療法士協会コア研修会．
・神奈川県作業療法士会：精神科作業療法の評価と支援「作業機能障害の視点から」．

神奈川県作業療法士会スキルアップ研修（精神障害分野）.
・共に学び, 生きる共生社会コンファレンス : 障害者の学びの場づくりと大学に期待される役割「リカバリーカレッジ高知の取り組み」.
・リカバリーカレッジ高知：シンポジウム「共同創造について」

総合評価及び今後の課題

【総合評価】

今年度は新任年度であったが，教育・研究・社会貢献の各側面において，本学の 10 年戦略「UoK Vision 2033」の実現に直結する成果をあげることができた． 研究面では，国際誌への原著論文 4 報の発表や専門書 3 冊の編集・執筆，新規科研費（基盤研究 C）の獲得，優秀賞受賞を含む 8 演題の学会発表など精力的に活動することができた．世界作業療法士連盟大会（WFOT）での国際発表では，新たな国際研究ネットワークの構築もおこない，ビジョンの掲げる「国際化・グローバル化時代に通用する研究成果の発信」に直接的に寄与した．

教育面では計 13 科目の新規授業を担当し，そのなかで moodle やポータルサイトを随時活用した ICT 利用に基づく授業設計を行いながら，今年最大のエフォートを注いで戦略 2「即戦力人材の育成と輩出」にコミットした．さらに，学生委員の 1 回生担当として乾助教と課外学習の場を企画運営（学習サポート、キャリア開発など）し，戦略 1「自己実現に向けたキャンパス」が目指す学生のチャレンジ支援を体現した．また，「健康長寿研究センター」では地元三里地区との連携に基づき地域防災をテーマにした調査研究の開始，玉利助教と行う文科省モデル事業の「リカバリーカレッジ高知」の運営を通じた地域との協働体制の構築により，戦略 3「地域共生社会を支援する実践的な教育・研究」の理念を具体的に推進した．

【今後の課題】

以上を踏まえ，今後の主な課題として以下の 3 点を挙げる．

1. 地域に根ざした研究と，国際的・競争的研究基盤の発展

健康長寿研究センターで新たにスタートさせた三里地区での調査研究などをさらに推進する．同時に，本年度獲得した新規科研費（基盤研究 C）や継続中の若手研究を発展させるとともに，WFOT 等を通じて構築した国際研究ネットワークの基盤を強化する．これにより，グローバルな知見を活かしながら「高知型『地域共生社会』の取組みと高知県民の健康・幸福感を科学的に検証・評価」し、「高知県・市町村と連携した研究活動」をより一層強化していく．

2. 授業のブラッシュアップによる教育の質の向上

本年の新規授業を担当した経験を踏まえ，次年度は今年度の授業内容や構成を適宜ブラッシュアップし，教育の質をさらに高めていく．加えて、担当学年となる 2 回生の学習・学生生活を引き続きサポートするとともに，ゼミ生に対する研究指導や進路・キャリア形成の支援に尽力する．これにより，「UoK Vision 2033」の戦略 1「自己実現に向けたキャンパス」および戦略 2「即戦力人材の育成」を目指す．

3. 戦略的な広報活動を通じた志願者獲得と「県民大学」としての魅力発信

次年度は学部入試広報委員として，本学の教育・研究の魅力を多角的に発信していく．受験生に向けた戦略的な広報活動を展開に努めるとともに，県民に対しても大学での実践や研究成果を広く発信し，「県民大学」としての本学のプレゼンス向上と地域社会への還元を推進していく．

田 中　眞 希

Maki TANAKA

○研　究　活　動

１．論文

・田中眞希・上杉麻理・小木曽真司(2026)「高齢者施設利用者が介護職員に求める役割と関係性」『介護福祉教育』30-2,62-71.

・田中眞希・河内康文・上杉麻理(2026)「介護福祉を学ぶ大学生のハンセン病療養所訪問における変容的学習プロセス―フォーカスグループインタビューに基づく質的分析―」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』75,43-54.

・Yasufumi Kochi, Maki Tanaka, Mari Uesugi. Social Work and the Understanding of Help: Learning from Narratives of Residents of Japan’s National Hansen’s Disease Sanatoriums. International Social Work, 68(2), (2026)

２．学会発表　なし

３．競争資金の獲得

・科学研究費補助金 基盤研究(C)課題番号：23Ｋ02164
「施設職員の『演じる行為』を涵養する研修プログラムの開発」（令和５年度～令和８年度）の研究代表者

○教　育　活　動

・障害の理解Ⅰ　・介護過程Ⅲ　・社会福祉専門演習Ⅰ
・社会福祉専門演習Ⅱ　・社会福祉専門演習Ⅲ　・社会福祉専門演習Ⅳ
・生活支援技術Ⅰ　・生活支援技術Ⅱ　・生活支援技術Ⅲ
・生活支援技術Ⅳ　・介護総合演習Ⅰ　・介護総合演習Ⅱ
・介護総合演習Ⅲ　・介護総合演習Ⅳ　・介護実習Ⅰ
・介護実習Ⅱ　・介護実習Ⅲ
・介護論（健康栄養学部）　・介護等体験事前指導（文化学部）

○委 員 会 活 動

・キャリア支援専門委員　・地域教育研究センター運営委員
・学部国試対策委員　・学部キャリア支援委員（リカレント研究会）
・学部実習委員会（福祉実習支援室長）
・カリキュラムワーキング

○社 会 的 活 動

１．委員等

・社会福祉法人ミレニアム　障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
・高知県介護福祉士会　介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員
・公益財団法人ひかり協会　高知県地域救済対策委員
・令和７年度高知県介護助手導入支援アドバイザー

２．学外講師等

・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師（2025 年 3～4 月※Moodle）

・学部リカレント研究会事業「介護コース卒業生を対象とした事例検討と情報交換会」（2025 年 7 月 7 日),社会福祉法人旭川荘卒業生との交流会(2025 年 12 月 5～6 日),ケアワーク学習会（2025 年 6 月 25 日，7 月 31 日，8 月 27 日，9 月 2 日，4 日，14 日，10 月 18 日，11 月 19 日，27 日，2026 年 3 月 6 日など）

・高知県キャリア教育推進事業高校生講座　高知商業高等学校：2025 年 8 月 19 日，高知農業高等学校：2025 年 9 月 30 日

・高知県外の高校での訪問講座　愛媛県立松山商業高等学校：2025 年 9 月 19 日，愛媛大学附属高等学校：2025 年 10 月 31 日

・令和 7 年度介護福祉士実習指導者講習会（2025 年 6 月 19 日）講師

・令和 7 年度 介護助手導入スタートアップセミナー（2025 年 7 月 16 日）講師　など

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

授業においては，ゲストスピーカーを招くなど，教育効果を考えた取り組みを実践できた．昨年度に引き続き，生活支援技術では元俳優で介護職の方に依頼し「演じる行為」を活用した演習に取り組み，研究結果の活用について実践を通して考えることができ，学生からの好評を得た．今後もディスカッションやグループワークの活用など，学生が主体的に取り組むことができるような授業内容の工夫を継続して実践したいと考えている．

介護実習について，実習先との連絡や先生方と情報共有をしながら，学生の教育効果を考えて取り組むことができた．人材不足から実習受け入れが難しい状況の施設もあり，受け入れ人数や実習内容など，指導者との意見交換はもちろん，実習生の学習内容をしっかり確認しながら行いたい．

介護コース卒業生を対象とした学部リカレント研究会は，今年度１回のみの実施となった．次年度は例年通り２回実施できるよう，スケジュール調整や卒業生への情報収集などを計画的に取り組み，卒業生の継続した教育実践の場としたい．

２．研究活動について

一昨年度より，高齢者施設における介護職員の「演じる行為」の様相を明らかにするための調査を行っている．利用者への調査については，結果をまとめて公表することができた．また，介護職及び他職種への調査を終えることができたので，公表できるように分析を進めていきたい．

３．社会活動について

例年行ってきた高知県内の高校を訪問して実施する講座について，今年度は愛媛県内の高校２校で行うことができ，参加した生徒や教員から好評を得ることができた．共に参加した学生や卒業生にとっても，講座で生徒に話をすることを通して，自身の大学での学びや社会人経験を振り返る機会になったようだ．

湯 川　順 子

Junko YUKAWA

○研　究　活　動

1　論文・著書等

なし

2　学会発表

なし

3　競争的資金の獲得

なし

○教　育　活　動

（共通教養教育科目）

対人関係とメンタルヘルス

（学部専門教育科目）

ケアマネジメント論
地域福祉論Ⅰ
ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ
ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
ケアマネジメント演習
コミュニティソーシャルワーク
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

○委 員 会 活 動

（全 学）

入試実施専門部会

（学 部）

入試実施委員会
国際交流センター委員
学部入試広報委員会
学生委員会　26 期生学年担当

○社 会 的 活 動

貧困研究会運営委員（2025 年 1 月～）
高知県社会福祉審議会委員（2025 年 1 月～）
高知県立大学出前講座「高知県の地域の変化（地域福祉の視点から）」　講師
　高知高校
学校法人龍馬学園　龍馬看護ふくし専門学校　非常勤講師
　担当科目「社会福祉の原理と政策」
令和７年度 介護支援専門員更新（専門）研修【研修課程Ⅰ】　講師
　「対人個別援助技術（ソーシャルケースワーク）及び地域援助技術（コミュニティソーシャルワーク）」
高知県消費生活講座　「地域福祉の視点から消費生活について考える」講師

教育研究活動報告書（湯川 順子）

○総合評価及び今後の課題

１　教育活動

ソーシャルワークの価値と知識・技術とを結びつけて身につけられるような授業を心がけた。また、実習・演習科目だけでなく講義科目においても、できるだけ双方向的な授業となるよう取り組んだ。毎回の授業時間内に振り返りシートを作成してもらい、学生の理解度を把握し、次回の授業でシートに書かれた内容をもとに追加の説明をしたり、質問に回答したりした。

担当科目では、正確な知識の獲得と同時に、現在の制度・政策を歴史的な視点でとらえ、批判的に考察できるようなソーシャルワーカーを養成できるように授業構成を工夫していくことが課題である。

また、今年度より卒業論文の指導を担当した。ゼミ活動では「対話」を重視して取り組んだ。相談窓口の研究や介護殺人、農福連携、雑談のケア的機能、地域活動における専門職と地域住民の関係性など学生の問題関心は多岐にわたっており、私自身も学ぶことが多かった。今後も学生の問題意識を大切に、一人ひとりに研究の意義を感じてもらえるよう指導に取り組んでいきたい。

２　研究活動

二つのテーマについて、それぞれ収集したデータの分析に取り組んだが、研究成果を論文として投稿するまでには至らなかった。引き続き取り組んでいきたい。論文として投稿したあと、同じテーマを発展させ、高知県内の実態について量的及び質的調査を実施したいと考えている。

また、学部内で共同研究に参加し、介護、看護、社会福祉の視点から高齢者の在宅生活の支援をテーマとした研究会に参加した。次年度も継続し、研究成果をまとめ、公表した上で、こちらもテーマを深め研究を継続したい。

３　社会的活動

今年度も高校への出前講座や専門学校の講師、介護支援専門員の研修など、福祉の知識の普及や専門職の専門性向上に取り組んだ。また、学会の運営委員として連続セミナーの企画担当、県の社会福祉審議会委員としても活動した。いずれも、自分自身の研究を基盤として、自分自身に求められる役割とは何かを振り返りながら、次年度も取り組んでいきたい。

行 貞　伸 二

Shinji YUKISADA

○研　究　活　動

１．論文
なし

２．著　書
なし

３．研究発表
なし

４．競争的資金の獲得
なし

○教　育　活　動

【担当科目】

・社会福祉史
・公的扶助論
・ソーシャルワーク演習Ⅱ・Ⅴ
・ソーシャルワーク実習
・生活と社会福祉
・権利擁護論
・社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ
・そーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

○委 員 会 活 動

１．全　学
共通教育専門委員会

２．学　部
情報委員会、国試対策支援委員会、研究倫理審査委員会、教務委員会

○社 会 的 活 動

［学外非常勤講師、研修会講師等］
・高知学園短期大学看護学科（「看護と福祉」、全８回）

［委員等］
・高知県共同募金会 配分委員
・高知県共同募金会 評議員
・高知県営住宅入居者選考基準等審査委員会 委員
・高知市民生委員推薦会 委員
・高知市行政改革推進委員会 委員

教育研究活動報告書（行貞 伸二）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

一昨年度来、「社会福祉史」「権利擁護論」「公的扶助論」「社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ」などの講義科目も対面授業に戻っている。Moodle の活用は継続し、配布資料を掲示し、また、授業回ごとに Moodle のフィードバック機能でリアクションペーパーを提出してもらい、学生個々の理解度を確認するばかりでなく、学生に対して質問への回答やコメントも行うなど双方向性に配慮した。

「社会福祉史」および「権利擁護論」は 4 回生配当科目であることから、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験対策の観点から、国家試験の過去問を題材とする小テストを Moodle の機能を利用して実施した。すべての授業回前に実施することで当該授業回における国家試験上の重要事項を確認し、そのうえで授業を受けることにより、知識の定着が向上するように配慮した。

演習科目については、事例を用いる、グループワークを取り入れるなど、学生の主体的学びを促すよう配慮している。学生個々の思いや到達度をつねに把握できるよう、継続して心掛けていきたい。

２．研究活動について

高知県における医療提供体制確立の経過を史的に分析する研究を、少しずつではあるが継続して進めている。

３．社会活動について

社会的活動に記載したとおりの各委員等を拝命している。社会福祉学部教員としてこれら委員等に期待される職責を果たせるよう、責任感をもって臨みたい。

稲 垣　佳 代

Kayo INAGAKI

○研　究　活　動

（１）論文

稲垣佳代：「精神保健福祉士の養成教育に関する一考察 ―標準化・効率化が求められるなかで―」『高知県立大学紀要』75, 2025.

（２）著書　なし

（３）発表　なし

（４）学内外の競争的資金の獲得状況　なし

○教　育　活　動

（１）講義

・ソーシャルワークの理論と方法（精神）
・精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
・精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ

（２）講義以外

・国家試験受験生への学習支援

○委 員 会 活 動

・実習委員会　・広報委員会　・国試対策支援委員会　・入試委員会　・入試広報部会

○社 会 的 活 動

・日本精神保健福祉士協会「就労・雇用・産業保健委員会」委員
・高知県精神医療審査会　委員
・高知医療学院　非常勤講師（「社会福祉学」担当）
・高知健康科学大学/土佐リハビリテーション学院　非常勤講師（「社会福祉学概論」担当）
・特定非営利活動法人　就労サポートセンターかみまち　理事

○総 合 評 価 と 今 後 の 課 題

（１）教育活動について

2011 年に本学に着任し、精神保健福祉士養成課程（精神・社会福祉コース）の教員として 10 年余り教育に携わってきた。養成教育において標準化・効率化が求められるなかで、自分自身がもっていた問題意識を整理し、教育と自身の研究を連動させながら活動した１年間だった。

また今年度、精神・社会福祉コースは井上夏子先生と田中顕悟先生を迎え、井上夏子コース長のもと実習指導・演習に係る教育体制の再建が進められた。実習に出る４回生

は 25 名であり、ここ数年で一番人数が多かったが、実習先の理解・協力のもと何とか 25 名分の配属先を確保し、無事に実習を実施することができた。学生の努力が実り、国家試験にも 25 名全員が合格して合格率 100％が維持された。

（２）研究活動について

高知県立大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻博士後期課程に進学した。精神保健福祉士養成課程に教員として携わるなかで感じていた問題意識を整理し、拙稿「精神保健福祉士の養成教育に関する一考察 ―標準化・効率化が求められるなかで―」を執筆した。

また、主査の西内章教授をはじめ、副査の西梅幸治教授、近藤美樹教授からも研究計画についてご指導を賜った。研究の奥深さや可能性に触れるとともに、自らの研究について言語化し、他者に説明する難しさを痛感した。自分の軸がぶれそうになった時、西内先生はなぜ私がそこに軸足を置いて研究をしようとしているかを再度一緒に確認してくださった。私の問題意識に共感し、面白い研究になりそうだと背中を押してくださる西内先生のご指導に支えられながらなんとか走り切った１年間だった。

主査・副査の先生方の他にも、励ましの言葉をかけてくださり、参考になればと資料を提供して応援してくださる学内外の先生方、インタビューの協力依頼をした際に「稲垣さんのためなら喜んで」と快諾してくださった現場の方々の存在も研究を進めていくうえで大きな支えとなった。この場をお借りして、皆さまに心より感謝申し上げます。

（３）社会活動について

2020 年度から非常勤講師として「社会福祉学」を担当してきた高知医療学院は、新入生の募集を中止したため、今年度が非常勤講師を務める最後の年となった。理学療法士を目指す学生たちに、社会で起こっている福祉的な課題について講義し、問題意識の種まきをする機会をいただけたことに心から感謝している。

また職能団体における活動では、日本精神保健福祉士協会が実施した「就労移行支援事業における就労後６ヶ月のフォローアップ実態調査」に就労・雇用・産業保健委員会の委員として携わり、報告書の作成に取り組んだ。報告書は作成途中であり、次年度はじめ頃の完成を目指している。

（４）今後の課題

次年度は博士後期課程２年目となる。大学の業務と並行してインタビュー調査の実施、データの分析、考察などを進める必要があるため、セルフケアを怠らず、研究を実施する。また、ここ数年は科研費の申請ができていないため、申請に向けて計画的に準備を進めていく。

乾　由 美

Yumi INUI

○研　究　活　動

１．論文・著書

なし

２．競争的資金の獲得

・研究分担者

日本学術振興会科学研究費補助事業(基盤研究(C)令和７年度～令和９年度)

研究課題名：「記憶障害者の生活の不自由を克服するスマートフォンの実用化

研究代表者：河内康文

○教　育　活　動

担当科目

・介護総合演習Ⅰ
・介護総合演習Ⅱ
・介護総合演習Ⅲ
・介護総合演習Ⅳ
・介護過程Ⅳ
・介護実習Ⅰ
・介護実習Ⅱ
・介護実習Ⅲ
・介護の基本Ⅱ
・介護の基本Ⅲ
・障害の理解Ⅱ
・生活支援技術Ⅴ
・医療的ケアⅠ
・医療的ケアⅡ

○委 員 会 活 動

１．全学

・地域共生学研究機構　健康長寿研究センター運営委員

・入退院支援事業プロジェクトメンバー

2．学部

・学部実習委員
・学生委員会
・防災対応窓口委員
・学部国試対策支援委員会
・学部入試広報委員
・1回生学年担当
・学部教務委員
・介護人材確保委員

○社 会 的 活 動

１．委員・学外講師等

・高知県キャリア教育推進事業訪問講座
　土佐女子高等学校（7/9)、高知国際高校（8/28)、大方高校（9/25）
・つながる保健室事業出前講座 in 四万十町　VS 測定・健康相談（9/26）
・高知市三里地区サロン活動継続支援プロジェクト（9/10）
・日本高齢者虐待防止学会　実行委員企画・準備・運営（9/13）
・医療センター合同災害訓練　1回生ボランティア参加企画引率（10/19）
・リカレント教育講座－ようこそ！知のフールドへ社会福祉学部（12/13）
・第 14 回 みさとフェア　会場：十津小学校（11/30）
・一般社団法人高知の在宅ケアを守る会　生活支援従事者研修講師

（四万十会場 8/3、高知市会場 1/10）
・入退院支援事業研修事業
管理者研修（6/16）、看護管理者研修（7/28）
コーディネート能力修得研修（9/18、10/27、11/14）
多職種協働研修（7/14、8/20、9/11）
コーディネーター継続研修（6/20）
・入退院支援事業モニタリング会議
高知医療センター（9/30）、リハビリテーション病院すこやかな杜（10/22）
・高知県立幡多看護専門学校　非常勤講師
担当：地域・在宅看護方法論Ⅰ（10/10、10/24、10/29、11/7）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

教員 2 年目となり、1 回生の学年担当を行う事で、大学教育の全体像をより理解することができた。学年担当は 4 回生迄の継続支援が必要であるため、前期・後期の定期面談を実施しながらサポート体制を構築していきたい。介護コースのおける実習業務については十分に遂行できたとは言えず、次年度は、年間計画を見据えながら教員間連携を密に図っていきたい。主担当する科目「医療的ケアⅠ・Ⅱ」では、３、４回生を対象に本来、医療従事者が実施する喀痰吸引や経管栄養についての知識・技術の習得が求められるため、ただ手順を覚えるだけでなく、利用者の平時との変化に気づき、医療職に繋ぐための根拠を理解できるよう学生が実習で出会った事例などを活用し能動的学習に努めた。

２．研究活動について

共同研究の機会をいただき、研究分担者として科学研究費助成事業への申請プロセスを経験することで大学教員として研究をする意義を考える機会となった。引き続き、共同研究の先生方に助言をいただきながら、自身の役割を遂行したいと考える。昨年度、修士論文を基盤にして、日本在宅ケア学会学術集会にて「医療処置を必要とする高齢者への訪問看護師の在宅移行支援」について発表したが、今年度は論文投稿に向けて準備を行い来年度の投稿を予定している。

３．社会活動について

高知県全体で取り組んでいる介護人材確保に関しては、高校生も参加する生活支援従事者研修にて講師を行うことで、高知県の介護現場における現状把握と課題理解が出来たと考え引き続き、積極的に参画したい。健康長寿研究センター事業（入退院支援事業、三里地域サロン活動応援プロジェクト、つながる保健室）では、県政課題を見据えて池キャンパス 3 学部の教職員が協働を図り事業の企画運営を行った。

上 杉　麻 理

Mari UESUGI

○研 究 活 動

1. 論文

・田中眞希・上杉麻理・小木曽真司(2026)「高齢者施設利用者が介護職員に求める役割と関係性」『介護福祉教育』30-2,62-71.

・田中眞希・河内康文・上杉麻理(2026)「介護福祉を学ぶ大学生のハンセン病療養所訪問における変容的学習プロセス―フォーカスグループインタビューに基づく質的分析―」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』75,43-54.

・Yasufumi Kochi, Maki Tanaka, Mari Uesugi. Social Work and the Understanding of Help: Learning from Narratives of Residents of Japan’s National Hansen’s Disease Sanatoriums. International Social Work, 68(2), (2026)

2. 著書・発表

なし

3. 学内外の競争的資金の獲得状況

・研究分担者

日本学術振興会科学研究費補助事業(基盤研究(C)令和５年度～令和９年度)

研究課題名：「施設職員の『演じる行為』を涵養する研修プログラムの開発」

研究代表者：田中眞希

○教 育 活 動

・生活支援技術Ⅰ
・生活支援技術Ⅲ
・介護総合演習Ⅰ
・介護総合演習Ⅱ
・介護総合演習Ⅳ
・介護技術
・社会福祉入門演習

○委 員 会 活 動

・実習委員会
・国試対策委員会
・学生委員会
・学部入試広報委員会

教育研究活動報告書（上杉 麻理）

○総合評価及び今後の課題

1．教育活動について

今年度は 2 回生の学年担当となり、介護コース以外の学生とは授業では会うことがなく、その分接点が少なくなった。そのため、配慮が必要な学生はもちろん、それ以外の学生に対しても、大学に慣れてきたからこその心身や環境の変化への対応等を行うのが難しく感じた。今後も授業を通して担当の学年の学生達と接する機会は少なくなるが、学年が上がるにつれて卒業・資格取得に必要な単位の取得や就職活動、国家試験に関することなど、学生のフォローが必要なことが多くなっていく。同じく学年担当である福間先生や、実習担当、ゼミの先生方とも情報共有を行いながら関わっていきたい。

実習指導では、4 回生の事例研究に関する指導を行った。実習後の振り返りに関する指導はこれまでも行ったことがあるが、事例研究に関しての指導は初めてであった。文献検索や論理的な文章を書くことに慣れていない学生に対し、どのようにアドバイスを行えば良いのか、本人の考える力をどのようにすれば引き出せるのか、悩みながらの指導であった。事例研究を行う中で、学生達が実習時の自身の行動やケアについて客観的に振り返り、介護に関して考えを深めることに繋がるよう関わっていくことはとても難しく、自身の力不足も感じた。その一方、学生らしい素直で新しい視点についても聞くことができ、介護や研究の面白さも感じることができた。

2．研究活動について

今年度は、河内先生や田中眞希先生とともに行った研究を論文という形にすることができた。自身が担った部分は少なく、研究の進め方や考察の書き方等、先生方には多くのことを学ばせていただく機会となった。そしてそれと同時に、自身の考えの浅さや知識の不足を感じることとなった。今回学んだことや反省点を、今後の研究にも生かしていきたい。

また、自身が中心となって行っている研究としては、共同研究者である湯川先生や乾先生と月に 1 度話し合う機会を持つことで、少しずつではあるが内容が深まっていっているように思う。途中で私が長期の休暇に入ったためその後は進んでいないが、次年度には何らかの形で発表できるように進めていきたい。そしてその研究を発展させる形で科研費への申請を行うことができればと思う。

3．社会活動について

今年度は後期より産休・育休に入ったこともあり、社会活動への参加ができない年度であった。今後も今までのように多くに参加することは難しくなるかもしれないが、少しでも活動に参加することができればと思う。

大 熊　絵 理 菜

Erina OGUMA

○研 究 活 動

（１）研究報告

・藤井しのぶ，竹村貴深，大熊絵理菜，福田敏秀（2025）「ソーシャルワーカーキャリアラダーに取り組んで」『医療社会事業』64，pp. 84-88.

○教 育 活 動

・ソーシャルワーク演習Ⅲ
・ソーシャルワーク演習Ⅰ
・ソーシャルワーク実習指導Ⅱ
・ソーシャルワーク実習Ⅰ
・ソーシャルワーク実習Ⅲ
・医療ソーシャルワーク論
・ソーシャルワーク演習Ⅳ
・ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
・ソーシャルワーク実習指導Ⅲ
・ソーシャルワーク実習Ⅱ
・チームアプローチ
・医療福祉論

○委 員 会 活 動

・学部実習委員会
・学部国試対策支援委員会
・学部総務・予算委員会
・学部広報支援委員会
・高知県立大学・高知医療センター包括連携事業

○社 会 的 活 動

１．学外講師等

・学校法人すみれ学園　高知福祉専門学校非常勤講師（「ソーシャルワークの理論と方法」担当）
・令和７年度　追手前ゼミナール「Social Worker のコミュニケーション術を体験してみよう」講師〔2025 年６月 21 日（土）高知県立追手前高等学校〕
・令和７年度　高知市ケアマネジメント研修「ケアマネジメント実践におけるクライエントの意欲と行動に焦点をおいた面接とは」〔2025 年７月 25 日（金）高知市保健福祉センター〕
・令和７年度　主任ケアマネ研修「対人援助者監督指導」講師〔2025 年 10 月２日（木）～10 月４日（土）高知県立ふくし交流プラザ〕

教育研究活動報告書（大熊 絵理菜）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

学生の実習での学びは,学生の進路選択へ影響すると考えているため,実習前,実習中,実習後の学生との関りを大切にした．その関わりにおいては，教員と学生との関係性が重要であり，学生と良い関係を築くように努力した．実習中の学生の言動には，学校で学んだこと，教員との関係性等，様々なことが影響していると考えているが，教員側にも責任があり，教育の難しさや厳しさを痛感している．今後もスーパービジョンを意識した指導や助言で教育を行いたいと考えている．

また昨年度に引き続き，医療機関の実習指導者にむけて実習報告会を開催し，学生と実習指導者が実習を振り返る機会となった．さらに今年度は，実習プログラムを作成し，実習生を受け入れてくれた医療機関からの報告会も開催し，実習指導者が実習プログラムについての学びを深める機会となった．今後も県内での医療機関における実習プログラムの作成を推奨し，実習における教育の標準化に努めたい．

２．研究活動について

今年度は他職種へのスーパービジョン研修を通して，学びが深まったと考えている．専門職は一人の人間であるため，その人間の生活を支えられるように，また専門職として働くことを支えるスーパービジョンを現場で実践できるように研究を進めていきたい．その中で，専門職が抱えるストレスと，その専門職を支えるスーパーバイザーの役割について文献研究を行い，スーパーバイザーの役割の整理と，スーパーバイザーを支えられるようなスーパービジョン体制を構築できるような研究を行いたい．そのためにも，引き続きスーパーバイザーへのコンサルテーションの実施やそこで学んだことを研究活動へ繋げていきたいと考えている．

３．社会活動について

今年度は，高知県医療ソーシャルワーカー協会の理事となり，理事会への出席や部会（月例部会）の運営を行った．現在の高知県医療ソーシャルワーカー協会は，研修関連を企画・運営している部会が３つ（月例部会・生涯研修部会・大会部会）ある．近年，部員の減少もあり，企画・運営の負担が大きくなっており，部会の統合案がでている．統合して，企画や運営が滞りなく実施できるように，Teams を活用した情報の共有方法や，使用している書式の統合等の提案を行い，取り組んでいるところである．

また高知災害福祉支援ネットワーク会議への参加を通して,災害派遣チーム（DWAT）の構成員の登録に医療ソーシャルワーカーが少ないことを知った．次年度は，医療ソーシャルワーカーの構成員を増やすためにも，DWAT のチーム員養成研修・登録に，高知県医療ソーシャルワーカー協会として取り組んでいきたいと考えている．この取り組みを通して，災害に関する研修の企画や運営にも取り組んでいきたい．

玉 利　麻 紀

Maki TAMARI

研 究 活 動

競争的資金の獲得

1) 玉利麻紀（研究代表者）． 科学研究費補助金（基盤研究（C)、課題番号：24K05421、2024-2027 年度）．研究課題名：障害当事者と支援者との共同創造がもたらす「新しい共生のあり方」に関する探索的研究
2) 玉利麻紀（研究代表者），清家庸佑（2025 年 5 月-2026 年 3 月）．令和 7 年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業：障害者の移行期の学びのモデル構築」事業委託研究「障害を抱える人と共に創り出す『学び合いの場』」（実施主体：高知県立大学）．

学会発表

1) **Tamari, M.** (2025, May 16–19). What are the implications for staff with lived experience of mental health challenges in co-producing mental health programs? The report from Recovery College Kochi in Japan [Conference presentation]. 2025 Asian & Pacific Islander Social Work Educators Association (APISWEA) International Conference, Jakarta, Indonesia.
2) 玉利麻紀、清家庸佑（2025 年 12 月 25 日）． 分科会 1：障害者の学びの場づくりと大学に期待される役割「リカバリーカレッジ高知の取り組みより」． 令和 7 年度学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業 共に学び、生きる共生社会コンファレンス　まるのつどい（会場：松山市青少年センター）．

その他（研究会発表）

玉利 麻紀、白岩英樹、河内康文（2026 年 2 月 10 日）．「多様な人が集う場を創出し、メンタルヘルスへの関心を育む― 永国寺はらっぱフェスの取り組み ―」．第 3 回社会的処方研究会（会場：高知県立大学池キャンパス）

その他（報告書）

玉利麻紀（研究代表者），清家庸佑（2025 年 5 月-2026 年 3 月）．令和 7 年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援推進事業：障害者の移行期の学びのモデル構築」事業委託研究「障害を抱える人と共に創り出す『学び合いの場』」成果報告書（実施主体：高知県立大学）

教 育 活 動

担当科目（12 科目）：心理学理論と心理的支援、精神保健福祉の原理、精神障害リハビリテーション論、国際福祉論、対人関係とメンタルヘルス（前期）、対人関係とメンタルヘルス（後期）、精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ（前期）、精神保健福祉援助演習Ⅰ・Ⅱ（前期）、精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ（前期）

教育研究活動報告書（玉利 麻紀）

学生支援

リ・デザインプロジェクトにボランティアとして関わる学生たちを組織化し、新しい枠組みの中で自分たちのアイディアを実現していく支援を行った。そのほか、国家試験の受験生への学習支援、最終年度の学生の卒業までの就学支援、就職活動の支援、メンタルヘルス上の課題を抱える学生への個別支援等を実施した。

委 員 会 活 動 等

学部 FD 委員、学部教務委員、学部総務・予算委員、学部実習委員、学部国試対策委員

社 会 的 活 動

1）委員等

2018（平成 31）年度～　高知県精神保健福祉協会　研修委員

2018（平成 31）年度～　介護労働安定センター高知支部　ヘルスカウンセラー

2021（令和 3）年度～　高知県精神医療審査会　審査委員

2022（令和 4）年度～　社会福祉法人土佐あけぼの会　第三者委員

2024（令和 6）年度～　高知県障害者支援施設等に準ずる者の認定等に関する要領学識委員

2024（令和 6）年 11 月 25 日～2026（令和 8）年 11 月 24 日　高知県重度心身障害児・者医療費助成事業に係る関係者会議 副会長

2）研修講師、講演等

- 出前講座「ストレスとつきあうコツ」講師. 2025 年 7 月 15 日、会場：高知県立安芸高等学校.
- メンタルヘルス研修講師. 2025 年 9 月 24 日、会場：介護老人保健施設リゾートヒルやわらぎ、主催：公益財団法人介護労働安定センター高知支部.
- リカバリーの学校＠くにたち活動報告会 2025「～多様な“当事者”の対話と参画による“共生圏の拡張”」コメンテーター. 2025 年 10 月 10 日、オンライン、主催：リカバリーの学校＠くにたち（文科省事業）.
- 令和 7 年度高知県社会福祉協議会福祉職員基礎講座「心理学の基礎」講師. 2025 年 11 月 13 日、会場：高知県社会福祉協議会.
- 出前講座「ストレスとつきあうコツ」講師. 2025 年 12 月 12 日、会場：高知県立若草特別支援学校.
- 高知市社会福祉協議会相談支援専門職員研修「多様な人が集う場を創出し、メンタルヘルスへの関心を育む― 永国寺はらっぱフェスの取り組み ―」講師. 2026 年 2 月 18 日、会場：高知市社会福祉協議会.

3）リカバリーカレッジ高知

- 連携協議会（2 回実施：10/5、2/14、オンライン）
- 秋講座（11/29）　会場：永国寺キャンパス
- リカバリーカレッジ高知&永国寺はらっぱフェス presents 「メンタルヘルス特別講座“元気のたね”を見つけよう」in 中土佐町　（12/20）　会場：中土佐町民交流会館「メンタルヘルス特別講座“元気のたね”を見つけよう」（主催：リカバリーカレッジ高知、永国寺はらっぱフェス、協力：小松家 with、後援：高知県）

4) 高知県立大学リ・デザインプロジェクト「永国寺はらっぱフェス」

・ 5/25、6/22、7/19、9/20、10/18、11/15、12/20、2/21、3/21 の計 9 回実施した。（会場：永国寺キャンパス　※12 月のみ、中土佐町民会館)）累計参加者数：356 人（プレ開催から 10 回分を合計）
・ 本企画で開催しているヒューマンライブラリーについて、RKC 高知放送（2026/2/17 放送）「『自分の経験が同じように苦しむ誰かの心を支えられるかもしれない』ひきこもり・うつ病・パニック障害の経験者が語る」が放映された。また、高知県の高知家地域共生社会ポータルサイト【取組紹介 Vol.16】多様な人が集まり、つながる場づくり。高知県立大学「永国寺はらっぱフェス」の取り組み｜高知家地域共生社会へも掲載された。

5) コーディネート

・ インクルーシブ防災アライアンス. 2025 年 7 月 13 日（会場：永国寺キャンパス)、14 日（会場：中土佐町役場）
・ 高知市心の健康づくりサポーター養成事業の大学での開催について、1 回生学年担当へ相談し、清家先生、乾先生のご協力のおかげで 1 回生配当の演習において実現することができた。
・ 田中顕悟 准教授と一緒にコーディネートし、高知県立精神保健福祉センターと高知県社会福祉士会と共催で、ゲートキーパー養成事業を開催することができた。
・ 田中顕悟 准教授と一緒にコーディネートし、高知県精神保健福祉士協会と共催で、精神保健福祉士の魅力発信と学生との交流企画を行うことができた。

総合評価 及び 今後の課題

今年度、ありがたいことに、文科省から 4 年連続でモデル事業を受託できた。清家講師が新たに加わってくれたおかげで、紹介動画の作成や、研究的視点でのモデル化等、4 年に渡るこの活動に関する課題を整理し、まとめることができた。そして、これまでの取り組みから、大学を拠点とした共同創造による対話型生涯学習プログラム（リカバリーカレッジ型学び合いモデル）を文科省へ報告するに至った。

さらに、5 月から本学のリ・デザインプロジェクト「永国寺はらっぱフェス」が本格稼働し、定期開催を試みた。専門性の異なるチームメンバーである白岩教授と河内准教授、ヒューマンライブラリーチーム、学生や卒業生ボランティアと共に昨年度から企画してきたが、今年度途中から、高知市社協、高知県立精神保健福祉センターと一緒に実行委員会を作ることができた。次年度は、本事業を研究に昇華し、関係機関と安定した協働体制の構築に取り組み、地域共生社会づくりへ寄与していきたい。

研究面では、これまでのリカバリーカレッジ高知の取り組みをまとめ、国際学会で発表を行うことができた。開催国のインドネシアの研究者たちを始め、諸外国の研究者との出会いは、オープンマインドで、データを元に建設的に議論できる、大変素晴らしい経験となった。一方で、自分自身が日本文化という枠組みを客観視できていない点や自らの研究力を大いに認識し、反省する機会にもなった。今後、今までのデータを積極的に発信すると共に、これまでの活動を研究としてまとめていき、(今更ではあるが､) 研究者としての力をつけていきたい。

教育面では、夏に家族が病に倒れたことをきっかけに、急遽、長期間のお休みを頂戴することとなった。長澤学部長を始め、矢吹実習委員長、社会福祉学部の先生方、永国寺はらっぱフェスのチームの皆様、大学事務局の皆様、実習指導者の皆様、学生さんたち…たくさんの人たちに助けていただいた。心より感謝を申し上げたい。

山本 大輔

Daisuke YAMAMOTO

○研　究　活　動

（１）研究会参加

・エコシステム研究会への参加

（２）論文

・山本大輔「エコシステム視座にもとづく高齢男性支援の意味―ソーシャルワークの仲介機能に着目して―」『ソーシャルワーク支援研究』第２号　エコシステム研究会　2025 年 9 月　pp. 85-100

（３）学会発表

・山本大輔「介護予防デイサービス事業所によるアウトリーチ実践の意義―職員へのインタビュー調査から―」日本社会福祉学会　第 73 回秋季大会　2025 年 10 月

（４）競争的資金獲得

なし

○教　育　活　動

（１）担当科目

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、ソーシャルワーク演習Ⅴ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習Ⅲ、高齢者福祉論Ⅰ、事例研究法、保健医療福祉行政論

（２）学生支援

準硬式野球部顧問

○委 員 会 活 動

学部実習委員会、学部国試対策支援委員会、学部教務委員会、学部入試実施委員会、学部情報委員会

○社 会 的 活 動

・高知大学医学部非常勤講師（担当：保健医療福祉行政論）
・介護労働安定センター高知支部　雇用管理コンサルタント、ヘルスカウンセラー、介護人材育成コンサルタント
・令和 7 年度高知県要約筆記者養成講座講師（担当：第 6 講社会福祉の基礎知識）
・令和 7 年度本山町公開講座「夜學」講師
・令和 7 年度訪問看護スタートアップ講座講師（担当：地域と医療の連携）
・令和 7 年度高知県福祉職員基礎講座講師（担当：介護保険サービス）
・令和 7 年度主任介護支援専門員研修講師（担当：第 6 章　地域援助技術）
・令和 7 年度高知県退職者連合学習会講師（演題「崖っぷちといわれる介護保険の課題」）

教育研究活動報告書（山本　大輔）

○総合評価及び今後の課題

１．教育活動について

採用２年目を迎え､前年よりも担当する科目が増え､その対応に追われる１年であった。その中心となる授業はソーシャルワーク実習関連科目であり、授業で使用する配布資料の準備や実習先となる施設・機関との連絡・調整などを担った。その際、学部の他の先生方には、授業の進行や各種の書類作成などについて多くのサポートをいただき大変感謝している。個人的にはもっとうまくできたのではないかという課題も感じるけれども、この 1 年の経験を次年度以降に活かしていきたい。

その他の講義系の科目については、学生の理解度を確かめながら毎回の講義内容を微調整することを心掛けた。そのために講義後のリアクションペーパーに詳細に目を通すことは欠かせなかった。必修科目の場合、受講生の人数も多くその分時間も取られるが、今後も継続していきたい。

授業とは別に実習支援室の業務も本格的に関与した｡実習先との連絡調整や書類の準備、発送などの業務では実習に臨む学生の顔を一人ひとり思い浮かべながらおこなってきた。実習生と実習先を結びつける窓口となるだけに、今後もミスのないよう緊張感をもって業務に当たりたい。

２．研究活動について

これまで、高齢男性のソーシャルワーク支援をテーマに研究をすすめ、そのなかで実施した様々な調査結果を論文や学会発表などで報告してきた。しかしまだまだ理論の精緻化という点では課題が多く、今後も研究を継続していきたい。具体的には、これまで研究結果を論文投稿につなげることや、新たな研究計画を立案しそこでの調査の実施をおこないたい。

また科学研究費補助事業には応募したものの不採用に終わってしまった。ここでは単に資金を獲得することだけにとどまらず、応募書類の作成を通じて自分自身の研究目的や研究方法の明確化などにもつながると考えている。研究資金の獲得は至上命題であるため次年度は十分に計画を練り上げ、申請、採用につなげたい。

３．委員会活動について

今年度は学部の実習、国試対策、教務、入試、情報の各委員を経験した。いずれも学生の学びをサポートするうえで重要な活動であり、その業務は多岐にわたる。まだ独力ですべての業務を遂行できるまでには至っていないと感じる。他の先生方と協力して業務をすすめ、独力で適切に対応できるようになりたいと考えている。

４．社会的活動について

地域の一般の方や専門職として勤務されている方を対象とした研修講師を多く経験させていただいた。自身の研究テーマとの関係でいうと、高齢者福祉に多くの人が関心をもっていることを登壇するたびにひしひしと感じた。この１年に経験した講師活動を通じて、地域の方への福祉教育、リカレントとしての学び直しの一助となれば幸いであり。そしてこれらの活動から、大学の教員、研究者という立場で社会に対し多様な手段で発信し啓発していく必要性を改めて認識した。

Ⅲ

社会福祉学部教員の委員会活動
（委員会活動年度報告書）

2025年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

全学	学部	構成メンバー					
教育研究審議会		長澤　紀美子 （学部長）	杉原　俊二 （副学長）	西内　章 （教務部長）			
大学運営会議		長澤　紀美子 （学部長）	杉原　俊二 （副学長）	西内　章 （教務部長）			
総務危機管理本部		長澤　紀美子 （学部長）	杉原　俊二 （副学長）	西内　章 （教務部長）			
（全学）研究倫理審査委員会		杉原　俊二 （副学長）					
研究不正防止委員会		長澤　紀美子 （学部長）	杉原　俊二 （副学長）				
	人事関係検討会	田中　きよむ	長澤　紀美子	西内　章	西梅　幸治	矢吹　知之	
	自己点検・評価運営委員会	田中　きよむ	長澤　紀美子	西内　章	西梅　幸治	矢吹　知之	
	倫理審査委員会	田中　きよむ	福間　隆康	行貞　伸二			
	実習委員会	矢吹　知之 （実習委員長）	河内　康文 （介護福祉士コース主担当）	福間　隆康 （社会福祉士コース主担当）	井上　夏子 （精神保健福祉士コース主担当）	田中　眞希 （室長）	稲垣　佳代
		乾　由美	上杉　麻理 （介護 助教リーダー）	大熊　絵理菜 （社福 助教リーダー）	玉利　麻紀	山本　大輔	
	総務・予算委員会	辻　真美	長澤　紀美子	西内　章	田中　顕悟	大熊　絵理菜 （助教リーダー）	玉利　麻紀
	国試対策支援委員会	行貞　伸二	田中　眞希	稲垣　佳代	乾　由美	上杉　麻理 （助教リーダー）	大熊　絵理菜
		玉利　麻紀	山本　大輔				
教学本部		西内　章					
教務委員会		西梅　幸治	辻　真美	遠山　真世	井上　夏子	行貞　伸二	乾　由美
		玉利　麻紀	山本　大輔 （助教リーダー）				
共通教育専門委員会		行貞　伸二					
学生委員会		加藤　由衣	田中　きよむ	矢吹　知之	福間　隆康	清家　庸佑	湯川　順子
		乾　由美	上杉　麻理				
キャリア支援専門委員会		田中　眞希					
就職委員会		加藤　由衣	田中　きよむ				
FD専門部会		矢吹　知之	玉利　麻紀				
アドミッションセンター		西内　章					
入試実施専門部会		河内　康文	加藤　由衣	湯川　順子	稲垣　佳代 （学部入試委員/助教リーダー）	山本　大輔	
共通テスト実施専門部会		湯川　順子					
入試監査委員会		田中　きよむ	田中　顕悟				
図書		田中　顕悟					
紀要専門部会		福間　隆康					
地域教育研究センター運営会議		田中　眞希					
健康長寿研究センター運営会議		辻　真美	清家　庸佑	乾　由美			
入退院支援		乾　由美	西内　章	井上　夏子	山本　大輔		
国際交流センター運営会議		田中　きよむ	辻　真美	湯川　順子			
健康管理センター運営会議		遠山　真世					
人権委員会		田中　顕悟					
広報担当（学部入試広報委員会含む）		遠山　真世	杉原　俊二	田中　きよむ	長澤　紀美子	西内　章	西梅　幸治
		矢吹　知之	加藤　由衣	河内　康文	田中　顕悟	辻　真美	福間　隆康
		井上　夏子	清家　庸佑	田中　眞希	行貞　伸二	湯川　順子	稲垣　佳代
		乾　由美	上杉　麻理	大熊　絵理菜 （助教リーダー）	玉利　麻紀	山本　大輔	
介護人材確保事業部会		辻　真美	西内　章	矢吹　知之	清家　庸佑	田中　眞希	行貞　伸二
		乾　由美	山本　大輔				
学部情報委員会		行貞　伸二	山本　大輔				
社会的処方プロジェクト		西梅　幸治	矢吹　知之	加藤　由衣	河内　康文	玉利　麻紀	
医療センター連携事業 健康長寿・地域医療連携部会		長澤　紀美子					
医療センター連携事業 看護・社会福祉連携部会		長澤　紀美子	井上　夏子	大熊　絵理菜			
防災対応窓口		行貞　伸二	辻　真美	清家　庸佑	乾　由美		
大学院（M）	講義	杉原　俊二 （講義＋主査）	田中　きよむ （講義＋主査）	長澤　紀美子 （講義＋主査）	西内　章 （講義＋主査）	西梅　幸治 （講義＋主査）	矢吹　知之 （講義＋主査）
		加藤　由衣 （講義＋副査）	河内　康文 （講義＋副査）	辻　真美 （講義＋副査）	遠山　真世 （講義＋主査）	福間　隆康 （講義＋主査）	
	委員会	田中　きよむ （図書）	西梅　幸治 （監査）	矢吹　知之 （入試連絡）	河内　康文 （広報）	遠山　真世 （学務）	
大学院（D）	講義	杉原　俊二 （講義＋主査）	長澤　紀美子 （講義＋主査）	西内　章 （講義＋主査）	西梅　幸治 （講義＋副査）	矢吹　知之 （講義＋副査）	
	委員会	長澤　紀美子 （学務）	矢吹　知之 （入試）				

：全学委員

一重下線　：学部委員長

教　務　委　員　会

西 梅　幸 治

2025 年度の教務委員会は、辻真美准教授、遠山真世准教授、井上夏子講師、行貞伸二講師、山本大輔助教、乾由美助教、玉利麻紀助教、西梅の６名体制であった。１年間の活動内容や実績の概要は、次のとおりである。

１．教務委員会の開催

今年度も継続して、通常の審議・協議事項である非常勤講師の依頼や予算申請などの教務関連業務を適切に行うように努めた。活動計画に基づき、特に５年目に入った新カリキュラムの課題整理と改善を図った。カリキュラムについては、令和９年度開始を目指して、専門教育カリキュラムＷＧにて検討を図った。

２．ディプロマ・ポリシーの検討

学部教務委員会時に検討を行った。ディプロマ・ポリシーについては、令和９年度の新しいカリキュラム開始に向けて、専門教育カリキュラムＷＧにて検討を図った。教授会でも審議のうえ修正を図った。

３．新カリキュラムに伴う改善

2021 年度から社会福祉士、精神保健福祉士の新カリキュラムが始まり、今年度は５年目を迎えた。新カリキュラムの課題を継続して整理してきたが、今年度は、社会福祉士養成課程における実習指導Ⅰ・Ⅱの内容について、授業評価の意見や新カリキュラムに沿って修正を行った。精神保健福祉士養成課程における演習・実習指導・実習については、シラバスを修正しながら授業展開の調整を図った。

４．次年度科目担当者の検討

2025 年度中に、新たに３名の教員が着任した（４月から３名）。また次年度に向けて新規採用１名が決定した。今後の教員の退職等も鑑み、2025 年度の担当科目、教員の教育歴と研究領域、そして担当科目数と担当時間を考慮して、担当科目について人事検討委員会を含め検討した。

５．卒業研究論文発表会の開催

卒業研究論文構想発表会、卒業研究論文中間発表会、卒業研究論文発表会を対面で実施した。構想発表会の資料、中間と最終の発表会のスケジュール、報告者へのコメントについては、ペーパーレス化を図り、Moodle 上で確認・回答できるように準備した。

３回生の卒業研究論文の「仮テーマ」は、2026 年２月に集約した。なお、卒業研究論文指導教員の学部外教員の希望の有無を確認したが、学部外教員を希望する学生はいなかった。また『卒業研究論文執筆のてびき』は、2026 年１月に作成し、Moodle 上に掲載した。

６．2026 年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12 月に『社会福祉専門演習選択資料』を作成し、２回生へ配布した。２日間のゼミ見学のうえ、16 名の教員が担当する 2026 年度の「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」のゼミは、１ゼミあたり上限５名の学生数を目安として調整した。結果として、６名までを上

限に修正し、確定を図った。

７．学習到達度調査の実施

昨年度に引き続き今年度も２月にUOKLMS（Moodle）上で卒業予定者（25期生）を対象に「卒業時学位授与方針（DP）達成度調査（学習到達度調査）」を実施した。この調査の項目は、ディプロマ・ポリシーで示す「知識・理解」「汎用性・実践的技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」の４つのカテゴリーから構成され、この４つのカテゴリーはそれぞれ８項目、計32項目からなる。各項目は「全く理解できなかった」、「あまり理解できなかった」、「概ね理解できた」、「理解できた」の４件法で回答を求めるものである。今回の調査への回答では、「概ね理解できた」、「理解できた」を合わせると99.1％であり、昨年度と同様に良好な結果であった。あわせて実施した「４年間の学修満足度」に関しては、全８項目に「そう思わない」「あまりそう思わない」「ややそう思う」「そう思う」の４件法で回答を求めた。その結果、「ややそう思う」「そう思う」を合わせると94.2％であった。

８．ルーブリック（Rubric）

ルーブリックとは、学習到達度を示す基準であり、学生が何を学習するかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す評価基準からなる。今年度は、昨年度に引き続き社会福祉専門演習Ⅳ（卒業研究）について、数年かけて検証したルーブリックの実質的運用を図った。今後も、内容面などの課題がないかを検討していきたい。

９．今後の課題

2026年度は、令和９年度の新しいカリキュラムの運用開始に向けた検討や手続きが継続的に必要となる。次年度以降も同様に、的確な課題整理と迅速な対応を心がけたい。

入 試 委 員 会

河 内　康 文

１　令和８年度入学者選抜の概況

区　分		募集人員 A	志願者数 B		受験者数 C		合格者数 D		追加合格者数		入学手続者数		辞退者数	入学者数		志願倍率	合格倍率
			全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)		全体	(県内)	B/A	C/D
推薦	県内	20	20	20	20	20	20	20			20	20	0	20	20	1.0	1.0
	全国	10	17	0	17	0	10	0			10	0	0	10	0	1.7	1.7
	計	30	37	20	37	20	30	20			30	20	0	30	20	1.2	1.2
一般	前期	35	97	18	89	18	42	7	0	0	36	7	0	36	7	2.8	2.1
	後期	5	90	26	37	12	9	3	0	0	9	3	0	9	3	18.0	4.1
	計	40	187	44	126	30	51	10	0	0	45	10	0	45	10	4.7	2.5
社会人		若干名	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	0		
私費外国人留学生		若干名	3		2		2				2		1	1			1.0
合計		70	227	64	165	50	83	30	0	0	77	30	1	76	30	3.2	2.0

・一般選抜（前期日程）の課題図書：藤木 和子（2022）『「障害」ある人の「きょうだい」としての私』岩波ブックレット、岩波書店

２　令和８年度入学者選抜の特徴

（１）志願倍率、合格倍率、入学手続者の県内率

令和８年度は、志願倍率および合格倍率が前年度を上回った一方で、入学手続者の県内率は前年度を下回った（下表参照）。

	令和８年度	令和７年度	令和６年度	令和５年度	令和４年度	令和３年度
志願倍率	3.2	2.8	3.7	2.6	4.7	4.9
合格倍率	2.0	1.9	2.4	1.6	3.0	3.2
入学手続者の県内率（%）	39.5	41.0	44.7	37.5	40.0	39.2

（２）志願者数の動向

学校推薦型選抜の志願者数は 37 人で、前年度（49 人）と比較して減少した（前年比 75.5%）。内訳を見ると、県内枠の志願者数は 20 人で、前年度（30 人）と比較して減少し、全国枠も 17 人で、前年度（19 人）と比較して減少した。

一方、一般選抜前期日程の志願者数は 97 人で、前年度（79 人）と比較して増加した（前年比 122.8%）。後期日程も 90 人で、前年度（68 人）と比較して増加した（前年比 132.4%）。

令和８年度は学校推薦型選抜の志願者数が減少した一方で、一般選抜では前期・後期ともに志願者数が増加した。今後は、各選抜区分の動向を踏まえつつ、高校訪問の時期や広報の在り方について引き続き検討する必要がある。

（３）社会人選抜

社会人選抜は、出願がなかった。

（４）私費外国人留学生選抜

私費外国人留学生選抜は、3 名の出願があり、2 名が受験し、1 名が合格・入学した。

３　課題と今後の対応

本学部の総志願者数は 227 人で､前年度(197 人)と比較して増加した(前年比 115.2%)。一方で、選抜区分ごとの志願動向を見ると、学校推薦型選抜では減少がみられた一方、一般選抜では前期・後期ともに増加しており、志願者の動きに変化が生じていることがうかがえる。こうした状況を踏まえると、単に志願者数全体の増減を確認するだけでなく、選抜区分ごとの特徴や、高等学校・受験生側の進路選択の傾向をより丁寧に把握し、それに応じた広報や募集戦略を検討していく必要がある。

今年度は、教員が県内 36 校、県外 63 校を訪問し、社会福祉学部の教育内容や学びの特色について広報を行った。また、高知県キャリア教育推進事業の一環として、12 校での訪問講座および 4 回の集合研修を実施し、加えて県外 3 校でも訪問研修を行った。これらの機会を通じて、在学生の学修状況、卒業生の就職先、学校推薦型選抜の内容、地域連携や実践的な学びの特色などについて情報提供を行い、高校生、高校教員、保護者に対して本学部の魅力を直接伝えることに努めた。とくに、授業や地域連携の具体的な取組、リ・デザイン プロジェクト等の実践的活動について紹介することは、本学部における学びを具体的にイメージしてもらううえで一定の意義があったと考えられる。

また、入試実績や高校訪問等で得られた情報をもとに、選抜区分ごとの志願動向や課題の整理を進めた。その結果、とりわけ県内推薦については、重点校への働きかけの在り方や、広報内容の見直しが今後の課題であることが確認された。あわせて、高校生に対しては、社会福祉という分野そのものへの理解に加え、本学部でどのような学びが展開され、卒業後にどのような進路が開かれているのかを、より具体的かつ継続的に伝えていく必要があることも明らかとなった。そのため、講座内容については、今後、量的な拡充だけでなく、対象や目的に応じた内容面での工夫も求められる。

今後は、入試広報委員会と連携し、高等学校における進路指導の実態や大学志願動向に関する情報収集を継続するとともに、広報委員会、介護人材確保事業部会、地域教育研究センター等と協力しながら、公開講座、学部出前授業、キャンパス訪問の受け入れなど、多面的な広報活動をさらに充実させていく必要がある。加えて、ホームページの充実を図り､授業の様子や学びの実際をホームページや Instagram 等で継続的に発信するとともに、授業や地域連携の具体的な取組を新着情報として積極的に発信するなど、社会福祉学部の魅力発信の基盤を一層強化していくことが重要である。

さらに、学校推薦型選抜および一般選抜における高等学校別の志願者数の動向を把握し、重点校への働きかけや広報内容の改善に活用するとともに、入学後の成績データの分析を継続的に行い、入学者選抜制度の検証と改善につなげていく。今後は、志願者の確保だけでなく、本学部の教育内容や進路の特色に対する理解を深めてもらう取組を通して、社会福祉学部で学ぶ意義をより具体的に伝えていくことが求められる。

学　生　委　員　会

加　藤　由　衣

2025 年度の学生委員会は、学年担当教員である田中きよむ教授、矢吹知之教授、福間隆康准教授、清家庸佑講師、湯川順子講師、乾由美助教、稲垣佳代助教、上杉麻理助教、加藤の９名体制であった。１年間の活動内容や実績の概要は以下のとおりである。

○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の向上、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活 動 内 容

１．相談活動

学生の心身の不調、友人間の悩み、複雑化した生活上の悩みに対して、学年担当教員を中心に、実習担当教員、ゼミ担当教員、健康管理センター、教務・学生支援課と連携し、解決に向けて取り組んだ。特に、様々な理由で欠席が続く学生には、学年担当教員から本人への継続的な連絡や、必要に応じた保護者との連絡、学生宅への訪問など、学生生活の継続に向けた働きかけを行った。

２．経済的支援に関する対応

ガイダンスの際に授業料の免除や各種奨学金の申請について説明した。さらに教務・学生支援課と連携しながら、個々の学生の状況を把握し、必要に応じて後援会等の奨学金の情報提供も行い、手続き支援を行った。

３．事故・事件への対応

事故等に対して学年担当教員を中心に迅速に対応した。また、ガイダンスでの説明や交通安全講習会への参加の促しなど、安全な学生生活への意識の醸成に努めた。

４．学生の活動への支援

４月には１回生のバスハイクが開催され、新入生同士や教員との交流が深められた。学年間交流会、４回生を送る会などは実施されなかったが、在学生から４回生（卒業生）に贈る記念品の作成において学年担当教員がバックアップを行った。

５．配慮を要する学生への対応

教務・学生支援課や健康管理センターとの連携のもと、本人や保護者等との面談をとおして対象学生のニードの把握、教員との意見交換を通じ、就学支援申請のサポートを行うとともに、各学生からの申請にもとづく支援を行った。また、半期ごとにこれまでの状況についてモニタリングを行い、支援内容を再検討した。

○今後の課題

今後も引き続き、学年担当教員やゼミ担当教員を中心に日ごろの関わりをとおして学生の状況を把握し、精神面、経済面、友人、家庭等の課題などへの配慮や解決に向けた支援を行うとともに、課題をもちつつも学生生活を継続できるよう、健康管理センターや教務・学生支援課等との連携のもと迅速で適切な対応を継続することが重要である。

修学支援が必要な学生が増加しており、個々の状況に応じたきめ細やかな支援が必要となっている。今後も学部教員間・各部署との情報共有を円滑に行うとともに、教務・学生支援課及び健康管理センターの職員配置や支援体制の充実を求めていきたい。

実　習　委　員　会

矢　吹　知　之

１．実習委員会の活動の特徴

実習委員会は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の資格取得に向けた実習及び実習関連科目を円滑に実施するために、実習に関わる予算の計画や執行、コース相互に関連する実習事務やカリキュラム等の調整、学内外との連絡調整等を行うことを目的に設置されている。本学部の３つの福祉士養成課程に係るコースの運営及び教育は、コース主担当（コース長）を代表とする各コースの実習・演習担当教員が行っている。

２．配属実習の実施状況

本年度の配属実習では、感染症等による制限が緩和されたことにより概ね計画通り配属予定分の実習を終えることができた。詳細は下記参照。

（１）ソーシャルワーク実習Ⅰ及びソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ

施設・事業所	ソーシャルワーク実習Ⅰ（44 名）	ソーシャルワーク実習Ⅱ/Ⅲ（63 名）
社会福祉協議会	3	18
病院（精神科除く）	7	13
児童相談所	9	2
児童養護施設	8	9
児童自立支援施設		2
児童家庭支援センター		2
教育相談センター	1	1
放課後等デイサービス	3	3
多機能型事業所	3	7
障害者支援施設		1
医療型障害児入所施設	2	
福祉事務所		3
特別養護老人ホーム	2	
養護老人ホーム	3	
介護老人保健施設	2	
地域包括支援センター	1	1
救護施設		1

（２）精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ

施設・事業所	精神保健福祉援助実習Ⅰ（25 名）	精神保健福祉援助実習Ⅱ（25 名）
精神科病院	16	
精神科病床を有する一般病院等	8	
精神科診療所	1	
精神保健福祉センター		4
保健所		5
相談支援事業所		2
就労継続支援 A 型事業所		1
就労継続支援 B 型事業所		8
地域活動支援センター		4
共同生活援助		1

（２）介護実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

施設・事業所	介護実習Ⅰ（16 名）	介護実習Ⅱ（12 名）	介護実習Ⅲ（15 名）
介護老人福祉施設	3	6	6
介護老人保健施設			
特定入居者生活介護	13	2	
小規模多機能居宅介護	9		
生活介護	7		
通所介護	7		
通所リハビリテーション			
障害者支援施設	9	4	5
療養介護/医療型障害児入所施設			4

※介護実習Ⅰは、3 つの事業所を巡るため、内訳は延べ人数となる。

３．実習連絡協議会

本学部の実習教育や配属実習について、実習指導者と本学実習担当教員が率直な意見交換を行い､適切な実習指導体制を整えるために実習連絡協議会を開催している｡今年度も、コースごとに実習連絡協議会を企画し、ソーシャルワーク実習連絡協議会、精神保健福祉援助実習連絡協議会、介護実習連絡協議会を開催した。

2024 年 6 月 3 日（月）ソーシャルワーク実習連絡協議会（Zoom 開催）
参加施設数：42 施設・事業所・機関　実習指導者数：65 名

2024 年 7 月 5 日（金）介護福祉実習連絡協議会（対面開催）
参加施設：⑬施設　参加実習指導者：22 名

2024 年 3 月 4 日（火）　精神保健福祉援助実習連絡協議会（対面開催）
参加施設：9 病院,2 事業所,3 行政機関　参加実習指導者：16 名

４．成果と課題

（１）旧カリキュラムと新カリキュラムへの対応

2021 年度入学生から、社会福祉士養成カリキュラムと精神保健福祉士養成カリキュラムは新カリキュラムを適用し、2024 年度で完成年度となった。例年４月入学当初に実施している介護・社会福祉コースの選択、１回生後期に社会福祉コースのソーシャルワーク実習Ⅰの配属先の提出、及び精神・社会福祉コースの選択希望を実施した。昨年度より、精神・社会福祉コースの選択後に変更希望が生じることから、精神・社会福祉コースの選択時期を２か月程度遅くして実施した。検討課題は次の 2 点である。①ソーシャルワーク実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲでは、総合的かつ包括的な支援を学ぶことが求められており、介護・社会福祉コース、精神・社会福祉コースとの実習先の調整が一部必要であること、②精神・社会福祉コースの選択に必要としている GPA 基準の設定についてである。これらの点については、今後、継続的に協議していく必要がある。

（２）実習予算及び実習事務の確認・情報共有

本年度も、実習予算及び実習事務の確認・情報共有を行うために、実習支援室長と福祉実習支援室を担当する助教、実習委員長の三者による連絡会議を月１回実施した。日常的なコース運営については、各コースに一任しているが、特に実習費の使途と実習事務の進捗状況については、月１回の連絡会議で確認・情報共有を行っている。

就　職　委　員　会

加　藤　由　衣

１　社会福祉学部の就職活動支援

（１）就職ガイダンス等の実施

年度初めに、就職活動にむけたオリエンテーションを実施した。

（２）教務・学生支援課との連携

教務・学生支援課と連携し、学生へ求人情報や就職支援情報の提供を行うとともに、随時学生の就職活動状況等について情報共有を図り、円滑な支援に努めた。また、合格・内定後は速やかに学年担当教員に連絡するとともに、その都度、大学の就職活動支援システム（求人 NAVI）に「進路決定届」（必須）および「就職活動報告書」（任意）を提出するよう促した。

（３）個別相談等

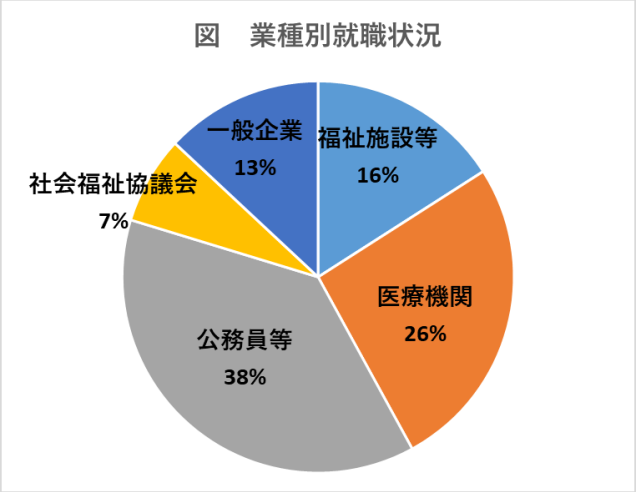
教務・学生支援課と連携しながら、ゼミ担当教員、学年担当教員が中心となり、４回生の進路相談、応募書類の添削、模擬面接等を行った。

（４）情報提供

教務・学生支援課または社会福祉学部宛に届いた求人一覧を整理し、希望地域・業態が一致する学生に、必要に応じて情報を提供した。また、社会福祉学部棟のラウンジスペース卓上へのパンフレット等の設置や「ふくし就職フェア」（各県福祉人材センター主催）に関する情報を随時掲示した。

２　進路状況

進学１名、就職希望者 65 名（就職率 100％）



３　今後の課題

併願による就職活動を展開する学生が増加傾向のため、全体の活動の状況を把握するとともに、面談等を通じて学生の意向確認や個別支援を行っていくことが重要である。また、就職活動と並行して行われる卒業論文執筆や国家試験対策、実習の優先順位の付け方やスケジュール管理に対する学生の意識を高めていく必要がある。そして、これらのバランスを見据えた学生生活を送ることができるよう継続的かつ丁寧なサポートが必要と考える。

広　報　委　員　会

遠　山　真　世

○本年度の取り組み

広報委員会は、河内准教授、加藤准教授、稲垣助教、大熊助教、遠山が担当した。

（１）「大学案内」の編集･製作

2025年版「大学案内」の社会福祉学部の紹介では、昨年のコンセプト、デザインのまま大幅な修正は行わず、一部内容を更新した。

（２）オープンキャンパス

7月26日（土）に対面開催でオープンキャンパスを実施した。事前予約制とし、午前・午後の2部制であった。申し込み者数は128名であった（県内から73名、県外から55名）。当日の来場者は120名であった（県内から69名、県外から51名）また、同伴者116名の参加があった。

（３）キャンパス訪問への対応

7月8日（火）室戸高校（担当：加藤）
9月30日(火)高知国際中学校・高等学校（担当：遠山）
10月29日(水)宿毛高等学校（担当：河内）

（４）学部パンフレットの更新

昨年度に刷新したデザインや内容を引き継ぎ、国家試験の合格状況や就職状況、教員情報などを更新した。

（５）学部ホームページの更新

・昨年度に大幅改定を行ったホームページを引き継いで運用した。
・リカレント講座など社会福祉学部主催のイベントや、教員・学生の地域活動等について掲載した。
・学部教員の教育・研究活動「学部報」を掲載した。

○今後の課題

2025年度は上記の活動に加え、入試課や戦略広報課が作成・運営する広報誌およびインスタグラムへの記事掲載のため、在学生・卒業生・教員を人選・紹介する機会が数多くあった。今後は学部独自のSNSを活用した広報活動を視野に入れ、高校生に有益な情報提供をしていきたい。あわせて、個別ニーズに応じた訪問講座等の開催も継続・拡充し、アナログとデジタルを融合した広報活動を展開していきたい。

オープンキャンパスについては、大学全体としてこれまで参加定員を設ける形をとってきたが、今年度は社会福祉学部で定員を充足した。これを受けて、参加定員を設けることについて見直し、高校生・受験生が本学に足を運ぶ機会を拡充する必要があると考える。

介護人材確保部会

辻　真美

１．集合型研修　社会福祉の事を分かりやすく学ぶ

〇開催日時：2025 年 7 月 26 日（土曜日）9:30～16:30
〇開催場所：高知県立大学池キャンパス
〇対象：高校生及び保護者、高校教員
〇参加者数：総数 237 名（内高校生 121 名）
〇教職員：社会福祉学部：教授 長澤 紀美子、教授 西内 章、教授 田中 きよむ、教授 杉原 俊二、教授 矢吹 知之、教授 西梅 幸治、准教授 河内 康文、准教授 福間 隆康、准教授 遠山 真世、准教授 加藤 由衣、准教授 田中 顕悟、准教授 辻 真美、講師 井上 夏子、講師 行貞 伸二、講師 田中 眞希、講師 湯川 順子、講師 清家 庸佑、助教 稲垣 佳代、助教 上杉 麻理、助教 大熊 絵理菜、助教 玉利 麻紀、助教 乾 由美、助教 山本 大輔
事務局 倉橋 孝幸（計 24 名）
〇学生スタッフ：1 回生；17 名、3 回生；6 名

（１）事業概要
高校生とその保護者に対し、福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望をもち、介護人材の確保につなげることを目的にイベントを実施した。大学教員や学生に加えて、当事者であり大学院修了生でもある外部講師の方が、大学教員とトークセッション形式で自身の体験や本学での学び、研究成果を発表し、参加者が専門職の役割やキャリアについて学ぶ機会を提供した。

（２）活動成果
アンケート集計結果から参加者の 98%が「とても良かった」、「良かった」としており、プログラムは高い満足度を得る結果となった。自由記述においても「福祉・介護のイメージが良くなった」といった意見が見られた。アンケート結果の自由記述を一部紹介する。
・福祉についてどのようなことを学ぶのか、具体的な話を聞けて理解を深めることができた。
・県立大学の取り組みを聞くことで、福祉の本質を知ることができた。
・以前から福祉の仕事で人の力になりたいと思っていたが、今日のお話を聞いて、地域の方と力を合わせて地域をよりよくしていきたいと改めて強く思った。

（３）活動評価
本事業のプログラムは 10 年目を迎え、本年度も「オープンキャンパス 2025」と同時開催で実施し、県外の地域からの参加もあった。本プログラムを通じて、大学の雰囲気や教員と学生の関係を直接感じられる機会となり、参加者の進路選択に貢献できたと考える。アンケート集計結果から、学内の雰囲気や授業内容などを知ることができ、福祉に対するイメージがより広く、深く変化し、福祉や本学部への関心が高まったことがうかがえた。これらの結果から、プログラム全体の構成に対して高い満足度が得られたと考える。

（４）当日の様子

教員・先輩との談話室

介護体験コーナー

２．集合型研修　カフェで学ぶ福祉と認知症

〇開催日時：2025 年 9 月 6 日（土曜日）　13：00～16：00
〇開催場所：高知県立大学永国寺キャンパス

〇対象：高校生及び保護者、高校教員
〇参加者数：総数 19 名（内高校生 13 名，高校教員 1 名）
〇教職員：社会福祉学部：教授 矢吹 知之、准教授 辻 真美
事務局 倉橋 孝幸、土居 誠（計 4 名）
〇学生スタッフ：学生は永国寺カフェのスタッフとして参加

（１）事業概要
高校生とその保護者に対し、福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望をもち、介護人材の確保につなげることを目的にイベントを実施した。今回の集合研修は、本学永国寺キャンパス食堂で毎月開催しているオランダスタイルの本格的な認知症カフェ「土曜の永国寺カフェ」（企画：土曜の永国寺カフェ実行委員会）を会場に行われた。プログラムでは、参加者同士の交流を深めるカフェタイムに加え、高知市成年後見サポートセンターによる「簡単解説・成年後見制度」のミニ講和が行われた。

（２）活動成果
アンケート集計結果からは、回答者のほぼ全員が「福祉・介護への興味を持った」、「福祉・介護の勉強をしたくなった」ことが示された。
一部、自由記述を紹介する。
・矢吹先生とゲストの方とのトークのような形で進め、講話が終わったら質問を受け付ける、という形でとても分かりやすかったです。一般的な授業の形とは違っていて、とても魅力的に感じました。
・一緒のテーブルに座った方々と認知症のことから世間話まで、様々なことを話すことができて、とても楽しかったです。
・認知症の方のご家族のお話を聞くことができて良い体験になりました。
・初めて認知症カフェに参加して、色んな世代の方とお話できて、どのような話題をふればよいかなど良い体験できました。

（３）活動評価

参加者した高校生や保護者は、リラックスした雰囲気のなか、他の参加者とともにカフェタイムやミニ講座の時間を楽しんだり、講師の話に真剣に耳を傾けたりしていた。そういった参加者の様子やアンケート結果からは、永国寺カフェを会場とした今回の企画が、高校生にとって貴重な経験となり、福祉・介護への関心を深める機会となったことが伺える。スタッフとして参加している大学生も、参加者の誘導や飲み物の提供、会話のサポートなどを行い、参加者間のコミュニケーションを円滑にする役割をさりげなく果たし、終始あたたかい雰囲気の中で、盛況のうちに終了した。

（４）当日の様子

ミニ講和

カフェタイム

３．集合型研修　県大生と行く最新の福祉体験ツアー

〇開催日時：2025 年 10 月 18 日（土曜日）　13：00～16：30（希望者のみ 17：00）
〇開催場所：高知県立大学池キャンパス及びイオンモール高知
〇対象：高校生及び保護者、高校教員
〇参加者数：総数 19 名（内高校生 17 名）
〇教職員：社会福祉学部；准教授 辻 真美
　　事務局 土居 誠（計 2 名）
〇学生スタッフ：3 回生；6 名、4 回生；4 名、手話体験ブース；UOK 手話サークル 9 名

（１）事業概要

高校生とその保護者に対し、福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望をもち、介護人材の確保につなげることを目的にイベントを実施した。

今回の集合研修は、福祉と福祉の仕事に触れることができる体験型イベント ‘ふくしフェア 2025’への参加ツアーを企画した。案内役の学生スタッフや大学教職員とともに、最新の福祉を見て、触れて、体験するなかで、人がよりよく生きることやともに支え合うことの大切さを学ぶ機会とした。

（２）活動成果

アンケート集計結果からは、回答者のほぼ全員が「福祉・介護への興味を持った」「福祉・介護の勉強をしたくなった」「福祉・介護の仕事をしたくなった」ことが示された。

一部、自由記述を紹介する。

・ふくしフェアに参加してみて、福祉をもっと身近に感じることができました。
・今回のツアーで一番印象に残ったのは電動車いすと機械を使う介護です。100kg をこえる人でも持ち上げることができると知り、とても驚きました。
・ふくしウルトラクイズでは、今まで知らなかった知識に触れることができてよかったです。大学生の皆さんとの会話も楽しめました。
・ノーリフティング体験やとろみ体験、実際に手話をやってみるなど、普段はできない体験が多くできたことにより、福祉の世界により近づけたと思います。
・県立大学の先輩方が案内してくれ、とても安心してツアーを終えることが出来ました。先輩方がリードしてくれ様々な体験をすることができたのでよかったです。

（３）活動評価

アンケート結果から分かるように、高校生が体験を通して学ぶことで、より分かりやすく印象に残る体験となり、福祉・介護への興味・関心が高まったのではないかと考える。世間全般にある福祉・介護のマイナスイメージを払拭するためには、このような最新の福祉機器に直接見て、触れる体験型の講座が効果的であると感じる。今後もさまざまな関係機関と連携し、体験を通した学びの場を提供したい。

（４）当日の様子

手話体験

ノーリフティングケア体験

４．集合型研修　新高校生２・３年生のための入門講座

〇開催日時：2026 年 3 月 21 日（土曜日）　13：00～15：00
※希望者に講座終了後学内見学ツアーを実施(15:00～16:10)
〇開催場所：高知県立大学池キャンパス
〇対象：高校生及び保護者・教員
〇参加者数：総数 24 名（内高校生 17 名）
〇外部講師：高知市保健福祉部 基幹型地域包括支援センター；谷脇 志穂 氏、高知市三里地域包括支援センター；西野 美知子氏、高知市社会福祉協議会；高橋 彩氏
〇教員：社会福祉学部；助教 山本 大輔、助教 乾 由美、准教授 辻 真美（計３名）
〇学生スタッフ：1 回生；5 名、2 回生；2 名

（１）事業概要

高校生とその保護者に対し、福祉・介護分野におけるキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望をもち、介護人材の確保につなげることを目的にイベントを実施する。今回の

イベントでは、大学教員や学生が大学での学びの実際を報告することに加え、現場で活躍する専門職が仕事内容や役割について語ってもらい、さらに、福祉・介護の学問的な入門講義を行う予定である。これらをとおして、参加者に福祉・介護への理解を深めていただく機会を提供する。

（２）活動成果

アンケート集計の結果、受講後の福祉・介護のイメージについて、回答者の全員が良いイメージになったことが分かった。また、受講後の福祉・介護への興味についても同様に全員が興味を持ったと回答された。一部、自由記述を紹介する。

・みんなが自分事として捉え、つながっていくことが重要であることがわかった。
・福祉の仕事は、誰かの誰かの生きる希望となれるすてきな仕事だと思いました。
・福祉は、人と人とが関わり助け合うことであると、改めて理解が深まった。
・認知症の人が、どのように社会参加をしているのかを知り、第二、第三の家族という周りの人のあり方についても考えさせられた。
・社会福祉は、みんなが笑顔で生きるために必要なものだと思いました。

（３）活動評価

（２）の結果については、福祉・介護に対して具体的なイメージを持たない高校１・２年生を対象としたことが影響していると考えられる。このことから、介護人材の確保やイメージ向上のためには、早期の段階から継続的なアプローチが重要であるといえる。なお、本講座は、高知市が実施する認知症サポーター養成講座および高知市社会福祉協議会と連携して実施した。今後も、多くの関係機関と連携を図りながら取り組みを続けていく必要がある。

（４）当日の様子

オープニング「10 年先の未来を学ぼう」

認知症サポーター養成講座

講義後の質疑応答の様子

学内見学ツアー（ゼミ室）

５．訪問型研修（計 12 校：12 回）

○開催日時及び場所：
① 2025 年 8 月 19 日（火）13：30～15：30　高知商業高校
② 2025 年 8 月 28 日（木）16：00～17：00　高知国際高校
③ 2025 年 9 月 11 日（木）16：40～17：40　高知小津高校
④ 2025 年 9 月 24 日（水）16：10～17：30　須崎総合高校
⑤ 2025 年 9 月 25 日（木）10：50～12：40　大方高校
⑥ 2025 年 9 月 25 日（木）13：00～14：00　高知丸の内高校
⑦ 2025 年 9 月 26 日（金）16：10～17：00　中村高校
⑧ 2025 年 9 月 29 日（月）16：00～17：30　岡豊高校
⑨ 2025 年 9 月 30 日（火）16：00～17：00　春野高校
⑩ 2025 年 9 月 30 日（火）16：00～17：00　高知農業高校
⑪ 2025 年 10 月 15 日（水）15：45～16：45　土佐女子高校
⑫ 2025 年 10 月 20 日（月）15：50～16：50　安芸中学・安芸高校

○対象：高校生及び高校教員
○参加者数：総数 155 名（内高校生 116 名）
○外部講師：藤本 里映氏（住友生命保険相互会社）（①）、柿内 靖氏、亀谷 賢汰氏（社会福祉法人 黒潮町地域包括支援センター）（⑤）、芦辺 百音氏（社会福祉法人 高知市社会福祉協議会）（⑧）、岡 未来氏（社会福祉法人 仁淀川長社会福祉協議会） 岡村 知良氏（社会福祉法人 特別養護老人ホーム 湯の里（⑨）、徳平 愛氏（医療法人 白菊園病院）（⑪）（計 7 人）
○教職員：社会福祉学部 教授 西内 章（④⑦）、准教授 辻 真美（⑧⑨⑫）、講師 行貞 伸二（③⑥）、講師 田中 眞希（①⑩）、講師 清家 庸佑（②⑪）助教 乾 由美（②⑤⑪）、助教 山本 大輔（⑧）（計 7 名）
○学生スタッフ：1 回生；12 名、2 回生；5 名、3 回生；4 名、4 回生；7 名（計 28 人）

（１）事業の概要

福祉・介護への理解を深めることを目的に、高知県内の高等学校を訪問し、大学教員が理論、外部講師（卒業生）が福祉・介護現場での仕事内容や福祉・介護職の役割、学生スタッフが大学での学びの実際を説明した。また、開催にあたっては、各高校の担当者と事前に打ち合わせを行い、高校側の目的や意図、参加者の福祉・介護への興味・関心などの状況に合わせて内容を工夫して行った。

（２）活動成果

アンケート集計結果はおおむね好評であった。以下、自由記述を一部紹介する。

・人とのコミュニケーションにおいて、自身の会話の力が向上するだけでなく、相手の心情やどう受答えすればよいのかという複数の視点に気づけるのだと知り、改めて様々な人と関われる福祉の仕事は、人とつながれるすてきな仕事なのだと感じた。
・特に印象に残ったことは、福祉は教科書通りにはいかないということです。「学ぶことはたくさんあって、それが実習で全く応用できない時もあるけど、それがおもしろいところ」ということを聞き、さらに福祉に興味を持ちました。これからも福祉のことについて学んでいきたいと思いました。
・福祉について、あまり興味がなかったが、その道に進むという選択肢ができた。
・地域の方々と関わるのは、やっぱり素敵だなと思った。自分自身、誰かのためになる

仕事に興味があったから、進路の選択肢に入れたいなと思った。

（３）活動評価

本事業は今年度で 10 年目を迎え、県内の高校からのニーズも高まり、新規も含めて 12 校で実施することとなった。高校側の担当者の方々には、事業の目的や意図をより深く理解いただき、事前の打ち合わせから高校の状況や要望を丁寧に伝えていただいた。そのおかげで、各高校のニーズに応じた内容や時間帯などを工夫して実施できた。前述のアンケート結果からも、本事業は福祉・介護への理解を深め、ポジティブなイメージを醸成し、さらには仕事への魅力や価値を伝える上で有効であったと考える。

また、学生スタッフや外部講師にとっても、母校を先輩・後輩、教職員とともに訪問することは、自己を振り返るよい機会となっているようだ。事業の継続とともに、参加者の満足度をさらに高められる内容となるよう努めたい。

（４）当日の様子

高校生と卒業生とのグループワーク

卒業生による講義

高校生の意見を引き出している様子

学生と教員による講義

キャリア支援委員会

田中　眞希

キャリア支援委員会が本年度に行った業務は、下記のとおりである。

１．活　動　内　容

①キャリア支援に係るガイダンスの実施

全学委員会の学部別キャリア教育・就職ガイダンス開催経費を用いて、学年担当教員の協力のもと、以下のガイダンスを開催した。開催された講座は、どの講座も好評であった。

開催日	テーマ	講師	対象
１月８日	卒業生によるキャリア支援講座	臼杵亜紗（高知県児童相談所）、田中小夏（高知市社会福祉協議会）、門脇沙耶（四万十町役場　地域包括支援センター）	１回生
３月18日	４回生からの就職活動報告会	本学部４回生４名	２・３回生
12月19日	国家資格取得のための勉強方法や心構え	杉村誠太（社会福祉法人山寿会）、武村里乃（高知医療センター）	４回生

②リカレント研究会事業の取り組み

学部運営費による事業として、以下の研究会を実施した。継続的に実施されている研究会もあり、参加者には有益な機会となっている。

事業名 開催日（回数）	担当教員	内容と成果	参加人数
介護コース ７月７日（月） （計１回）	河内 康文 矢吹 知之 辻　真美 乾　由美 上杉 麻理 田中 眞希	今回は卒業生だけでなく在学生や実習先指導者との交流を意図して、事例研究発表会へ参加した後、交流会を行う流れで企画した。参加した卒業生は、学生時代を懐かしむと共に、今の仕事や自身のキャリアを振り返る機会となった。また卒業生同士の交流は、気持ちのリフレッシュにもなるようだ。実習指導者も実習後の学生はもちろん、卒業後の様子を目の当たりにして、久しぶりの再会と成長に感動していた。今回初の取り組みであったが、今後も継続して行いたい。毎年恒例となることで、参加者数の確保にもつながる。さらに、在学中から参加することで、卒業後の参加も促せると考える。	55人
社会福祉法人	田中 眞希	社会福祉法人旭川荘は本学部卒業生が10名以上在	22人

旭川荘卒業生との交流 12月５日（金）～６日（土） （計１回）		籍している。ゼミ生５名と共に、法人本部、３施設を見学した。各施設の見学では、在籍する卒業生が案内し質疑応答も対応した。また、参加学生から卒業生への簡単なインタビューも行った。夜は食事会を開催し、卒業生、ゼミ生と共に交流を深めた。卒業生は同法人で勤務しているが、異なる所属先だと交流の機会は少ないため、互いに交流できる良い機会となったようだ。	
ケアワーク学習会 6月25日，7月31日，8月13日,27日,9月2日，4日，14日,15日,10月18日，11月19日，20日，27日，3月6日,7日,11日 （計15回）	河内 康文 辻　真美 田中 眞希	介護コース12期生までが卒業し、相談内容も多様化してきた。そのため今年度より卒業生の希望するテーマ別に（内容によって在学生等を含む）スーパービジョンやキャリアに関する相談などを実施した。 今年度は新人職員特有の悩み（職場に慣れる方法やストレスとの付き合い方、夜勤業務への不安など）が多かった。そのほか、後輩への助言や職場のリーダーとしてのふるまいなど、共通の悩みや職種・職場による違いを共有するなど、各自のキャリアを振り返り、再構築する機会となった。必要に応じて、継続的かつ個別に機会をもち、介護コース以外の教員や退職した介護コース教員、所属先職員に同席をお願いした。	延べ 83人

③<u>学内就職説明会等の開催</u>

本年度も、本学部卒業生が在籍する社会福祉法人や医療法人を中心に、新卒採用に向けて卒業生や人事担当者を通じた説明会開催の要請があり、就職委員や関係する教員の協力を得て対応した。その他、各教員が実施している説明会等もあると推測するが、把握している範囲で以下に示す。

開催日	来学機関・施設	募集職種	参加教員
４月７日	市町村	市町村職員（社会福祉士）	長澤、湯川、田中眞希
４月８日	都道府県	都道府県職員（社会福祉士）	西梅、遠山、田中眞希
４月24日	障害福祉サービス事業所	生活支援員	加藤、遠山
５月22日	障害福祉サービス事業所	生活支援員	田中眞希
５月29日	高齢者施設	社会福祉士・介護福祉士	矢吹、田中眞希
６月２日	高齢者施設、障害福祉サービス事業所	社会福祉士・介護福祉士	田中眞希
７月30日	高齢者施設、障害福祉サービス事業所、医療機関	社会福祉士・介護福祉士・MSW	田中眞希
７月31日	高齢者施設	社会福祉士・介護福祉士	田中眞希

１月15日	児童福祉サービス事業所	社会福祉士	田中眞希
３月18日	都道府県社会福祉協議会	福祉職全般	福間、湯川、稲垣
	都道府県	都道府県職員（社会福祉士）	

２．今 後 の 課 題

本委員会に関する今後の課題としては、年度当初に活動計画を確認し、それに基づいた取り組みの具体的で継続的な推進がある。特に、卒業生を中心とするリカレント研究会事業や、卒業生・在学生・教員をつなぐ交流の場の提供により、学術的・実践的な力量を継続的に培うことが課題である。昨年度までと比較すると、取り組みを継続的に行えていない分野がある。一方で、教員が個別に行っている活動を把握することが難しいため、実際には実施している内容があると推察する。今後はどのように取りまとめ、全体を把握したうえで活動内容を充足させていくのかが課題であると考える。

健康長寿研究センター

辻　真 美

○活動内容

1. 健康長寿研究センター運営委員会
令和７年度の全学運営委員会において，全８回の会議に出席した．

２．健康長寿研究センター運営委員
久保田聡美（センター長 看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（清家・乾・辻）・企画調整課健康長寿研究センター担当者

３．令和７年度活動実績（社会福祉学部がかかわった主なもの）
①リカレント教育講座－ようこそ！知のフールドへ社会福祉学部－
②つながる保健室出張版 in 四万十町，プレ開催 永国寺キャンパス
③第 14 回 みさとフェア
④高知市老人クラブ連合会・三里ブロック主催 健康まつり
⑤健康長寿文庫の選定

○活動の評価と課題

①田中准教授による講座を大講義室にて開催した．質疑応答やアンケートには詳細な感想が多く寄せられており，大変好評であった．受講者は市町村社会福祉協議会職員や高校生，本学教員，在学生であった．受講者の声を次年度の本講座に活かしていきたい．

②四万十町十和地域振興局２階大ホールで開催した．看護学部塩見先生と辻による講演と健康栄養学部，社会福祉学部による体験ブースを実施した．四万十町地域包括支援センター，本学事務局と事前に打合せを行い，「転倒予防」の意識向上と身体に筋肉を蓄える「貯筋」の推奨をテーマに行った．

③十津小学校にて医療センターと共同ブースを出展し、清家講師は「ストレス測定コーナー」，乾助教が「つながる保健室」（血管年齢測定・相談コーナー）を担当した．

④「ストレスチェック測定機器」を担当し，49 名の住民の方々の測定を支援した．心身の健康に対する意識を高めていただけるよう，住民に積極的に声かけを行った．

⑤健康長寿文庫の推薦図書として一般啓発書を 9 冊，選定した．多くの県民の方々が健康に関する書籍に興味を持ってくださるよう，推薦コメントを添えて提出した．

① リカレント教育講座－ようこそ！知のフィールドへ－

開催日	テ ー マ	講 師	参加者
12 月 13 日	命・危険と向き合う人々との家族の心と体を支えるために～アメリカの Military Social Work の知見をヒントに～	田中顕悟准教授	８人

② つながる保健室出張版 四万十町

開催日	テ ー マ	講師	参加者
９月 26 日	転びにくい体を一緒につくろう！	辻真美・乾由美	21 人

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会
看護･社会福祉連携部会

井上　夏子

○看護・社会福祉連携部会について

１．組織

１）高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー

２）高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

２．事業

１）学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供

２）基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力

３）教員によるコンサルテーションの実施

４）臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

５）県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

６）その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

１．学生の臨地実習（上記事業１にあたる）について、前期には、社会福祉学部（2 回生）5 名の見学実習、社会福祉学部（3 回生）1 名のソーシャルワーク実習Ⅱ・Ⅲ、社会福祉学部（3 回生）4 名の精神保健福祉士実習に備えた見学実習の受入れと、社会福祉学部（4 回生）2 名の精神保健福祉援助実習を行った。後期は、社会福祉学部（2 回生）2 名のソーシャルワーク実習Ⅰを行なっている。

２．共同研修会（上記事業３にあたる）について、2 か月に 1 回、事例検討を実施した。高知医療センターのソーシャルワーカーより事例提供があり、大学教員や学部生を交えそれぞれの立場から意見交換を行うことにより、事例を深めた。事例検討については、モデルや理論を使って理解することへの取り組み、事例検討を行った翌月に事例検討で学んだ事の共有を行った。

　2 年間市役所へ出向したソーシャルワーカーより地域から見た課題の発表があり、病院の役割、地域との連携について、教員も交えた意見交換を行った。

３．臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証（上記事業４にあたる）については、外来ソーシャルワークの課題と取り組み、社会福祉士・精神保健福祉士の実習プログラムを議題とし、大学教員から助言・指導を行い、検討した。

４．看護・社会福祉連携活動の実施（上記事業６にあたる）について、高知大学医学部付属病院 SOGI チームを招いて、LGBTQ（SOGI）研修会を開催した。患者だけではなく、職員、学生、だれもが、医療を受けやすい環境づくりをテーマに、講演が行われた。高知県立大学社会福祉学部・看護学部 10 名、教員 2 名、高知医療センター 24 名の合計 36 名の参加があった。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

１．実習では、学生が現場のソーシャルワークに触れ学習してきた成果と実践を摺り合せる機会となるため、個々の学生の目標や課題の達成を意識して指導をしている。

指導者側の課題としては、より効果的な指導を目指し実習プログラムを作成し、学生がクライエントや家族と関わる機会を確保できるよう検討が必要と考えている。

２．引き続き事例検討を実施する。今後も看護部門や他職種の参加を促進し、多様な視点から事例検討ができるよう取り組んでいく。 現場の課題や疑問点について、ソーシャルワーカーで共有し、業務改善やソーシャルアクションに繋げていけるよう、取り組みを発展させ学会などで発表する機会も作っていきたい。

３． キャリアラダーの研究からみえてきた喫緊の課題であるスーパービジョン体制の確立を目指し、継続してスーパービジョンを行っている。大学教員の助言・指導の経過や効果等についてまとめ、研究発表につなげていきたい。

令和7年度 看護･社会福祉包括連携事業実績･計画 （ 社会福祉部会 ） 社会福祉部会 資料1

1．学生の臨地実習･教員の臨床研修における場の提供

1）学生の臨地実習 **2025/2/18現在**

	実施日･期間	氏名or対象	人数	事業内容
1 前期	（社会福祉） （精神保健福祉）	（社会福祉） ①社会福祉学部 2回生 5名（秋森凜、チェウォンビン、丸山純怜、宮本花名、山室大志） ②社会福祉学部 3回生 1名（金尾百笑） ③（精神保健福祉） 社会福祉学部4回生 2名（平柴百笑、山口璃星） ④（精神保健福祉）社会福祉学部3回生 4名（上間怜奈、柴田結衣、田北耕太郎、福本紗也）	６名 ６名	①見学訪問 ②ソーシャルワーク実習ⅡⅢ ③精神保健福祉援助実習Ⅰ ④精神保健福祉士実習に備えた見学実習
２ 後期	（社会福祉）	（社会福祉） ①社会福祉学部 2回生 2名 （青野文香、阿南穂花）	２名	①ソーシャルワーク実習Ⅰ

2）教員の臨床研修

	実施日･期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

2．基礎教育･継続教育･大学院教育における相互協力

1）基礎教育

	実施日･期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	毎回 参加予定	社会福祉学部 3回生	順次 参加	定例研修会 （3. 教員によるコンサルテーションに該当）への参加

2）継続教育

	実施日･期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3）大学院教育

	実施日･期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

3．教員によるコンサルテーションの実施

	実施日･期間	氏名or対象	参加 人数	事業内容
1 前期	4/21（月） 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	●高知県立大学 社会福祉学部教員（長澤紀美子･大熊絵理菜･井上夏子） ●高知県立大学 社会福祉学部学生（上甲桜生） ●高知医療センター ソーシャルワーカー（藤井しのぶ･中山真紀･川上めぐみ･竹村貴深･西原梓･和田真奈美･丁野江里子･羽方沙由美･兵頭七海･立花望･武村里乃）	15名	●事例検討 ･発表者（藤井）、司会（川上） ･事例内容:『多職種で行う面接の効果とソーシャルワーカーの役割を考える 』
2 前期	5/19（月） 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	●高知県立大学 社会福祉学部教員（大熊絵理菜･井上夏子） ●高知医療センター ソーシャルワーカー（藤井しのぶ･中山真紀･川上めぐみ･竹村貴深･和田真奈美･丁野江里子･羽方沙由美･兵頭七海･立花望･武村里乃）	12名	●『実習プログラムについて』 ･発表者（竹村･丁野）

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

3 前期	6/16（月） 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	●高知県立大学　社会福祉学部教員（大熊絵理菜・井上夏子） ●高知県立大学　社会福祉学部学生（太田垣尚美・大西咲楽・金尾百笑・近藤千結・柴田結衣・島村あかり・玉井ひより・仲野恵麻・西岡沙穂・馬喰田彩・福本紗也・松井明香里） ●高知県立大学　大学院生（中田理沙） ●高知医療センター　ソーシャルワーカー（藤井しのぶ・中山真紀・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・兵頭七海・立花望・武村里乃）	26名	●事例検討 ・発表者（西原）、司会（和田） ・事例内容：『受け入れられない緩和連携を進めていくこと』
4 前期	7/28（月） 17:30～ 高知医療センター 研修室3	●高知県立大学　社会福祉学部教員（井上夏子） ●高知医療センター　ソーシャルワーカー（中山真紀・竹村貴深・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・兵頭七海・立花望・武村里乃）	9名	●出向報告（地域包括支援センター） ・発表者（中山）、司会（羽方） 「2年間で学んだこと　知らんかった地域包括支援センター」
5 前期	8/18（月） 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	●高知県立大学　社会福祉学部教員（大熊絵理菜・井上夏子） ●高知医療センター　ソーシャルワーカー（藤井しのぶ・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・兵頭七海・立花望・武村里乃）	11名	●事例検討 ・発表者（丁野）、司会（藤井） ・事例内容：『不安を感じながら行う支援』
6 前期	9/22（月） 17:30～ 高知医療センター 研修室3	●高知県立大学　社会福祉学部教員（大熊絵理菜・井上夏子） ●高知医療センター　ソーシャルワーカー（中山真紀・川上めぐみ・竹村貴深・和田真奈美・丁野江里子・羽方沙由美・兵頭七海・立花望・武村里乃）	11名	●外来ソーシャルワークの実践課題を考える 司会（兵頭）
7 後期	10/20（月） 17:30～ 高知医療センター がんセンター4F 研修室	●高知県立大学　社会福祉学部教員（大熊絵理菜・井上夏子） ●高知医療センター　ソーシャルワーカー（中山真紀・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・丁野江里子・ 兵頭七海・立花望・武村里乃）	11名	●外来ソーシャルワークの実践課題を考える 司会（中山）
8 後期				
9 後期	12/15（月） 17:30～ 高知医療センター 研修室1	●高知医療センター　ソーシャルワーカー（藤井しのぶ・中山真紀・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海・立花望・武村里乃）	10名	●事例検討 ・発表者（兵頭）、司会（西原） ・事例内容：『支援の”正解”を求めて揺れた事例～生きる場所の検討を振り返って～』
10 後期	1/19（月） 17:30～ 高知医療センター 研修室1～2	●高知県立大学　社会福祉学部教員（大熊絵理菜・井上夏子） ●高知県立大学　社会福祉学部学生（福井友菜・井上咲季・井上璃湖・宇高真帆・高橋みか・寺本美由紀・宮本花名・山室大志） ●高知県立大学　看護学部（小島瑛人・野口恋） ●高知医療センター　ソーシャルワーカー（藤井しのぶ・中山真紀・川上めぐみ・西原梓・丁野江里子・兵頭七海・立花望・武村里乃・竹内典子） ●高知医療センター医療局・看護局・医療技術局　15名	36名	●LGBTQ研修会 ・講師（高知大学医学部付属病院SOGIチーム中村美保氏・西田拓洋氏）司会（川上）
11 後期	2/16（月） 17:30～ 高知医療センター 研修室1	●高知県立大学　社会福祉学部教員（大熊絵理菜・井上夏子） ●高知医療センター　ソーシャルワーカー（藤井しのぶ・中山真紀・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海・立花望・武村里乃）	12名	●社会福祉士・精神保健福祉士養成実習プログラム（プログラミングシート）を作成・利用してみての感想と課題 ・発表者（竹村・丁野・藤井） ・司会（竹村・丁野）
12 後期	3/16（月） 17:30～ 高知医療センター 研修室1	●高知県立大学　社会福祉学部教員（大熊絵理菜） ●高知医療センター　ソーシャルワーカー（藤井しのぶ・中山真紀・川上めぐみ・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海・立花望・武村里乃）	名	●次年度における包括連携事業での取組について確認

4．臨床実践能力及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				
3				

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

５．県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

６．その他看護・社会福祉連携活動の実施

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	1/19（月）	高知医療センター職員（24名）・高知県立大学学生（10名）・教職員（2名）	36	高知大学医学部付属病院「SOGIチーム」を招いての「LGBTQ」研修会の開催
2				

防災対策窓口

辻　真 美

○本年度のとり組み

学部担当として行貞講師、清家講師、乾助教がメンバーであった。合同災害訓練の実施に向け、事務局および他学部との打ち合わせを計５回開催した。あわせて、メールで適宜情報共有や進捗報告を行い、連携を図った。令和７年度の主な取り組みは以下のとおりであった。

１．３キャンパス合同避難訓練

11 月 10 日（月）11:50～12:30（本部以外は 12：15 頃まで）に実施された。

本訓練は、授業中の学生や教職員等の地震発生時の避難訓練、キャンパス間の情報伝達訓練を目的に実施したものである。地震が発生した場合に迅速かつ的確な行動がとれるよう、学生及び教職員の防災意識の向上を図るとともに、災害時の課題を抽出して今後の防災対策に活用することを目指した。当日は、教員による一時避難場所への誘導と点呼、および安否確認メールの返信を、防災対策窓口のメンバーが支援した。また、社会福祉学部棟の備蓄倉庫（赤キャビ）から集計用紙とトランシーバーを取り出し、避難状況を集計して本部へ連絡を行った。訓練の様子は次の写真のとおりである。

一時避難所での点呼の様子

災害対策本部の様子

２．高知医療センターとの合同災害訓練

10 月 19 日（日）の 8 時 30 分～12 時 30 分に行なわれた。

訓練内容は、①災害対策本部の立ち上げ、活動訓練、安否確認訓練、通信訓練、②避難所の立ち上げ、配給、トイレの使用についての説明、避難誘導などの運営支援、そして③高知医療センターとの合同による救護訓練であった。社会福祉学部の１回生 61 名は③の高知医療センターで行われた救護訓練に「模擬患者役」として参加し、教員３名が引率を務めた。学生は、事前に傷病者の情報を把握した上でトリアージを体験し、災害医療現場の実情をイメージすることで、多くの気づきを得ることができた。その後、帰宅困難者として本学の避難所へ移動し、受付や食料の配給の流れを体験した。

③の訓練の様子

③の訓練の様子

①の訓練の様子

②の訓練の様子

https://www.u-kochi.ac.jp/site/bousaihp/20251024.html（ホームページ掲載）

３．社会福祉学部における災害福祉教育

７月 11 日に開催された公立大学防災研究教育センター連携会議において、看護学部の木下教授により、2025 年度の活動予定および報告が行われた。本学部の教育に関する取り組みとして、「社会福祉入門演習」におけるゲスト講師による 1.5 次避難所応援の体験談や「社会福祉基礎演習」の合同災害訓練での模擬患者役体験について報告がなされた。

さらに、災害福祉に関する教育の継続や充実に取り組むために、社会福祉学部専門科目における災害福祉に関わる教育内容や指導方法について学部内調査を実施した。結果、計９科目、延べ 572 人の学生が受講した。把握された実績は、教授会を通して教員間で共有を図った。

４．社会福祉学部棟の備蓄管理および啓発等

備蓄品のローリングストックを継続するとともに、社会福祉学部棟２階の分置備蓄場所を E209 教室へと変更した。また、全階の女子・男子・多目的トイレに災害対策推進ワーキングで作成した「災害時のトイレの使い方」のチラシを掲示した。あわせて、備蓄倉庫（赤キャビ）内に、携帯用トイレ（100 回分）、白ビニール袋、養生テープを新たに追加したことを学部内に周知した。

○次年度に向けて

学部の防災意識向上に向け、事務局や他学部との連携を強化する。専門科目の災害福祉教育については、引き続き、取り組まれている災害教育について教員間で共通認識を深めていきたい。

総務・予算委員会

辻　真美

総務・予算委員会は、委員長を辻が担当し、長澤学部長、西内教授、田中顕悟准教授、大熊助教、玉利助教で構成した。本年度に行った業務は、以下のとおりである。いずれも学部事務職員の協力を得て取り組んだ。

１．活　動　内　容

① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営

・　開催計画、議題および資料等の整理、議事メモの作成等を行った（計22回）。

② 学部棟・看護福祉棟等施設・備品の整備

・ 例年同様、社会福祉学部棟３階４階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保・調整を行った。
・ 学部内の各委員会及び先生方に対し、ペーパーレス化への取組みを呼びかけた。
・ 次年度リソグラフ契約終了に伴い､今後の運用について協議した結果､更新は行わず、コピー機２台とリソグラフ１台の体制へ移行することが決定した。
・ 学部関連の設備では、E209教室を学生自習用スペースおよび備蓄食料の保管場所として再整備した。また、E311教室のレイアウト変更・整備、E401教室の旧式の机・椅子を入れ替え、E110教室には面談室を新設した。さらに、福祉調査実習室のパソコンを新たに購入し直し、教育備品の充実化を図った。

③ 学部日常事務の対応

・ 寄贈資料･郵便物の整理、回覧等の仕事に対応した。

④ 『令和６年度社会福祉学部報』発行

・ 令和６（2024）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料・第27号）を本学社会福祉学部ホームページに公開した。

⑤ 学生教育用図書・資料等の充実

・ 学部･大学院の学生教育用予算等を活用して､図書館を通じて定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。
・ 国家試験対策用図書や学内実習用教材、社会福祉に関する基礎文献等を福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。

⑥ 研究室の整備と学部備品の確認等

・ ３名の教員が新たに加わることを受け、施設課と研究室の整備を計画的に進めた。
・ 学部事務と相談して、E104倉庫およびE416非常勤講師控え室に置いている学部備品の仕様目的と仕様状況を確認した。また、湿度が高い時期は、コピー機が詰まりやすくなるため、湿度対策を行った。

２．今 後 の 課 題

令和６年度においても、教務委員会や実習委員会等と連携し、予算の執行状況を常に確認することで、適切な予算執行に努めた。また、学生の学習環境の整備は継続的に行う必要があり、特に対面授業における学生の就学支援として予算を確保する必要がある。実習先によっては、引き続きマスク等の感染対策への準備を依頼される場合もあった。

先生方のご理解とご協力により、資料の電子化を進めることができた。今後も電子化可能な資料と、紙での配付が不可欠な資料を区別する必要がある。学部の備品については、今後も状況把握に努め、リストを作成しておくことが必要である。

国試対策支援委員会

行 貞　伸 二

○本年度の取り組み

本年度の国試対策支援委員会は、田中講師、稲垣助教、乾助教、上杉助教、大熊助教、玉利助教、山本助教、行貞が構成し、委員長を行貞が担当した。

（１）４回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③過去問解答・模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤ソ教連などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

月	概要
４月	国家試験に関するガイダンス（4/7）
５月	国試対策週間（過去問4/28-5/18）・参考等テキスト購入
６月	国試対策週間（過去問6/2-6/22）
７月	国試対策週間（過去問7/1-7/21）
８月～９月	「受験の手引」解説・模擬試験（介護福祉士8/8） 「受験の手引」解説（Moodle：社会福祉士・精神保健福祉士8/27）
10月	模擬試験（高知県社会福祉士会10/11） 介護福祉士国試対策講座（10/28） 模擬試験（日本ソーシャルワーク教育学校連盟10/30・31）
11月	国試対策講座、個別面談
12月	卒業生による受験体験報告（12/19） 介護福祉士模擬試験（12/1）解説・国試対策（12/11） 受験対策直前web講座周知 模擬試験（中央法規12/22）
１月	学内国試対策勉強会（1/7・1/8）、個別面談 介護福祉士国家試験（1/25）
２月	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験（1/31・2/1）、自己採点集計（2/13）
３月	合格発表（社会福祉士・精神保健福祉士3/3、介護福祉士3/16） 卒業後の手続きに関する説明・資料配布（3/19）

（２）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内・送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

（３）2025年度の国家試験合格率

１）社会福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
74	72	97.3%	66	66	100%	8	6	75.0%

合格順位：全国 6 位（既卒含）、全国 1 位（新卒のみ）／231 校（総数での学校数）
合格基準点：50 点（満点 129 点）
全国平均合格率：60.7%
合格順位：全国 1 位／46 校（受験者 50 名以上・新卒）

２）精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
25	25	100%	25	25	100%	0	0	—

合格順位：全国 1 位（既卒含）、全国 1 位（新卒のみ）／154 校（総数での学校数）
合格基準点：62 点（満点 132 点）
全国平均合格率：78.2%

３）介護福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
8	7	87.5%	8	7	87.5%	0	0	—

合格順位：全国 122 位（既卒含）、全国 232 位（新卒のみ）／281 校（総数での学校数）
合格基準点：64 点（満点 125 点）
全国平均合格率：70.1%

○今 後 の 課 題

本学部においてすでに定着している国試対策支援を今年度も踏襲する形で実施した。学生主体で行う国試対策講座を録画、YouTubeにアップし、後日いつでも動画を視聴して学習できるようにした。また、個別面談を後期に実施し、必要に応じて定期的に相談・助言を行うなどした。その結果、今年度は社会福祉士の合格率がはじめて100%を達成し、精神保健福祉士の合格率は100%を維持することができた。全体の好成績は学生個々の努力の賜物である。今後も引き続き、国試対策支援の課題を整理しながら、学生の国試合格に向けたバックアップ体制を充実させていきたい。

Ⅳ

学生を中心とした活動

社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士

国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

今年の国試対策講座では、まず学生の苦手科目をアンケートで把握し、その結果をもとに先生方が講義をしてくださいました。これまでの出題傾向や法改正のポイントをまとめた資料も用意していただき、今年出題されそうなテーマやキーワードをしっかり理解することができました。

私は講座が始まった時期に国試の勉強を開始したため、内心とても焦っていました。
しかし、先生方が要点をまとめ、丁寧に解説してくださり、各分野の勉強方法も教えていただいたことで、安心して効率よく学習を進めることができました。

また、基本は対面での講義でしたが、国試対策委員の学生が録画をし、YouTube に公開してくれていた講義がほとんどだったので、後日見返すこともできました。自分が受講できなかった回も復習でき、分からなかった部分をそのままにせず理解し直すことができたのは、とてもありがたかったです。

国試対策について

昨年に引き続き、学内での国試対策勉強会も行いました。国試直前に 9 時から 17 時までゼミ室や各教室を使って、それぞれが自習を進める形でした。

ずっと一人で勉強していると、過去問を繰り返し解き直し、答え合わせをするという「作業」のような感覚になってしまう時もありました。元々勉強が苦手で、集中力も続かず、場所を変えながら、なんとか取り組んでいました。しかし、それだとちゃんと暗記できていなかったり、勉強が嫌になってしまう時期もありました。そこで勉強会では、「みんなで支え合うこと」を意識して、友人同士で分からない所を教え合うような形で学びました。人に説明することで理解が深まり、インプットだけでなくアウトプットもできたことで、より知識が定着したと感じています。また、一緒に頑張る仲間がいることで刺激にもなり、モチベーションの維持にもつながりました。みんなで支え合いながら勉強することで、勉強に対するハードルも下がったように感じます。

後輩のみなさんへ

趣味や息抜きの時間を大切にしてください。私は精神コースだったのですが、３回生の後期から一気に忙しくなったように感じています。実習の段取りや打ち合わせもすべて自分で取組み、報告書や日々の記録の作成、就活との両立がとてもしんどかったです。

やらなければいけないことが増えて、理不尽で辛い思いをするときもあるかもしれません。そんな時は何より自分を大切にし、心も体も休めてください。友達や家族にたくさん愚痴を聞いてもらったり、美味しいものを食べたり、リフレッシュする時間を大切にしてほしいです。焦らず、自分のペースで一生懸命頑張ればゆっくりと結果は出るし、誰かが評価してくれます。１年間本当にあっという間だと思いますが、友人と支え合いながら授業や就活に取り組む時間を大切に過ごしてほしいです。

みなさんが充実した大学生活だったと思えるよう、私も応援しています。無理しすぎず、全力で頑張ってください！

P シスターズ

地域活動サークル「P シスターズ」です。私たちは、本学「立志社中」のプロジェクトに加入し、高知県内の６つの地域（高知市三里地区、安芸市東川地区、津野町船戸地区、仁淀川町別枝地区、三原村、土佐清水市斧積地区）で地域活動を行いました。①学生と地域住民が協働し、地域コミュニティの活性化をめざす②よりよい地域にするためのネットワークづくりに貢献するという２つの理念のもと、その地域ならではの良さを生かした地域づくりを住民の方とともに行っています。

【高知市三里地区】

高知市三里地区では地域住民の方々と話し合いを重ねながら夏祭り、認知症カフェ、避難訓練、餅つき大会など幅広い活動に参加させていただきました。夏祭りではかたぬきの出店と個別での聞き取り調査を行い、地域で暮らす住民の方の実際の声からニーズを知ることができました。また、餅つき大会では昨年度と同様にお餅と学生が作成したメッセージカードを添えて配布し、当日会場に来られなかった住民の方とも交流できました。

【土佐清水市斧積地区】

土佐清水市斧積地区では地域福祉交流会としてグループワークを実施しました。テーマは「斧積地区での課題や困りごととその解決に向けた取り組み」であり、住民の方と学生で意見交換を行いました。「地域でちょっとした困りごとを頼める人がいない」「住民同士で顔を合わせる機会が減っている」などの意見をもとに地域内での支え合いの方向性について話し合うことができました。一方で議論は地域の弱みに焦点が当たって進められました。しかし実際は斧積地区に伺ってみて、多くの強みや魅力を感じました。今後は地域資源や魅力を活かした取り組みのための視点も大切にしていきたいです。

本活動を通して、地域住民の方と交流することで学生だけで知り得なかった地域の実情やニーズなどを知ることができました。また、地域の方から「若い人と話せて元気が出た」「また来てね」などといったお言葉を頂戴するなどしてつながりの温かさを実感しました。本活動の経験を活かし、今後も地域福祉実践において住民主体で協働し、持続可能なより良い地域づくりに貢献してまいります。

イ ケ あ い

2012年より活動を開始した、イケあい地域災害学生ボランティアセンター（以下：イケあい）は、東日本大震災の復興ボランティアに参加した学生らによって作られた防災ボランティアサークルです。

団体の活動目的は、災害時に大学周辺での被害を最小限にとどめ、いち早く復旧させることです。そのために、災害時にスムーズに支援に入れるよう日頃から地域との信頼関係を築くことや、災害ボランティアセンターで中核となれる人材を育成すること、活動や情報の発信によって地域や大学での防災啓発等を行っています。

今年度はさまざまなイベントに参加し、昨年度に引き続き、能登半島地震で被害にあった石川県へボランティア活動に行くことができました。現地では２つのグループに分かれ、被災された方々と蒸しパン作りやちぎり絵の作成を行い、交流を深めながら充実した時間を過ごしました。

また、高知県を訪れた修学旅行生に向けて、未だ被災していない池周辺地域を巡りながら危険個所について説明する「未災地ツアー」を実施するなどの活動に取り組みました。

今後もこれまでの活動を継続するとともに、地域との信頼関係を築いていくためのボランティアやイベントを企画していきたいと考えています。

か ん き も ん（土佐弁：元気者）

かんきもんは、障害の有無や住んでいる地域に関係なく子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすいコミュニティ、『地域共生社会』を目指して活動しています。今年度の活動は、「援農」「シグマ」「タウンモビリティ」「学習支援」「傾聴」「YCPK」の 6 部門全てが、活発に新しい活動を交えながら活動を行うことができ、多様な人々との関わりから学びを深め、地域との繋がりや信頼関係を築くことができました。

〇援農

援農では、昨年度と同様に四万十市でバラ園の清掃活動や田植え、稲刈りを行い、安芸市ではゆずや入河内大根の収穫、そして日曜市での販売を行いました。これらの活動に加え、今回新たに自分たちでさつまいもを育てるプロジェクトを開始しました。紅葉祭では去年販売した栗おにぎりと共にさつまいもおにぎりとして販売し、一から作物を育てる難しさを経験したと同時に、地域の活性化に繋がりました。また、活動することで地域の課題など率直な話を伺うことができ、表面的ではない深い学びができました。

〇シグマ

シグマは、子ども食堂の活動を行っています。2025 年度は maruco キッチンと室戸屋ジローの 2 つの場で子ども食堂のお手伝いを行い、子どもたちと一緒に食事を作り、触れ合う機会を多く持つことができました。ハロウィンやクリスマスなどのイベントがある月には、子ども達にお菓子のプレゼントをし、季節の行事を楽しみました。また子どもたちだけでなく、保護者の方や地域の方とも交流でき、とても活気ある活動となりました。

〇タウンモビリティ

毎月 NPO 法人「ふくねこ」の利用者と対面や zoom で交流を行いました。片麻痺,視覚障害,引きこもり,車椅子ユーザーなど様々な当事者の声を聞き、学生や支援者と共に意見を深め合うことで、机上だけでは分からない当事者理解につなげることができました。また、七夕とクリスマスには学生が企画したイベントを実施し、障害があっても楽しめるゲームなどを考えながら作り、交流を通して楽しみながら関係づくりを行いました。

さらに、福祉機器展にボランティアとして参加し、メーカーさんや支援者の視点を勉強させていただきました。

〇学習支援

今年度から活動場所を変更し、太平洋学園高等学校で学習支援を行いました。主に宿題やテスト勉強のサポートをし、必要があれば受験のための面接練習なども学校の先生を手伝う形で参加しました。また、勉強のサポートだけでなくコミュニケーションを取りながら居心地の良い学習環境を作ることにも努めました。今後も学習と環境の両方の面で関わりを持っていきたいと考えています。

〇傾聴

昨年度は、主な活動であるグループホームでの傾聴活動に加え、傾聴講習会も行いました。傾聴講習会で学んだ「利用者様一人ひとりに耳・目・心を傾ける」という基本姿勢を、グループホームでの活動の中で実践しました。グループホームの利用者様から「楽しかった」「また来るのを待っている」と言っ

たお言葉をいただくことができました。今年度も引き続き、技術の向上に努めていきたいと考えています。

〇YCPK：(Young Crime Prevention in Kochi)

　高知東警察署と連絡を取りながら、少年犯罪、防犯に対する意識の向上に取り組んでいます。また地域の小学校に読み聞かせやイベントを通して、子どもたちの成長の一助になる活動を行なっています。

V

卒業論文題目一覧(2025年度)

令和7年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

題　　目
農福連携における農閑期対策に関する考察－就労継続支援B型事業所を利用する精神障害者のQWLの視点から－
障害児のスマートフォン所持の現状と理想的なスマートフォンとの付き合い方
障害者雇用の促進における福祉職の役割-企業への働きかけについて-
問題行動を呈する児童に対する支援の実践―ガイドラインと事例研究からの示唆―
制度とニーズの乖離に直面する若年層の妊娠の中絶―未成年を起点とした実態分析と包括的支援体制の提案―
子どもの食生活を支える子ども食堂－高知県の現状と課題－
障がい者の舞台芸術への参加に関する高知県を中心とした現状と課題・解決策の検討 ―すべての人が等しく舞台芸術を享受できるようにするために―
「療育による 8050問題の予防と障害者世帯の支援の可能性」
発達障害児に対する二次障害への早期支援の研究
視覚障害のある人の観光における福祉的支援
児童養護施設における対話のあり方ー子どもが抱える生きづらさの解消を目指してー
児童養護施設におけるトランスジェンダーの子どもへの支援
介護殺人における介護者支援の課題について―老老介護に着目して―
デートDV予防教育におけるピアエデュケーションのあり方ーA大学ジェンダーサークルの取り組みを事例としてー
認知症の親を支える家族の語りから学ぶ福祉職のアプローチ
認知症対応型グループホームにおけるレクリエーションの効果と課題
児童自立支援施設における非行少年に対する「基本的信頼」の構築のための支援について
児童養護施設で生活する子どもの意見表明を促進する環境づくり
高齢者デイサービス特有の利用者間トラブルを支援者はどう捉えるのか
周産期医療のソーシャルワーカーによる退院支援の研究
生活保護ケースワーカーの専門性と支援意識に関する研究-グループインタビューによる社会福祉士資格の有無の比較を通じて-
急性期病院のMSWが用いる面接技法の習得方法に関する研究
高知県の入退院支援事業における医療ソーシャルワーカーの役割・専門性について
自閉スペクトラムを持つ高校生の進路支援
高知県郡部地域で出産と子育てを決断した母親への支援実態の研究～高知県A町における保健師の実践の分析から～
社会福祉学部生が福祉職を志望しない理由に関する質的調査－進路選択の背景と語りに着目してー
障害のある兄弟姉妹を支えるきょうだい児の未来像－親なき後をどう考えるかー
「生きづらさ」を抱えるすべてのこどもが安心して暮らせる地域をめざして―インクルーシブ教育の重要性と地域での包摂的支援について―
児童虐待における保護者支援とその課題
高知県の介護現場における職員の方言使用と信頼関係
生活保護ケースワーカーの専門性と支援意識に関する研究-グループインタビューによる社会福祉士資格の有無の比較を通じて-
自己治療仮説に基づくアルコール依存症支援―生活支援を行う事業所における精神保健福祉士の専門性に着目して―
自閉スペクトラム症児をもつ母親の育児ストレス-愛着形成困難の視点から-
糖尿病治療継続に対する支援の在り方
災害時における社会福祉士の役割－多職種の視点を交えてー
児童相談所における一時保護所職員の専門性

子ども主体の支援における対話の重要性ー支援者と保護者の対話に着目してー
暮らしの保健室の役割と効果～高知市三里地区で地域福祉活動の拠点を目指す薬局の取り組み～
利用者が安心できる居場所の要素とは何かー引きこもり支援拠点における職員と利用者の視点を比較してー
医療的ケア児と家族の成人後の支援について―支援者と養護者の語りから見える現状と課題―
世代間交流が認知症家族介護者にもたらす心理的影響
障害者虐待における福祉事務所担当課の検討内容に関する研究
インバウンド向けの宿泊施設としての空き家活用可能性ー地域振興への貢献ー
就労継続支援B型事業における工賃向上の実現条件に関する研究ー成功事例と伸び悩み事例の比較分析からー
家族との同居が困難な触法精神障害者の居住地確保支援における実態と課題
治療の副作用による脱毛が高校生以下の患者に与える心理的・社会的影響
児童虐待における家族再統合後の虐待再発防止を目指した保護者支援の実践と課題
障害者スポーツと障害者に対する認識の関係性
インターネット等による犯罪の予防とその課題―白いポストの実態を起点として―
雑談のケア的機能についてーオープンダイアローグの視点からー
在宅での老老介護から起きる介護殺人に関する研究-中途障害が介護者にもたらす影響に着目して-
海外と比較した日本の精神障害者家族の支援に関するー考察
医療ソーシャルワーカーにおける地域活動の実際とその思い
在宅でのノーリフティングケアの導入・活用に関するー考察-在宅への普及を目指して-
コミュニティカフェにおけるピアサポートがもたらす参加者への心理的・社会的影響ー当事者を対象としたインタビューー調査ー
日本における実践的なインクルーシブ教育について
地域祭礼に見る伝統文化継承の意義と社会参加の可能性-保存会メンバーへのインタビューを通して-
少年院・児童自立支援施設におけるソーシャルスキルトレーニングの課題と可能性-再犯防止にとどまらない社会復帰支援と対人関係の構築に向けて-
小中学生に対する性的マイノリティへのマイクロアグレッション防止教育について
福祉的視点から考える不登校児童生徒に寄り添った関わり方
デートDVの自覚がありながらも抜け出すことのできない被害者への支援ー女性相談支援センターの支援者への調査からー
一時保護所職員の専門性ー児童養護施設職員と比較してー
医療現場におけるろう者の情報保障を支える手話通訳者
地域活動における地域住民と専門職との協働ー地域活動の意識の差に着目してー
SOSが出せない若年層に対する自殺予防支援ー言語化できない思いに寄り添うソーシャルワーカーの姿勢とはー
知的障害者が家庭を築いていくなかで直面する困難ー差別感や偏見の視点からー
居場所と子どもの居場所づくりに対するー考察
社会復帰調整官に求められるソーシャルワークの意義と課題
児童相談所における児童福祉司へのスーパービジョンの効果と課題
実現可能な「地域生活中心」の社会をつくるために―国、精神障害を抱える当事者、家族、地域、支援専門職等が描いている「地域生活中心」の社会の在り方のずれに着目して―
避難所運営における性の多様性配慮の現状と課題ー新聞記事・証言・支援団体資料にみる避難所の課題ー
こどもを対象とした相談窓口についての研究―支援が必要なこどもが相談しようと思える窓口とは―

編 集 後 記

社会福祉学部報第28号をお届けします。

本学部報は、令和７年度における社会福祉学部の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会および学生による活動実績などをまとめたものです。皆様にぜひご一読いただければ幸いです。

振り返ると令和７年度は、次年度の BYOD 化に伴う学生の PC 環境準備や、学部の教員定数の充足等、教育体制をさらに整えた年となりました。また、配属実習につきましても、概ね予定通りに終えることができました。ご尽力を賜りました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

また、学生のサークル活動やボランティア活動等の課外活動についても、学生の地域貢献への意識がさらに高まり、地域の方々と積極的に関わる機会が増えました。

４回生の国家試験の結果についてご報告いたします。社会福祉士および精神保健福祉士の合格率は100％（新卒のみ）、介護福祉士の合格率は、87.5％（新卒のみ）でした。学生たちは、持てる力を存分に発揮して試験に臨み、このようなすばらしい結果を収めました。次年度も学部による国家試験の合格へのサポートを継続いたします。

社会福祉学部は、学部創設以来、福祉における現代的な課題を見据え、深い人間理解と人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識、実践的知識、そして実践的技能を教育・研究している学部です。社会福祉学部のディプロマポリシーやカリキュラムポリシー、アドミンションポリシーにあるように、三福祉士の専門職養成だけでなく、変化する社会状況下でも思考し行動できるような教育を目指しています。

今後とも、社会福祉学部の教育にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉学部総務委員会　辻　真美

高知県立大学社会福祉学部報

第27号

発行日：2026年6月1日

発行者：長澤 紀美子（学部長）

編 集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515　高知県高知市池2751-1

Tel　088-847-8700（大学代表）

Tel　088-847-8757（学部代表）

Fax　088-847-8672（学部専用）